

# 米に関するマンスリーレポート

(平成29年10月号)



「すぐ分かる米政策改革！」米政策の見直しについて解説する動画を公開しています！  
[http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome\\_seisaku\\_kaikaku.html](http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome_seisaku_kaikaku.html)

## 【本資料の目的】

本レポートは、米に関する価格動向や需給動向に係るデータを集約・整理し、毎月定期的に公表することによって、需給動向を適切に反映した米取引に資することを目的としています。

## 【利用上の注意】

1. 本レポートは、原則として公表2営業日前までの公表資料を反映しています。
2. 本レポートは、今後、必要に応じて項目の追加・削除などの内容を変更することがあり得ます。

農林水産省

# コメ海外市場拡大戦略プロジェクト (平成29年9月8日公表)

我が国のコメの消費量が毎年約8万トン減少していく中で、食料自給率・食料自給力の向上や米農家の所得向上を図っていくためには、海外市場に積極的に進出し、輸出を拡大していくことが喫緊の課題。

→ コメ・コメ加工品の輸出目標「600億円」の目標年次である平成31年に向け、コメの輸出量を飛躍的に拡大するため、戦略的に輸出に取り組む関係者を特定し、それらが連携した個別具体的な取組を強力に後押しする。

## (1) 戦略的輸出事業者

平成31年に向けた飛躍的な輸出目標を掲げ、コメ輸出の戦略的な拡大に取り組む輸出事業者を「戦略的輸出事業者」として特定。



「戦略的輸出事業者」と連携して、輸出用米の安定的な生産に取り組む「戦略的輸出基地」づくりを推進

「戦略的輸出事業者」等と連携したプロモーション等により、輸出先国における日本産米の需要を拡大

産地と事業者の結びつきの強化・拡大

連携したプロモーション等の実施

## (2) 戦略的輸出基地(産地)

輸出産地としての取組方針を掲げ、輸出用米の安定的な生産に取り組む産地(法人・団体)を「戦略的輸出基地」として特定。



コメ輸出の飛躍的拡大

目標：10万トン<sup>(※)</sup>

## (3) 戦略的輸出ターゲット国

「戦略的輸出事業者」が輸出を拡大する国を中心に、重点的にプロモーション等を行う「戦略的輸出ターゲット国」を特定。

→ 中国、香港、シンガポール、米国、EU等



(※) 米菓・日本酒等の原料米換算分を含む。

## コメ海外市場拡大戦略プロジェクトについて（今後の予定と参加方法）

### ○ 今後の予定

10月中を目途に「戦略的輸出事業者」、「戦略的輸出基地」、「戦略的輸出ターゲット国」のリスト等を公表し、それらが連携した個別具体的な取組を推進します。

### ○ 本プロジェクトの参加について

#### （1）戦略的輸出事業者

本プロジェクトへの参加を希望する輸出事業者（これまでにコメの輸出実績を有し平成31年の輸出目標として50トンを設定している業者に限る）は、様式1に沿って「コメ輸出拡大プラン（輸出事業者用）」を作成し、次ページの提出先まで提出してください。

#### （2）戦略的輸出基地

本プロジェクトへの参加を希望する産地（団体・法人）は、様式2に沿って「コメ輸出拡大プラン（輸出事業者用）」を作成し、次ページの提出先まで提出して下さい。

応募様式は、農林水産省ホームページの下記URLよりダウンロードできます。  
(Wordファイル形式)(ダウンロードはこちらから)

[http://www.maff.go.jp/j/press/seisaku\\_tokatu/kikaku/170908.html](http://www.maff.go.jp/j/press/seisaku_tokatu/kikaku/170908.html)

### ○ 募集期間

第1弾締切：平成29年10月20日（金曜日）まで

※ 上記期間の後に提出した場合でも、本プロジェクトに参加できます。

### ○ お問い合わせ先

農林水産省政策統括官付農産企画課（担当者：小川、林、福江）

Tel：03-3502-8111（代表）

03-6738-8964（直通）

Fax：03-6738-8976

# 今週の特集①

## 平成29年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況

(平成29年9月29日公表)

- ・ 主食用作付見込面積は137万ha（前年産差 1.1万ha）の見込み
- ・ 10a当たり予想収量は534kg（前年産差 10kg）の見込み

### 調査結果の概要

- 1 平成29年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は160万haとなり、前年産に比べ1.1万haの減少が見込まれる。うち主食用作付見込面積は137万haとなり、前年産に比べ1.1万haの減少が見込まれる。
- 2 9月15日現在における水稻の作柄は、田植期以降おおむね天候に恵まれたため、全もみ数は一部を除き「平年並み」ないし「多い」となったものの、登熟は東北太平洋側及び関東を中心に7月下旬から8月にかけての日照不足等の影響が見られたことから、全国の10a当たり予想収量は534kgとなった。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の作況指数は100となる見込み。
- 3 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は731.3万トンで、前年産に比べ18.3万トンの減少が見込まれる。

### 平成29年産水稻の作付面積及び9月15日現在の10a当たり予想収量(全国農業地域別)

全国農業地域	作付面積(青刈り面積を含む。)			10a当たり予想収量		参 考	
	実 数	前年産との比較		実 数	前年産との比較	主食用作付見込面積	予想収穫量(主食用) = ×
		対 差	対 比				
	ha	ha	%	kg	kg	ha	t
全 国	1,600,000	△ 11,000	99	534	△ 10	1,370,000	7,313,000
北 海 道	106,900	△ 1,400	99	560	9	98,600	552,200
東 北	412,500	△ 1,500	100	565	△ 11	334,300	1,885,000
北 陸	212,500	△ 900	100	530	△ 37	180,100	954,800
関東・東山	300,700	△ 2,400	99	532	△ 10	257,400	1,370,000
東 海	101,400	△ 600	99	498	△ 16	90,500	450,500
近 畿	106,000	△ 1,000	99	509	△ 7	99,400	505,800
中 国	111,700	△ 1,500	99	526	0	101,200	532,700
四 国	52,900	△ 1,200	98	486	△ 6	49,500	241,300
九 州	194,500	△ 1,000	99	515	8	158,700	818,500
沖 縄	727	△ 58	93	…	…	727	2,250

- 注：1 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。  
 2 主食用作付見込面積及び予想収穫量（主食用）については都道府県ごとの積み上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。  
 3 沖縄県の10a当たり予想収量は第二期稲が出穂前であるため「…」で示しており、予想収穫量（主食用）の算出には10a当たり平年収量を用いた。

- ・ 都道府県別の平成29年産水稻の作付面積、10a当たり予想収量及び作柄概況については、55頁に掲載。
- ・ 「平成29年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況」公表資料は下記アドレスにてご覧いただけます。  
[http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou\\_kome/index.html#y](http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y)

# 平成29年産米の作付状況等について

(平成29年9月29日公表)

- ・ 3年連続で超過作付け解消
- ・ 主食用米から戦略作物等への転換が引き続き進んだ

## 取りまとめ結果

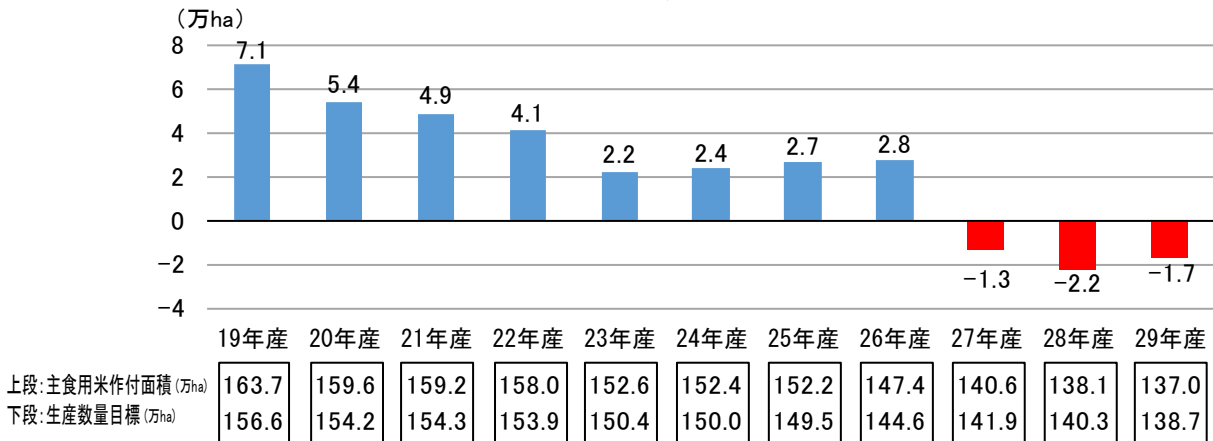
### 1 平成29年産米の作付状況（平成29年9月15日現在）

平成29年産の新規需要米や加工用米等の取組計画の認定結果及び作付状況を取りまとめた結果、**平成29年産の全国の主食用米の作付面積は137.0万ha**となり、全国の生産数量目標138.7万haを1.7万ha、全国の自主的取組参考値を1.3万ha下回り、**3年連続で超過作付が解消**された。

### 2 平成29年産戦略作物等の作付状況（平成29年9月15日現在）

平成29年産の加工用米及び新規需要米の取組計画の認定結果及び地方農政局等による戦略作物等の作付状況の聞き取り結果を取りまとめた結果、**主食用米から戦略作物等への転換が引き続き進み、多くの作物で作付面積が増加**した。

超過作付面積の動向



主食用米及び戦略作物等の作付面積の動向

	主食用米			戦略作物等							
	作付面積 ①	生産数量目標 ②	超過作付 ①-②	加工用米	米粉用米	飼料用米	WCS	備蓄米	麦	大豆	その他
27年産	140.6	141.9	▲ 1.3	4.7	0.4	8.0	3.8	4.5	9.9	8.6	10.1
28年産	138.1	140.3	▲ 2.2	5.1	0.4	9.1	4.1	4.0	9.9	8.8	10.2
29年産	137.0	138.7	▲ 1.7	5.2	0.5	9.2	4.3	3.5	9.8	9.0	10.5

注1：ラウンドにより差が異なる場合がある。  
 2：「その他」の内訳は、酒造用米、輸出用米、飼料作物、そば・なたね等  
 3：加工用米及び新規需要米は取組計画の認定面積  
 4：米以外の戦略作物等（基幹作のみ）は、27及び28年産は交付金支払実績面積で、29年産は地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に関与した面積

(参考) 都道府県別の超過作付の状況

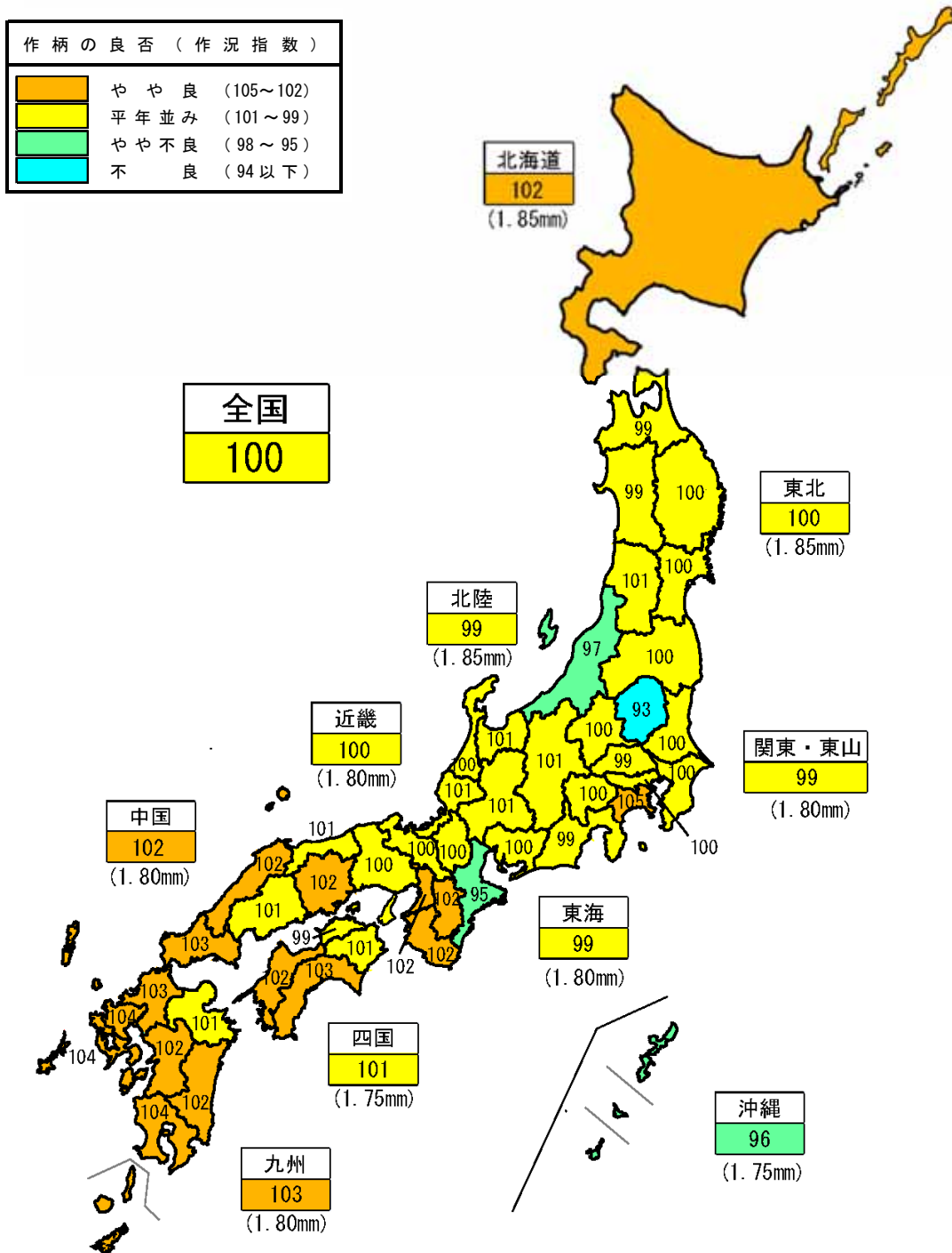
- 平成29年産の超過作付面積は▲1.7万haで、主食用米の作付面積が生産数量目標を下回った県は36都道府県、自主的取組参考値まで下回ったものは36都道府県。

(ha)

都道府県	28年産		29年産			
	主食用米 作付面積	超過作付	生産数量 目標	主食用米 作付面積	超過作付の状況	
					対生産数量 目標	対自主的 取組参考値
北海道	99,000	▲ 1,434	98,985	98,600	▲ 385	▲ 115
青森県	36,800	▲ 4,279	40,580	38,000	▲ 2,580	▲ 2,470
岩手県	47,100	▲ 3,245	49,734	47,000	▲ 2,734	▲ 2,599
宮城県	63,600	▲ 1,442	64,311	63,500	▲ 811	▲ 636
秋田県	69,300	▲ 2,852	71,349	69,500	▲ 1,849	▲ 1,655
山形県	56,800	▲ 475	56,661	56,400	▲ 261	▲ 106
福島県	60,100	▲ 22	59,562	59,900	338	505
茨城県	67,200	3,502	63,012	66,400	3,388	3,560
栃木県	53,600	▲ 1,124	54,134	53,600	▲ 534	▲ 387
群馬県	14,100	▲ 1,064	15,011	13,900	▲ 1,111	▲ 1,070
埼玉県	31,200	611	30,267	30,700	433	516
千葉県	53,900	8,318	45,091	53,300	8,209	8,331
東京都	151	▲ 34	183	141	▲ 42	▲ 42
神奈川県	3,110	220	2,859	3,090	231	239
新潟県	101,500	4,424	95,825	100,300	4,475	4,732
富山県	33,800	▲ 405	33,710	33,300	▲ 410	▲ 318
石川県	23,200	▲ 366	23,301	23,200	▲ 101	▲ 38
福井県	23,600	▲ 314	23,658	23,300	▲ 358	▲ 294
山梨県	4,940	▲ 19	4,907	4,880	▲ 27	▲ 14
長野県	31,700	801	30,574	31,300	726	809
岐阜県	21,700	▲ 860	22,317	21,500	▲ 817	▲ 757
静岡県	15,800	54	15,576	15,600	24	66
愛知県	26,900	565	26,050	26,600	550	621
三重県	27,000	▲ 1,396	28,091	26,800	▲ 1,291	▲ 1,214
滋賀県	30,200	▲ 445	30,315	30,000	▲ 315	▲ 232
京都府	14,300	▲ 415	14,558	14,100	▲ 458	▲ 419
大阪府	5,310	64	5,190	5,150	▲ 40	▲ 26
兵庫県	35,400	▲ 40	35,235	35,100	▲ 135	▲ 40
奈良県	8,680	634	7,954	8,580	626	648
和歌山県	6,720	▲ 252	6,899	6,560	▲ 339	▲ 320
鳥取県	12,500	▲ 232	12,591	12,400	▲ 191	▲ 157
島根県	17,300	▲ 186	17,314	17,200	▲ 114	▲ 67
岡山県	29,200	▲ 621	29,500	29,100	▲ 400	▲ 320
広島県	23,400	▲ 1,185	24,321	23,100	▲ 1,221	▲ 1,155
山口県	19,800	▲ 1,265	21,129	19,300	▲ 1,829	▲ 1,771
徳島県	11,500	▲ 719	12,087	11,300	▲ 787	▲ 754
香川県	13,200	▲ 732	13,776	12,800	▲ 976	▲ 939
愛媛県	14,200	▲ 485	14,527	13,900	▲ 627	▲ 588
高知県	11,600	831	10,699	11,500	801	830
福岡県	35,400	▲ 778	35,932	35,100	▲ 832	▲ 734
佐賀県	24,600	▲ 1,789	25,787	24,400	▲ 1,387	▲ 1,316
長崎県	12,000	▲ 981	12,842	11,600	▲ 1,242	▲ 1,207
熊本県	32,500	▲ 3,848	36,116	32,200	▲ 3,916	▲ 3,818
大分県	21,100	▲ 2,048	22,882	20,900	▲ 1,982	▲ 1,919
宮崎県	15,500	▲ 3,132	18,469	15,000	▲ 3,469	▲ 3,419
鹿児島県	20,200	▲ 2,551	22,553	19,600	▲ 2,953	▲ 2,891
沖縄県	785	▲ 131	906	727	▲ 179	▲ 176
合計	138.1万	▲ 2.1万	138.7万	137.0万	▲ 1.7万	▲ 1.3万

## 全国農業地域・都道府県別作況指数（9月15日現在） 【農家等が使用しているふるい目幅ベース】

作柄の良否（作況指数）	
■	やや良（105～102）
■	平年並み（101～99）
■	やや不良（98～95）
■	不良（94以下）



注1：作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

2：徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県の作況指数は早期栽培、普通期栽培を合算したものである。また、沖縄県の作況指数は、第一期稲である。

## 今月の特集②

### 【平成30年産酒造好適米の需給見通し】 (酒造好適米の需要量調査結果等に基づく推計)

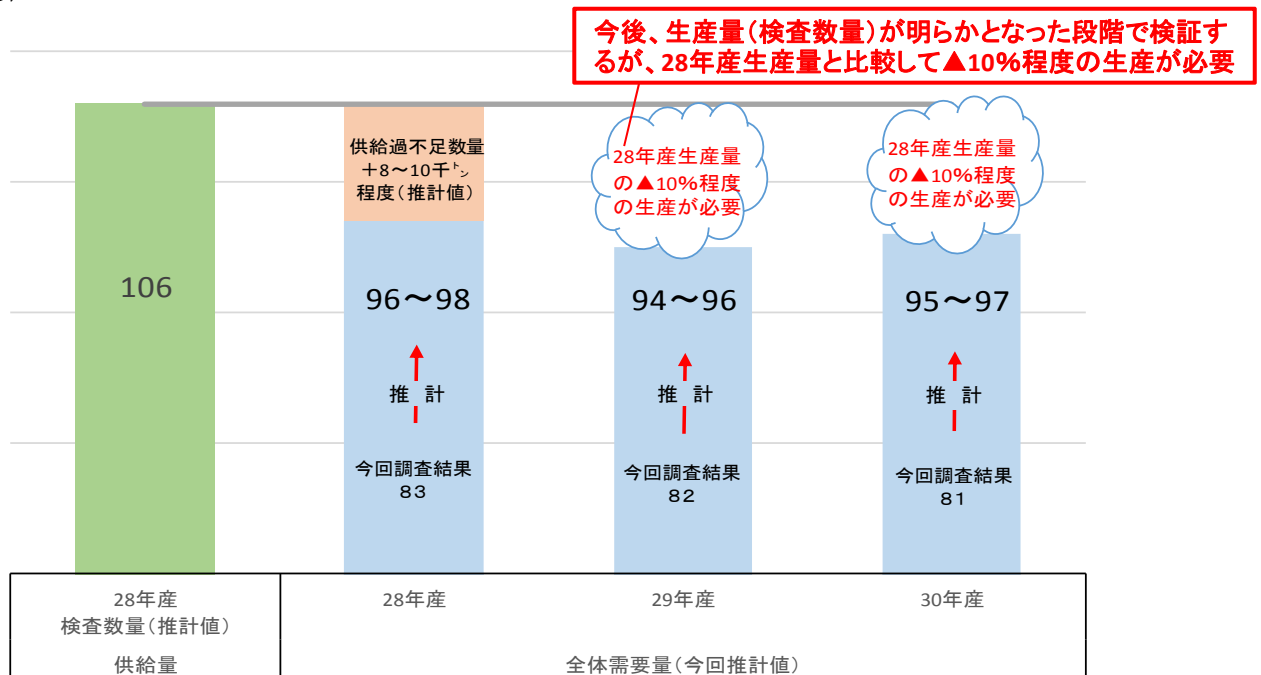
本年7月に実施した需要量調査、農産物検査数量及び関係者からの聞き取り等により推計した平成30年産酒造好適米の需給状況は以下のとおり。

#### 【平成30年酒造好適米の需給状況】

- ・ 平成30年産需要量は、平成29年産とほぼ同水準の95～97千トンの程度と見込まれる。
- ・ 平成29年産の供給過不足については、平成29年産の生産量(検査数量)がある程度明らかとなる来年1月以降に検証を行うこととするが、需給均衡のためには、平成28年産と比べて生産量を▲10%程度とすることが必要である。
- ・ 平成30年産については、平成29年産の供給過不足に応じて変動が生じると考えられるが、需要に応じた生産を行うためには、平成29年産と同様に平成28年産と比べて▲10%程度が生産とすることが必要と考えられる。

#### 酒造好適米の全体需給状況見通し(推計)

(単位:千トン)



※ 各年産の全体需要量の「今回推計値」は、今回調査結果(83千トン)／全体需要量(前回推計値)(98～100千トン)≒83～85%の比率により、今回の調査結果から全体需要量を推計。

#### 酒造好適米の需要に応じた生産に向けて

- ・ 酒造好適米については、近年、日本国内で製品当たりの米の使用量が多い特定名称酒が増加傾向にあるため、生産量は増加傾向にあります。
- ・ また、海外においても日本食ブーム等を背景に日本酒の輸出量は近年増加傾向にあります。
- ・ こうした中、平成30年産の作付けに当たっては、全体の需給見通しに加え、各産地でのこれまでの販売状況などを総合的に勘案の上、需要に応じた生産を行う必要があると考えられます。
- ・ また、よりの確な需要に応じた生産に資するためには、は種前に生産者と需要者が契約を行うことや複数年契約の取組の拡大を推進することが重要です。
- ・ したがって、今後とも日本酒の国内外での円滑な出荷・販売のためには、原料となる酒造好適米についても需給均衡化を図り、産地と実需者間で安定取引を図っていくことが重要です。



## 酒造好適米の需要量調査結果の概要

- ・ 昨年に引き続き、酒造好適米の需要量（見込）を把握するため、本年7月に需要量調査を実施。

## 酒造好適米の需要量調査結果

	28年度		29年度
	初回調査	追加調査	
調査期間	平成28年7月～9月	平成28年11月～12月	平成29年7月
調査対象メーカー数	1,500社	955社 ※ 初回調査で報告があった 酒造メーカー955社	1,442社
回答酒造メーカー数	955社	157社	811社
回答率	27年産数量ベースで 87～89%	変更が生じた場合のみ報告	28年産数量ベースで 83～85%

## 酒造好適米の需要量調査結果

## 平成27年産

本調査における平成27年産酒造好適米の需要量（実績）は、最近最も多い83千トンとなっている。これは、産地が生産拡大に取り組んだことや作柄も良かったことから、一部の酒造メーカーが当初の購入希望数量以上に購入したためと見られる。

## 平成28年産

本調査における平成28年産酒造好適米の需要量（実績見込）は、平成27年産と比較して約1千トン減少する82千トンとなっている。これは、平成28年産も引き続き需要量を上回る生産量となったため、平成27年産と同様に当初の購入希望数量以上に購入する動きもあったものの、平成27年産を購入希望数量以上に購入した分の在庫調整から平成27年産と比べ購入量を減らすケースがあったためとみられる。

## 平成29年

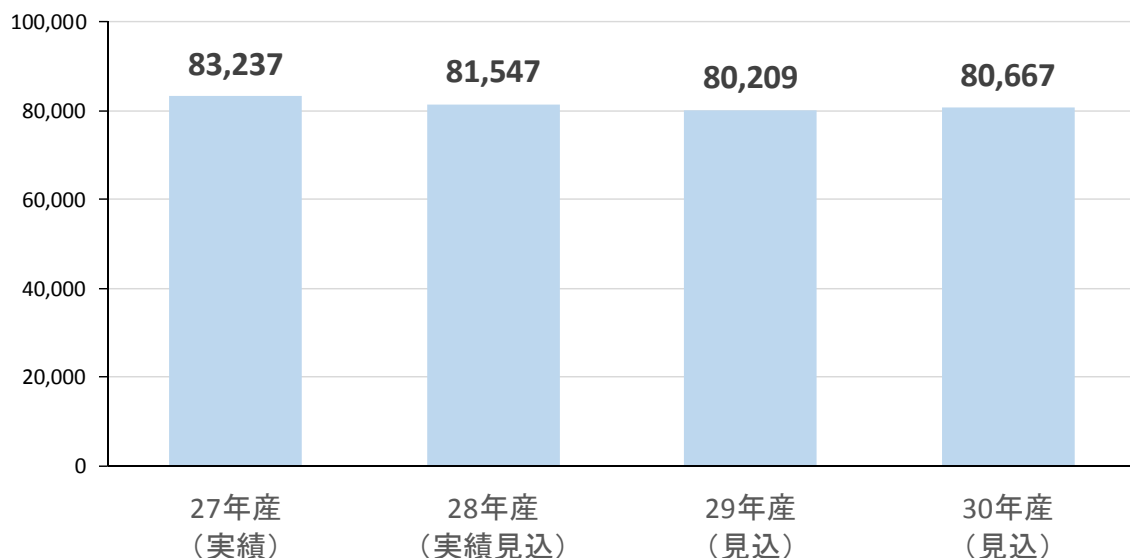
本調査における平成29年産酒造好適米の需要量（見込）は、平成28年産と比較して約2千トン減少する80千トンとなっている。これは、平成28年産において購入希望数量以上に購入した分の在庫調整によるものとみられる。

## 平成30年

本調査における平成30年産酒造好適米の需要量（見込）は、平成29年産から微増して81千トンとなっている。

(単位:ト)

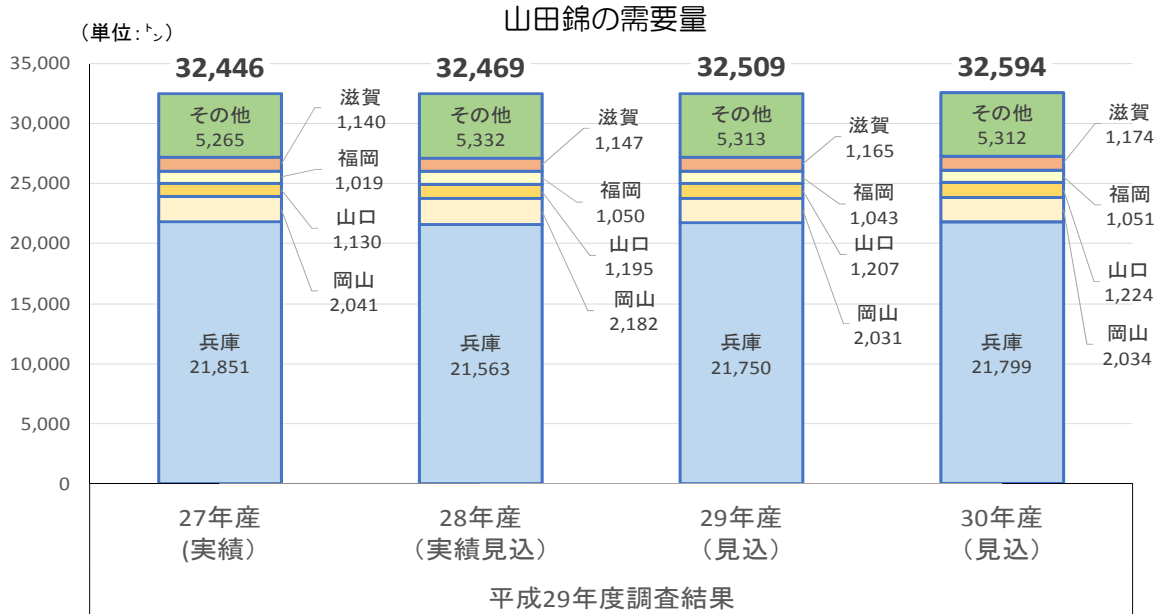
&lt;酒造好適米の需要量調査結果&gt;



主な酒造好適米の需要量調査結果(回答のあった酒造メーカーからの調査結果)

山田錦

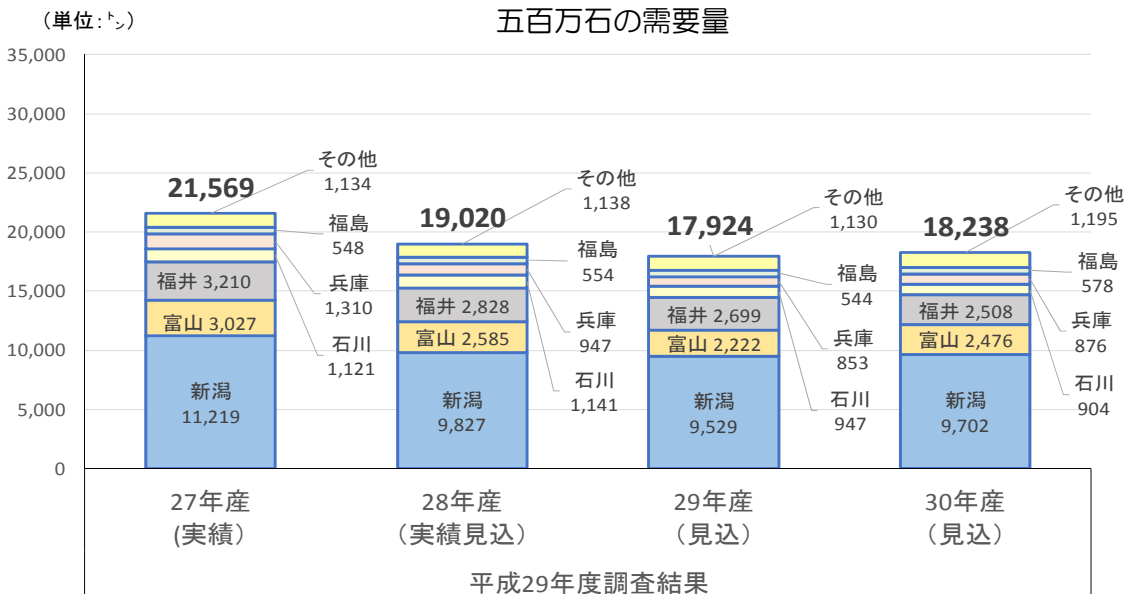
- 今回の調査における山田錦の需要量は、概ね安定して推移している。
- 産地ごとの需要量は、平成28年産の需要量(実績見込)を基準として平成30年産(見込)を比較した場合、滋賀、兵庫、山口県産の需要は増加するが、岡山県産の需要は減少するという結果。



(参考)山田錦の生産量(検査数量)  
 29,812 (26年産)    39,549 (27年産)    37,092 (28年産(速報値))

五百万石

- 今回の調査における五百万石の需要量は、やや減少傾向となっているが、平成30年産ではやや持ち直すと見込まれる。
- 産地ごとの需要量は、平成28年産の需要量(実績見込)を基準として平成30年産(見込)を比較した場合、福島県と主産地以外のその他の需要が増加するものの、新潟県をはじめとする主産地の需要は減少するという結果。



(参考)五百万石の生産量(検査数量)  
 22,596 (26年産)    27,078 (27年産)    24,747 (28年産(速報値))

## 継続して需要量(見込を含む)が増加している上位30産地品種銘柄

(単位:ト)

産地品種銘柄		27年産からの 増加量(注)	30年産		29年産		28年産		27年産
				前年との差		前年との差		前年との差	
1	北海道 吟風	251	1,343	23	1,320	127	1,193	101	1,091
2	山形 雪女神	124	135	7	128	77	51	40	11
3	北海道 彗星	105	388	7	381	59	322	39	283
4	熊本 華錦	95	107	12	95	59	36	24	12
5	岩手 吟ぎんが	95	590	30	560	8	551	57	494
6	山口 山田錦	93	1,224	17	1,207	11	1,195	65	1,130
7	福島 華吹雪	78	122	2	120	39	81	37	44
8	兵庫 愛山	61	484	16	468	9	459	36	423
9	北海道 きたしずく	58	207	14	193	39	154	5	149
10	長野 金紋錦	56	288	3	285	29	256	25	232
11	高知 吟の夢	47	177	6	171	10	161	31	130
12	三重 神の穂	37	141	6	134	10	124	21	103
13	愛知 夢吟香	35	68	5	64	9	54	21	33
14	滋賀 山田錦	34	1,174	8	1,165	19	1,147	7	1,140
15	山梨 夢山水	34	51	12	39	17	22	5	17
16	佐賀 さがの華	26	68	1	67	10	57	15	42
17	福岡 吟のさと	26	104	2	102	21	81	3	78
18	島根 改良雄町	24	97	14	83	4	79	5	74
19	秋田 美郷錦	23	146	8	138	1	137	14	123
20	埼玉 さげ武蔵	22	126	13	113	4	109	5	105
21	滋賀 吟吹雪	21	282	0	281	15	266	6	260
22	島根 佐香錦	18	85	12	73	2	71	4	67
23	鳥取 強力	17	109	3	105	3	102	11	91
24	山形 羽州誉	14	42	0	42	8	33	6	28
25	山梨 玉栄	13	39	5	34	6	29	3	26
26	新潟 一本ノ	12	74	1	73	4	69	7	62
27	新潟 越神楽	11	72	2	70	9	61	0	61
28	茨城 五百万石	10	41	3	38	5	33	2	32
29	兵庫 山田穂	9	49	3	46	2	44	4	39
30	兵庫 兵庫錦	9	19	1	19	4	15	5	10

注)「27年産からの増加量」は、各年の前年との差の合計数量である。

以上のほか、詳細な情報は、以下URLにより「日本酒をめぐる状況及び酒造好適米の需要量調査結果」を参照ください。

URL : [http://www.maff.go.jp/j/seisaku\\_tokatu/kikaku/sake.html](http://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html)

# 目 次

特集① 平成29年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況（平成29年9月29日公表）  
特集② 平成30年産酒造好適米の需給見通し

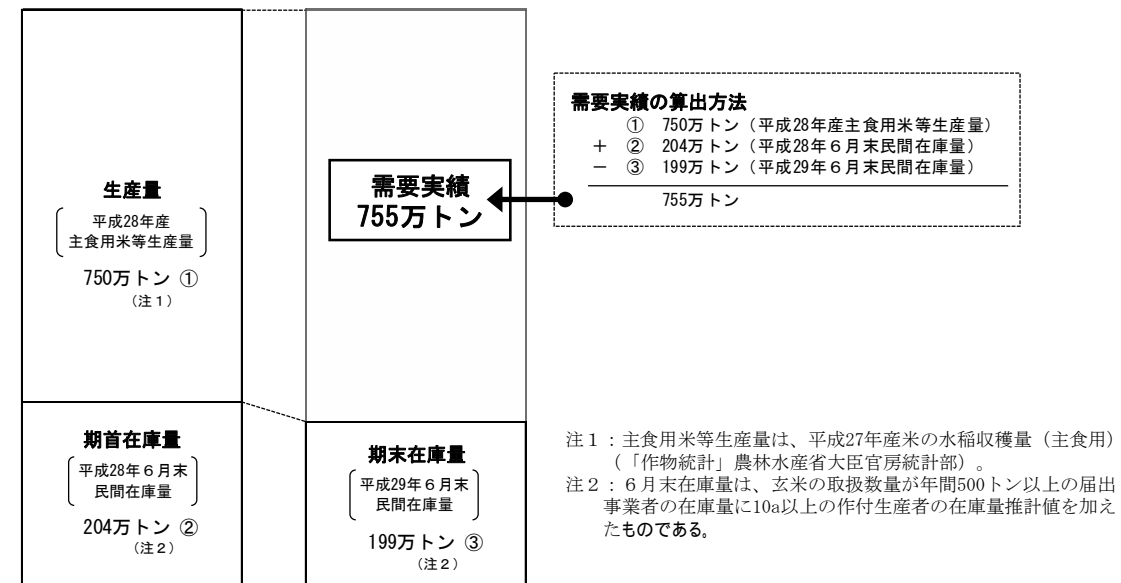
I	米の需給・契約・販売	
1	主食用米等の需給見通し（米の基本指針（平成29年7月31日））	
(1)	平成28/29年の需要実績（速報値）	1
(2)	平成29/30年の需要見通し（推計値）	1
(3)	平成29/30年の需給見通し	2
2	米の契約・販売	
(1)	政府備蓄米の都道府県別買入数量、優先枠及び買入入札の結果	4
(2)	平成28年産米の産地別契約・販売状況（累計、うるち米、平成29年8月末現在）	5
(3)	産地別事前契約数量	9
II	米の在庫情報	
(1)	全国段階の民間在庫の推移（うるち米、平成23年7月末～平成29年8月末）（速報）	11
(2)	産地別民間在庫の状況（前年同月比）	13
(3)	平成28・29年産の産地別民間在庫の推移 （うるち米、平成29年7月末から平成30年6月末）（速報）	16
III	米の価格情報	
1	相対取引価格・数量	
(1)	相対取引価格（年産別）	22
(2)	価格帯別分析結果（平成29年8月）	23
(3)	相対取引価格・数量（平成28年産米、産地品種銘柄別、平成29年8月分）	24
(4)	スポット価格の状況	27
2	米の先物取引価格の推移	28
3	米取引関係者の判断（米穀機構による調査、平成29年9月分）	29
IV	主食用米以外（輸出を含む）	
1	29年産米の作付状況	
(1)	29年産米の用途別作付面積及び生産量	31
(2)	主食用米以外の取組状況（作付面積及び作付面積比率）	31
(3)	新規需要米の用途別認定状況	31
2	加工用米及び新規需要米の取組状況概要	32
3	飼料用米の需要量	33
4	コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額について	35
5	コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について	46
V	支援事業等	
(1)	水田活用の直接支払交付金	37
(2)	畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）	41
(3)	米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）	43
(4)	主食用米の需給安定の考え方、米穀周年供給・需要拡大支援事業	45
VI	消費動向	
(1)	米の消費動向（米穀機構による調査）	47
(2)	購入数量の推移（家計調査）	48
(3)	消費者物価指数の推移	49
(4)	小売物価統計の推移	50
(5)	小売価格の推移（POSデータ）	51
VII	MA米（一般・SBS）の動向	
(1)	MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）	52
(2)	加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果（平成29年度）	53
(3)	SBS輸入米の見積合わせ結果（平成29年度）	53
VIII	その他	
(1)	水稻うるち玄米の農産物検査結果	54
(2)	平成29年産水稻の作付面積及び収穫量	55

# I 米の需給・契約・販売

## 1 主食用米等の需給見通し（米の基本指針(平成29年7月31日)）

### (1) 平成28/29年の需要実績（速報値）

- 平成28/29年（平成28年7月から平成29年6月までの1年間）の需要実績（速報値）は、755万トンと平成27/28年（766万トン）から▲11万トンの減少となった。
- 平成29年6月末民間在庫量は、5年ぶりに200万トンを下回る199万トンとなった。

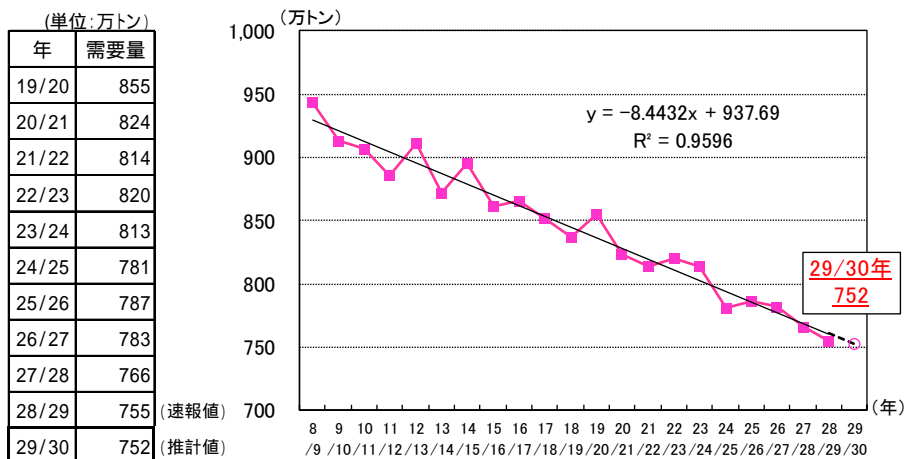


（参考：6月末民間在庫量の推移）

	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年 (速報値)
民間在庫	213	175	182	184	161	212	216	181	180	224	220	226	204	199

### (2) 平成29/30年の需要見通し（推計値）

- 平成29/30年の需要見通しについては、平成8/9年から平成28/29年までの需要実績を用いてトレンドで算出し、752万トンと見通す。



### (3) 平成29/30年の需給見通し

- 平成29/30年の需給見通しについては、「平成29年6月末民間在庫量199万トン」、「平成29/30年の需要見通し752万トン」を踏まえると、下の表のようになり、平成30年6月末民間在庫量は、平成29年産が生産数量目標どおりの生産量となった場合は182万トン、自主的取組参考値どおりの生産量となった場合は180万トンと見通される。

			(単位:万トン)	
平成29年6月末民間在庫量	A	199	199	
平成29年産主食用米等生産量	B	735 (生産数量目標)	733 (自主的取組参考値)	
平成29/30年主食用米等供給量計	C=A+B	934	932	
平成29/30年主食用米等需要量	D	752	752	
平成30年6月末民間在庫量	E=C-D	182	180	

<平成29年産米の生産数量目標等の考え方>

【生産数量目標】

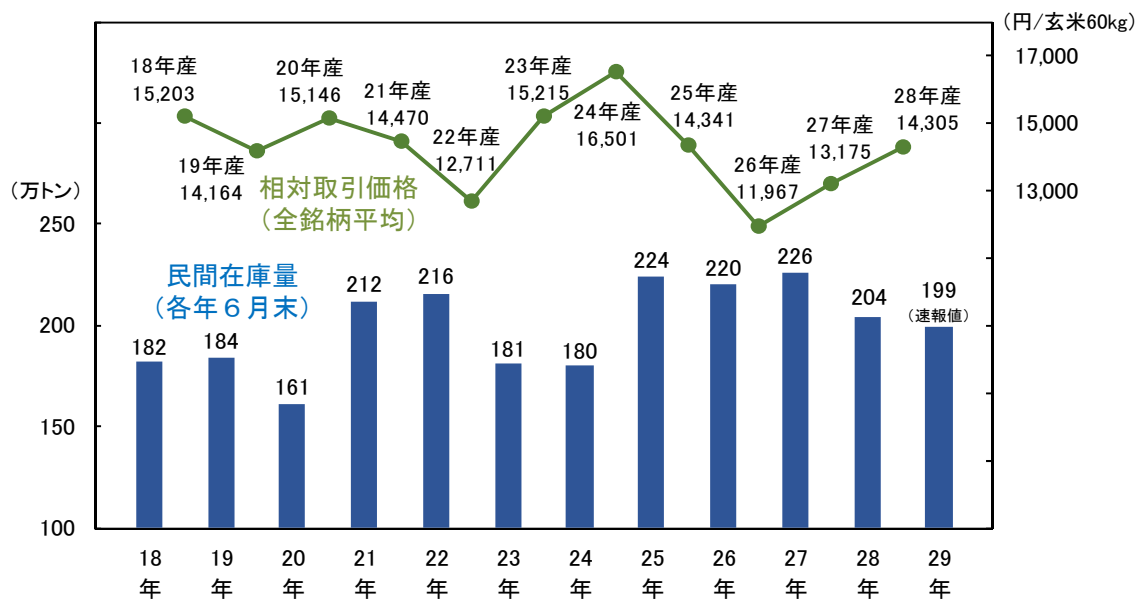
近年のトレンドとして需要が毎年概ね8万トン減少していることを勘案し、平成28年産米の生産数量目標743万トンから8万トンを控除した735万トンと設定。

【自主的取組参考値】

平成30年6月末民間在庫量が安定供給を確保できる水準(180万トン)となるものとして、733万トンと設定。

### (参考) 相対取引価格と民間在庫量

- 相対取引価格は、その年々の需給状況により変動しているが、6月末における民間在庫量(生産、出荷、販売段階における在庫量)の水準もその要因の一つ。



注：相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月(28年産は平成29年8月)までの通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。(28年産は速報値ベース)

表 平成29年産米の都道府県別の生産数量目標等

(単位:トン、ha)

都道府県	27年産生産数量目標 のシェア(注1)	29年産生産数量目標		29年産自主的取組参考値	
			面積換算値		面積換算値
全国計	100%	735万トン	139万ha	733万トン	138万ha
北海道	547,330 / 7,510,000	535,669	99,015	534,212	98,745
青森	242,460 / 7,510,000	237,294	40,494	236,649	40,384
岩手	271,210 / 7,510,000	265,432	49,706	264,710	49,571
宮城	348,620 / 7,510,000	341,193	64,255	340,264	64,080
秋田	417,540 / 7,510,000	408,644	71,317	407,532	71,123
山形	344,500 / 7,510,000	337,160	56,666	336,243	56,511
福島	339,550 / 7,510,000	332,316	61,313	331,412	61,146
茨城	337,370 / 7,510,000	330,182	63,012	329,284	62,840
栃木	298,690 / 7,510,000	292,326	54,134	291,531	53,987
群馬	75,670 / 7,510,000	74,058	14,961	73,856	14,920
埼玉	151,270 / 7,510,000	148,047	30,214	147,644	30,131
千葉	246,490 / 7,510,000	241,239	45,091	240,582	44,969
東京	770 / 7,510,000	754	183	752	183
神奈川	14,400 / 7,510,000	14,093	2,859	14,055	2,851
新潟	521,290 / 7,510,000	510,184	94,304	508,796	94,047
富山	185,650 / 7,510,000	181,695	33,710	181,200	33,618
石川	123,630 / 7,510,000	120,996	23,313	120,667	23,250
福井	125,460 / 7,510,000	122,787	23,658	122,453	23,594
山梨	27,430 / 7,510,000	26,846	4,908	26,773	4,895
長野	194,000 / 7,510,000	189,867	30,574	189,350	30,491
岐阜	111,270 / 7,510,000	108,899	22,315	108,603	22,255
静岡	82,920 / 7,510,000	81,153	15,576	80,933	15,534
愛知	134,970 / 7,510,000	132,094	26,054	131,735	25,983
三重	143,510 / 7,510,000	140,453	28,091	140,070	28,014
滋賀	160,450 / 7,510,000	157,032	30,315	156,604	30,232
京都	75,930 / 7,510,000	74,312	14,542	74,110	14,503
大阪	26,220 / 7,510,000	25,661	5,184	25,592	5,170
兵庫	180,440 / 7,510,000	176,596	35,178	176,115	35,083
奈良	41,690 / 7,510,000	40,802	7,954	40,691	7,932
和歌山	34,850 / 7,510,000	34,108	6,891	34,015	6,872
鳥取	66,110 / 7,510,000	64,702	12,588	64,525	12,554
島根	90,000 / 7,510,000	88,083	17,305	87,843	17,258
岡山	158,550 / 7,510,000	155,172	29,500	154,750	29,420
広島	129,970 / 7,510,000	127,201	24,321	126,855	24,255
山口	108,760 / 7,510,000	106,443	21,120	106,153	21,062
徳島	58,540 / 7,510,000	57,293	12,087	57,137	12,054
香川	70,240 / 7,510,000	68,744	13,776	68,556	13,739
愛媛	73,920 / 7,510,000	72,345	14,527	72,148	14,488
高知	50,070 / 7,510,000	49,003	10,699	48,870	10,670
福岡	182,470 / 7,510,000	178,582	35,932	178,097	35,834
佐賀	138,420 / 7,510,000	135,471	26,102	135,102	26,031
長崎	62,850 / 7,510,000	61,511	12,842	61,344	12,807
熊本	189,310 / 7,510,000	185,277	36,116	184,773	36,018
大分	117,690 / 7,510,000	115,183	22,945	114,869	22,882
宮崎	93,600 / 7,510,000	91,606	18,469	91,357	18,419
鹿児島	111,070 / 7,510,000	108,704	22,553	108,408	22,491
沖縄	2,860 / 7,510,000	2,799	906	2,791	903

注1: 米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針(平成27年11月)において、平成27年産米の都道府県別のシェアを固定し、当該シェアで按分して平成29年産米の都道府県別の生産数量目標及び自主的取組参考値とする旨を公表済み。

注2: 端数処理の結果、合計値は一致しない。

## 2 米の契約・販売

### (1) 政府備蓄米の都道府県別買入数量、優先枠及び買入入札の結果

平成29年産

(単位:トン)

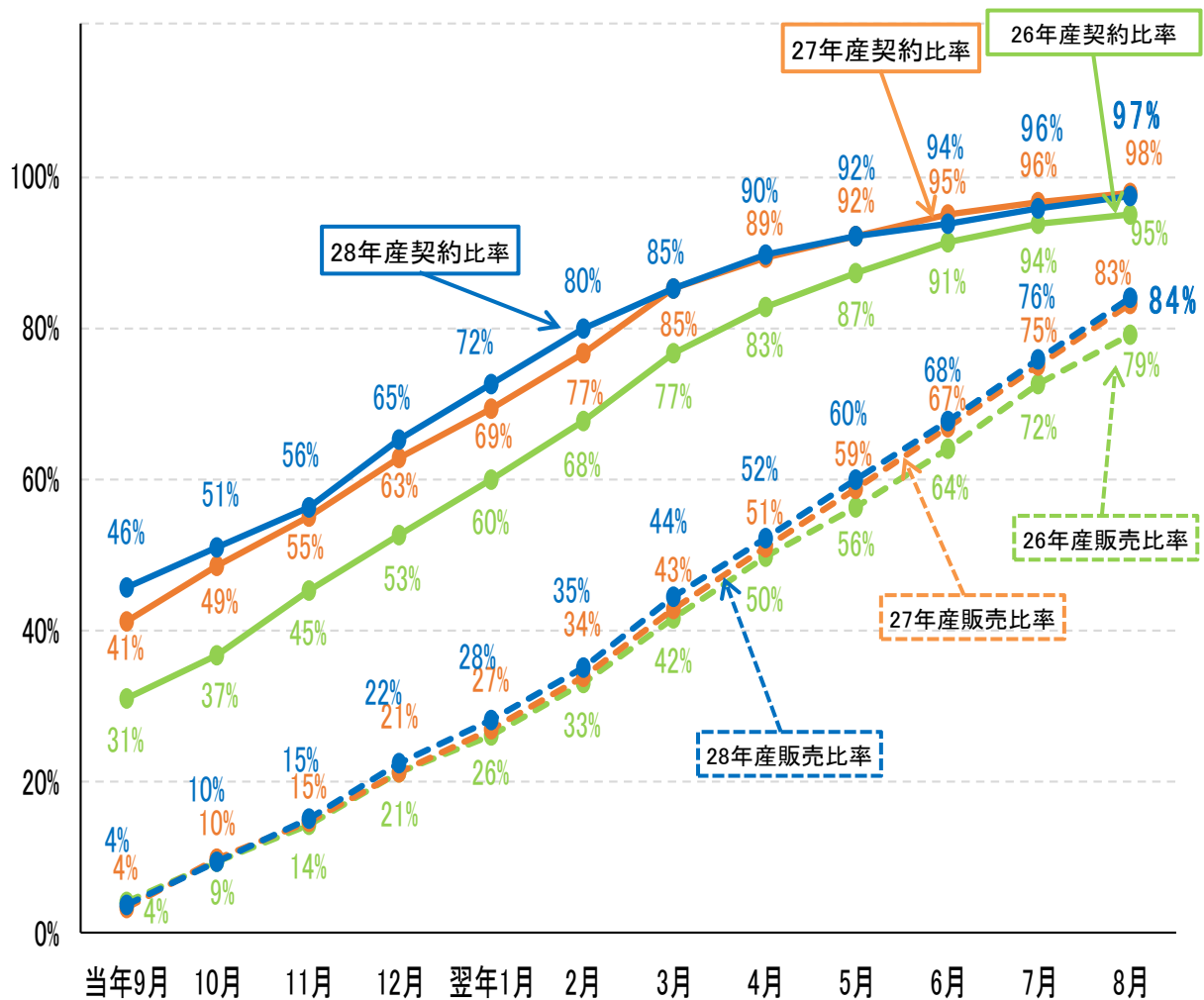
買入対象米穀 の産地	都道府県別 優先枠	買入入札の結果								29年産 落札合計 数量
		第1回 平成29年 1月31日実施	第2回 平成29年 2月14日実施	第3回 平成29年 2月28日実施	第4回 平成29年 3月14日実施	第5回 平成29年 3月28日実施	第6回 平成29年 4月25日実施	第7回 平成29年 5月30日実施	第8回 平成29年 6月20日実施	
北海道	7,130	0	0	0						0
青森	12,271	10,360	1,911	0						12,271
岩手	5,229	5,229	0	0						5,229
宮城	6,368	306	6,062	0						6,368
秋田	17,039	17,039	0	0						17,039
山形	11,753	11,753	0	0						11,753
福島	16,443	16,443	0	0						16,443
茨城	600	600	0	0						600
栃木	5,167	3,558	1,609	0						5,167
群馬	12	12	0	0						12
埼玉	296	156	140	0						296
千葉	748	748	0	0						748
東京										
神奈川										
新潟	17,365	326	17,039	0						17,365
富山	7,947	7,947	0	0						7,947
石川	3,348	86	3,262	0						3,348
福井	2,187	20	2,167	0						2,187
山梨										
長野	585	103	482	0						585
岐阜	348	10	338	0						348
静岡	20	0	0	20						20
愛知	493	0	0	493						493
三重	422	0	422	0						422
滋賀	876	21	855	0						876
京都										
大阪										
兵庫	18	0	0	0						0
奈良										
和歌山										
鳥取	535	10	525	0						535
島根	67	0	67	0						67
岡山	1,408	1,373	35	0						1,408
広島										
山口										
徳島	337	130	207	0						337
香川										
愛媛	51	0	51	0						51
高知	10	0	10	0						10
福岡	139	10	129	0						139
佐賀	327	0	0	327						327
長崎	18	0	18	0						18
熊本	247	247	0	0						247
大分	196	0	169	0						169
宮崎										
鹿児島										
沖縄										
都道府県別枠計	120,000	76,487	35,498	840						112,825
指定無し	80,000	71,032	8,968	3,477	160	219	427	214	406	84,903
合計	200,000	147,519	44,466	4,317	160	219	427	214	406	197,728



(2) 平成28年産米の産地別契約・販売状況（累計、うるち米、平成29年8月末現在）

- 平成29年8月末現在の平成28年産米の集荷数量は、307万トン。
- 契約数量は、前年同月と比較して▲5万トンの299万トン。契約比率は97%。
- 販売数量は、前年同月と比較して▲1万トンの258万トン。販売比率は84%。

契約・販売比率の推移(平成26～28年産)



注：平成26・27年産は、各月末時点の契約・販売数量を生産年の翌年10月末の集荷量で除して算出した最終実績ベース。

平成28年産は、各月末時点の契約・販売数量を平成29年8月末の集荷量で除して算出した直近ベースのため、今後、集荷数量の増加に伴い契約・販売比率に変動が生じる可能性がある。

集荷・契約・販売数量（北海道から千葉まで）

	集荷数量 ①	契約数量 ②	契約比率 ②/①	販売数量 ③	販売比率 ③/①	参考：前年同月比 (27年産の同時期との比較)		
						集荷数量 (%)	契約数量 (%)	販売数量 (%)
北海道	356.9 (千玄米ト)	353.1 (千玄米ト)	99%	312.5 (千玄米ト)	88%	▲ 10%	▲ 10%	▲ 8%
(ななつぼし)	171.3	170.3	99%	154.8	90%	▲ 6%	▲ 6%	▲ 3%
(ゆめびりか)	78.6	78.4	100%	70.3	89%	▲ 4%	▲ 4%	+ 2%
(きらら397)	37.0	36.3	98%	27.1	73%	▲ 38%	▲ 39%	▲ 41%
青森	140.5	139.7	99%	113.5	81%	▲ 6%	▲ 5%	▲ 3%
(まっしぐら)	91.1	90.9	100%	72.5	80%	▲ 4%	▲ 3%	+ 4%
(つがるロマン)	39.9	39.3	98%	32.5	81%	▲ 19%	▲ 19%	▲ 24%
岩手	139.8	138.4	99%	109.9	79%	▲ 10%	▲ 11%	▲ 9%
(ひとめぼれ)	112.1	110.7	99%	87.5	78%	▲ 9%	▲ 10%	▲ 7%
(あきたこまち)	18.6	18.6	100%	16.4	88%	▲ 13%	▲ 13%	▲ 11%
(いわてっこ)	3.2	3.2	100%	1.3	40%	▲ 18%	▲ 18%	▲ 56%
宮城	181.0	177.4	98%	134.4	74%	+ 0%	+ 0%	▲ 3%
(ひとめぼれ)	148.8	145.3	98%	109.5	74%	▲ 1%	▲ 1%	▲ 5%
(ササニシキ)	10.7	10.6	99%	8.2	76%	▲ 5%	▲ 3%	▲ 3%
(つや姫)	12.2	12.1	100%	10.7	88%	+ 12%	+ 15%	+ 13%
秋田	271.0	255.1	94%	236.3	87%	▲ 2%	▲ 6%	▲ 3%
(あきたこまち)	218.6	209.3	96%	199.0	91%	▲ 4%	▲ 6%	▲ 4%
(めんこいな)	11.6	10.2	88%	7.6	65%	+ 6%	▲ 2%	▲ 12%
(ひとめぼれ)	24.0	23.0	96%	19.4	81%	+ 0%	▲ 3%	+ 9%
山形	222.5	194.7	87%	176.2	79%	+ 4%	▲ 2%	+ 5%
(はえぬき)	137.5	117.4	85%	104.3	76%	+ 4%	▲ 4%	+ 2%
(つや姫)	40.8	35.6	87%	35.9	88%	+ 22%	+ 11%	+ 23%
(ひとめぼれ)	21.7	19.5	90%	17.7	82%	▲ 3%	▲ 9%	+ 0%
福島	169.4	166.7	98%	129.1	76%	+ 16%	+ 18%	+ 7%
(コシヒカリ中通り)	57.2	56.0	98%	49.6	87%	+ 33%	+ 32%	+ 25%
(コシヒカリ会津)	48.9	48.7	100%	29.2	60%	+ 7%	+ 9%	▲ 15%
(コシヒカリ浜通り)	8.3	8.2	99%	6.0	72%	+ 57%	+ 56%	+ 94%
(ひとめぼれ)	33.1	32.5	98%	26.2	79%	+ 3%	+ 4%	▲ 5%
(天のつぶ)	11.0	10.7	97%	8.7	79%	+ 19%	+ 28%	+ 12%
茨城	77.6	76.5	99%	73.1	94%	▲ 5%	▲ 6%	+ 6%
(コシヒカリ)	62.0	61.4	99%	58.9	95%	▲ 4%	▲ 5%	+ 9%
(あきたこまち)	9.1	9.1	100%	9.1	100%	▲ 14%	▲ 13%	▲ 8%
(ゆめひたち)	0.6	0.6	99%	0.4	77%	▲ 26%	▲ 26%	▲ 25%
栃木	141.6	138.2	98%	108.0	76%	+ 0%	▲ 2%	+ 16%
(コシヒカリ)	119.8	117.0	98%	91.0	76%	▲ 1%	▲ 3%	+ 17%
(あさひの夢)	8.3	8.3	100%	6.4	77%	▲ 10%	▲ 9%	+ 16%
(なすひかり)	6.7	6.3	93%	5.1	76%	+ 0%	▲ 6%	+ 10%
群馬	21.8	21.8	100%	18.0	82%	+ 16%	+ 16%	+ 35%
(あさひの夢)	14.0	14.0	100%	10.9	78%	+ 21%	+ 21%	+ 50%
(ゆめまつり)	5.0	5.0	100%	4.6	92%	+ 8%	+ 8%	+ 18%
埼玉	22.3	21.8	98%	16.8	75%	+ 3%	+ 3%	+ 2%
(彩のかがやき)	10.8	10.6	97%	8.1	74%	+ 4%	+ 5%	+ 6%
(コシヒカリ)	7.0	6.8	97%	5.6	81%	▲ 1%	▲ 1%	▲ 3%
(彩のきずな)	2.8	2.8	99%	1.7	61%	…	…	…
千葉	79.6	79.5	100%	77.7	98%	▲ 17%	▲ 17%	▲ 14%
(コシヒカリ)	45.1	45.1	100%	44.2	98%	▲ 14%	▲ 14%	▲ 9%
(ふさこがね)	14.4	14.3	99%	13.6	95%	▲ 14%	▲ 14%	▲ 12%
(ふさおとめ)	16.3	16.3	100%	16.1	99%	▲ 25%	▲ 25%	▲ 24%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 報告対象米穀は、水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）である。

3 集荷数量は、報告対象業者が自ら販売するために集荷した数量である。

4 契約数量は、報告対象業者が自ら販売するために契約を締結（確認書等により数量のみが決定した契約を含む。）した数量である。

5 販売数量は、集荷数量のうち契約のあと実際に卸売業者等に引き取られた数量である。

6 銘柄ごとの集荷数量、契約数量、販売数量は、当該産地の内数として掲載している。

7 全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、産地の合計と一致しない。

8 「-」は、集荷数量、契約数量、販売数量に該当がないもの。

9 「参考：前年同月比」の「…」は、27年産では調査の対象銘柄でなかったこと等から、28年産との比較が出来ないもの。

集荷・契約・販売数量(東京から鳥取まで)

	集荷数量 ①	契約数量 ②	契約比率 ②/①	販売数量 ③	販売比率 ③/①	参考:前年同月比 (27年産の同時期との比較)		
						集荷数量 (%)	契約数量 (%)	販売数量 (%)
東京	-	-	-	-	-	...	...	...
神奈川	2.9	2.5	86%	2.5	86%	+10%	+2%	+2%
山梨	6.3	5.6	88%	5.6	88%	+5%	+7%	+7%
(コシヒカリ)	5.4	4.8	88%	4.8	88%	+3%	+4%	+4%
(あさひの夢)	0.2	0.2	78%	0.2	78%	▲4%	▲7%	▲7%
長野	72.5	72.3	100%	58.3	80%	+5%	+6%	▲3%
(コシヒカリ)	57.7	57.6	100%	46.0	80%	+8%	+9%	▲3%
(あきたこまち)	8.3	8.2	100%	7.0	85%	▲5%	▲4%	▲10%
静岡	7.2	6.3	88%	6.3	88%	▲25%	▲29%	▲29%
(コシヒカリ)	4.8	4.4	92%	4.4	92%	▲24%	▲26%	▲26%
(きぬむすめ)	0.8	0.6	75%	0.6	75%	▲27%	▲40%	▲40%
(あいちのかおり)	0.9	0.7	75%	0.7	75%	▲15%	▲22%	▲22%
新潟	285.2	282.8	99%	239.0	84%	+11%	+10%	+6%
(コシヒカリ一般)	163.6	162.2	99%	133.0	81%	+15%	+14%	+9%
(コシヒカリ魚沼)	26.1	25.4	97%	23.2	89%	+16%	+15%	+9%
(コシヒカリ岩船)	13.5	13.5	100%	12.5	93%	+11%	+11%	+13%
(コシヒカリ佐渡)	15.8	15.7	100%	14.0	89%	+4%	+4%	+4%
(こしいぶき)	43.5	43.4	100%	37.2	86%	+0%	+0%	▲4%
富山	111.6	110.8	99%	97.5	87%	+5%	+5%	+2%
(コシヒカリ)	91.9	91.3	99%	81.8	89%	+4%	+4%	+2%
(てんたかく)	9.5	9.3	99%	8.0	84%	+3%	+2%	+0%
石川	33.9	33.8	100%	26.1	77%	+2%	+3%	+15%
(コシヒカリ)	24.0	24.0	100%	19.1	80%	+6%	+7%	+20%
(ゆめみづぼ)	6.9	6.9	100%	5.1	75%	▲12%	▲10%	▲1%
福井	65.0	64.5	99%	56.5	87%	+0%	+0%	▲4%
(コシヒカリ)	31.8	31.8	100%	28.4	89%	+2%	+3%	+0%
(ハナエチゼン)	19.5	19.4	99%	16.9	87%	+0%	+0%	▲6%
岐阜	27.5	27.0	98%	21.3	77%	▲4%	▲5%	▲4%
(ハツシモ)	11.7	11.4	97%	8.4	71%	▲12%	▲12%	▲10%
(コシヒカリ)	8.8	8.6	98%	7.2	82%	+10%	+9%	+4%
(あきたこまち)	2.1	2.1	100%	2.0	96%	▲15%	▲15%	▲14%
愛知	37.3	34.7	93%	30.4	82%	+4%	+8%	+5%
(あいちのかおり)	18.4	17.0	92%	14.1	76%	+4%	+18%	+7%
(コシヒカリ)	11.4	11.0	97%	10.2	90%	+0%	▲3%	+1%
(大地の風)	1.5	1.2	82%	1.1	78%	▲2%	▲11%	▲14%
三重	31.9	31.8	100%	29.3	92%	+2%	+2%	+5%
(コシヒカリ一般)	18.1	18.1	100%	17.4	96%	+5%	+5%	+10%
(コシヒカリ伊賀)	6.8	6.8	100%	6.3	93%	▲4%	▲2%	▲1%
(キヌヒカリ)	2.7	2.7	100%	1.9	72%	▲6%	▲6%	▲17%
滋賀	65.6	65.6	100%	60.3	92%	+3%	+2%	+2%
(コシヒカリ)	24.7	24.7	100%	23.0	93%	+3%	+3%	+4%
(キヌヒカリ)	13.5	13.5	100%	12.6	94%	▲4%	▲4%	▲5%
(日本晴)	6.6	6.6	100%	4.9	74%	▲11%	▲11%	▲13%
京都	14.4	14.4	100%	12.3	85%	+5%	+5%	▲2%
(コシヒカリ)	8.6	8.6	100%	7.3	85%	+13%	+13%	+2%
(キヌヒカリ)	3.2	3.2	100%	2.7	87%	▲8%	▲8%	▲10%
大阪	-	-	-	-	-	...	...	...
兵庫	41.0	40.2	98%	34.0	83%	▲4%	▲4%	▲3%
(コシヒカリ)	11.7	11.6	99%	10.6	91%	+5%	+4%	+5%
(ヒノヒカリ)	4.6	4.5	98%	4.0	86%	▲11%	▲11%	▲13%
(キヌヒカリ)	4.2	4.2	100%	3.7	89%	▲7%	▲7%	▲11%
奈良	9.2	9.2	100%	8.9	97%	▲9%	▲9%	+1%
(ヒノヒカリ)	7.2	7.2	100%	7.0	97%	▲10%	▲10%	+0%
(コシヒカリ)	0.5	0.5	100%	0.5	100%	▲3%	▲3%	+5%
和歌山	2.1	2.1	100%	1.6	79%	+17%	+17%	+19%
鳥取	22.1	21.4	97%	20.1	91%	+1%	▲1%	+0%
(コシヒカリ)	7.5	7.2	96%	6.8	91%	+11%	+8%	+7%
(きぬむすめ)	7.0	6.8	97%	6.5	92%	+1%	+2%	+10%
(ひとめぼれ)	7.1	7.0	98%	6.4	90%	▲8%	▲10%	▲13%

集荷・契約・販売数量(島根から沖縄まで、全国計)

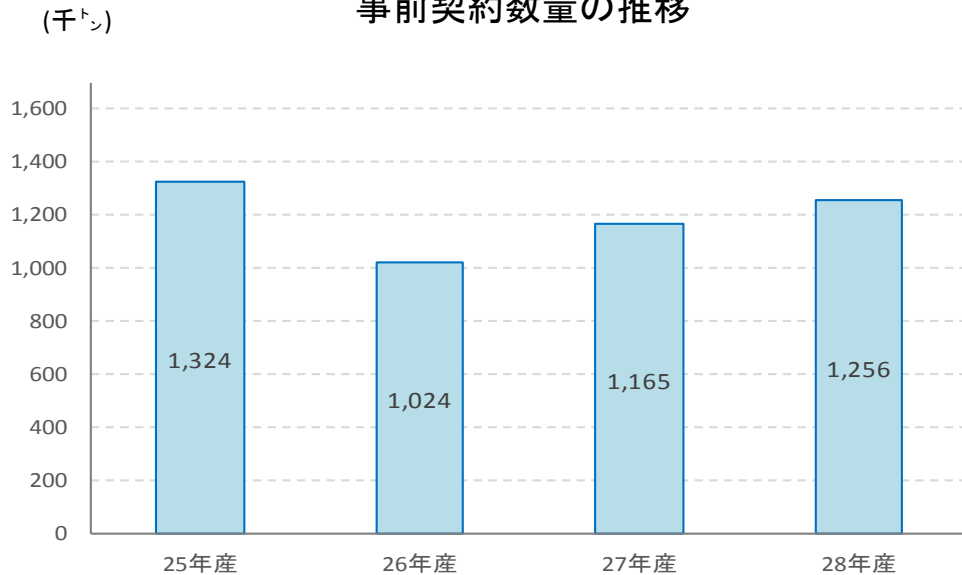
	集荷数量 ①	契約数量 ②	契約比率 ②/①	販売数量 ③	販売比率 ③/①	参考:前年同月比 (27年産の同時期との比較)		
						集荷数量 (%)	契約数量 (%)	販売数量 (%)
島根	(千玄米ト) 39.4	(千玄米ト) 38.8	99%	(千玄米ト) 35.5	90%	+ 4%	+ 4%	+ 2%
(コシヒカリ)	19.6	19.2	98%	17.6	90%	+ 7%	+ 6%	+ 4%
(きぬむすめ)	12.8	12.6	98%	11.4	89%	▲ 7%	▲ 6%	▲ 6%
(つや姫)	4.0	4.0	100%	3.7	92%	...	...	...
岡山	15.0	15.0	100%	11.5	77%	▲ 26%	▲ 26%	▲ 25%
(アケボノ)	2.6	2.6	100%	1.6	62%	▲ 47%	▲ 47%	▲ 44%
(あきたこまち)	1.9	1.9	100%	1.6	87%	▲ 23%	▲ 23%	▲ 25%
(ヒノヒカリ)	1.7	1.7	100%	1.2	68%	▲ 25%	▲ 25%	▲ 31%
広島	33.7	33.3	99%	29.5	88%	▲ 1%	▲ 2%	▲ 2%
(コシヒカリ)	15.8	15.7	99%	13.9	88%	+ 6%	+ 5%	▲ 1%
(あきろまん)	3.2	3.2	99%	3.0	95%	▲ 17%	▲ 18%	▲ 13%
(ヒノヒカリ)	2.5	2.5	99%	2.0	82%	▲ 8%	▲ 9%	▲ 10%
山口	32.0	32.0	100%	25.3	79%	▲ 8%	▲ 2%	▲ 4%
(コシヒカリ)	9.9	9.9	100%	8.0	81%	▲ 6%	+ 2%	▲ 9%
(ひとめぼれ)	8.1	8.1	100%	6.5	80%	+ 2%	+ 12%	+ 3%
(ヒノヒカリ)	6.6	6.6	100%	5.1	78%	▲ 10%	▲ 3%	▲ 1%
徳島	6.1	6.1	100%	5.8	95%	+ 14%	+ 20%	+ 13%
(コシヒカリ)	3.5	3.5	100%	3.5	100%	+ 3%	+ 11%	+ 11%
(キヌヒカリ)	1.8	1.8	100%	1.5	82%	+ 25%	+ 25%	+ 3%
香川	26.6	26.6	100%	22.1	83%	+ 6%	+ 6%	+ 6%
(ヒノヒカリ)	11.2	11.2	100%	9.0	81%	+ 2%	+ 2%	+ 1%
(コシヒカリ)	8.8	8.8	100%	8.0	91%	+ 15%	+ 15%	+ 17%
愛媛	12.6	10.7	85%	10.5	84%	▲ 9%	▲ 21%	▲ 5%
(コシヒカリ)	4.8	4.4	91%	4.3	90%	+ 4%	▲ 4%	+ 2%
(ヒノヒカリ)	2.5	2.0	79%	1.9	77%	▲ 1%	▲ 21%	▲ 11%
(あきたこまち)	1.9	1.6	83%	1.6	83%	▲ 3%	▲ 17%	▲ 2%
高知	6.5	6.5	100%	6.5	100%	+ 10%	+ 10%	+ 10%
(コシヒカリ)	5.1	5.1	100%	5.1	100%	+ 8%	+ 8%	+ 8%
(ヒノヒカリ)	0.4	0.4	100%	0.4	100%	+ 285%	+ 285%	+ 285%
福岡	55.4	54.6	99%	45.5	82%	+ 1%	+ 2%	+ 3%
(夢つくし)	18.2	18.1	100%	16.2	89%	+ 10%	+ 10%	+ 0%
(ヒノヒカリ)	16.0	16.0	100%	12.5	78%	▲ 12%	▲ 12%	+ 5%
(元気つくし)	18.6	18.0	96%	15.1	81%	+ 12%	+ 14%	+ 7%
佐賀	43.8	43.8	100%	38.0	87%	▲ 4%	▲ 4%	+ 3%
(さがびより)	14.0	14.0	100%	12.4	89%	▲ 3%	▲ 2%	+ 11%
(夢しずく)	13.3	13.3	100%	11.8	89%	+ 4%	+ 4%	+ 6%
(ヒノヒカリ)	10.6	10.6	100%	8.4	79%	▲ 8%	▲ 8%	▲ 7%
長崎	11.7	11.7	100%	10.0	85%	▲ 5%	▲ 5%	+ 4%
(にこまる)	4.7	4.7	100%	3.8	82%	▲ 9%	▲ 8%	+ 1%
(ヒノヒカリ)	3.7	3.7	100%	3.4	93%	▲ 3%	▲ 3%	+ 14%
(コシヒカリ)	1.7	1.7	100%	1.6	92%	+ 1%	+ 1%	+ 1%
熊本	38.2	33.7	88%	32.5	85%	▲ 3%	▲ 10%	▲ 1%
(ヒノヒカリ)	16.7	15.7	94%	14.6	87%	▲ 4%	▲ 4%	+ 2%
(森のくまさん)	7.2	6.2	86%	6.1	84%	▲ 7%	▲ 16%	+ 2%
(コシヒカリ)	6.3	4.9	78%	4.9	78%	+ 5%	▲ 18%	▲ 14%
大分	14.5	14.5	100%	11.8	81%	▲ 6%	▲ 5%	▲ 3%
(ヒノヒカリ)	10.4	10.4	100%	8.2	79%	▲ 7%	▲ 6%	▲ 5%
(ひとめぼれ)	0.9	0.9	98%	0.8	87%	+ 9%	+ 6%	+ 20%
宮崎	16.3	16.3	100%	15.7	96%	+ 7%	+ 7%	+ 8%
(コシヒカリ)	9.4	9.4	100%	9.4	100%	+ 7%	+ 7%	+ 7%
(ヒノヒカリ)	5.9	5.9	100%	5.3	91%	+ 10%	+ 9%	+ 10%
鹿児島	14.9	14.9	100%	13.6	91%	+ 3%	+ 3%	+ 9%
(ヒノヒカリ)	6.9	6.9	100%	6.0	87%	+ 3%	+ 3%	+ 14%
(あきほなみ)	2.8	2.8	100%	2.4	86%	+ 1%	+ 1%	+ 1%
(コシヒカリ)	3.4	3.4	100%	3.4	100%	+ 7%	+ 7%	+ 7%
沖縄	1.6	1.6	100%	1.6	100%	+ 4%	+ 4%	+ 4%
全国①	3,072	2,992	97%	2,575	84%	▲ 1%	▲ 2%	+ 0%
参考 前年同月(27年産)②	3,101	3,044	98%	2,583	83%			
参考 前年同月差(①-②)	▲ 29	▲ 52	▲ 1ポイント	▲ 8	+ 1ポイント			

### (3) 産地別事前契約数量

- 事前契約数量は、2年続けて増加、平成28年産米では、前年産に比べ10万トン多い126万トンという水準。

〔 事前契約数量とは、複数年契約、は種前契約、収穫前契約といった米の収穫時期の前にあらかじめ契約されたもの。 〕

事前契約数量の推移



### 生産法人と業務用実需者との事前契約の取組事例

- 平成24年産米の価格上昇により、中食・外食事業者においては、弁当や寿司業界等のニーズに応じた値頃感のある米の確保が困難となっていたところ。
- こうした中、A県の農業生産法人では、品質（食味）、価格条件等の実需者のニーズに応じて品種を作り分けることにより、生産量の約8割を事前契約や複数年契約で安定的な取引を実現。
- 例えば、当該農業生産法人は、炊飯事業者との取引において、希望のあった品種を一定の数量、価格で事前契約を行っており、翌年産米の取引では、前年の10倍の数量契約を締結し、安定した品質の米を納入。現在まで契約数量の全てが納入済といった状況。価格は、生産コストや流通コスト等を踏まえた再生産可能な価格を基本に実需者と協議して決定。

#### 農業生産法人

- 経営安定のため、事前契約率を高めたい。
- 販売先だけでなく、事前に価格が決まっているのは生産者にとってありがたい。
- 概ね年内中に引き取ってくれるので余計なコスト負担がない。

契約

双方がウィンウィンの取引に！

#### 炊飯事業者

- 安定的な数量の確保。
- 食味の良さと品質のバラつきのなさを実感。
- 品種に応じて白飯や酢飯に使い分けている。
- 業務用といっても安ければいいということではなく、一定の価格で安定取引ができる。

# 産地別事前契約及び複数年契約の状況

(千玄米トン)

産地	平成27年産					平成28年産(平成29年8月末現在)				
	集荷数量 ①	うち事前契約 ②	事前契約比率 ②/①	うち複数年契約 ③	複数年契約比率 ③/①	集荷数量 ④	うち事前契約 ⑤	事前契約比率 ⑤/④	うち複数年契約 ⑥	複数年契約比率 ⑥/④
北海道	398.3	150.0	38%	75.1	19%	356.9	169.6	48%	43.4	12%
青森	148.1	45.8	31%	5.0	3%	140.5	45.1	32%	32.9	23%
岩手	156.0	70.9	45%	26.1	17%	139.8	91.1	65%	84.7	61%
宮城	181.4	108.6	60%	20.2	11%	181.0	112.0	62%	84.5	47%
秋田	277.8	80.1	29%	1.7	1%	271.0	83.2	31%	57.4	21%
山形	215.6	55.3	26%	-	-	222.5	52.3	23%	1.5	1%
福島	137.7	32.0	23%	-	-	169.4	52.0	31%	26.1	15%
茨城	81.5	46.6	57%	-	-	77.6	27.6	36%	-	-※
栃木	142.0	61.2	43%	-	-	141.6	60.3	43%	49.5	35%
群馬	18.9	-	-	-	-	21.8	-	-	-	-※
埼玉	21.8	5.8	27%	-	-	22.3	8.2	37%	-	-※
千葉	95.5	41.3	43%	-	-	79.6	31.3	39%	2.2	3%
東京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-※
神奈川	2.7	-	-	-	-	2.9	-	-	-	-※
山梨	6.0	-	-	-	-	6.3	-	-	-	-※
長野	69.1	21.5	31%	9.4	14%	72.5	26.3	36%	23.7	33%
静岡	9.6	-	-	-	-	7.2	-	-	-	-※
新潟	258.1	144.7	56%	14.5	6%	285.2	141.3	50%	87.4	31%
富山	106.5	29.5	28%	-	-	111.6	43.7	39%	-	-※
石川	33.2	14.0	42%	2.1	6%	33.9	20.1	59%	1.6	5%
福井	65.3	7.3	11%	7.3	11%	65.0	6.8	10%	6.8	10%
岐阜	28.8	9.5	33%	-	-	27.5	12.0	44%	-	-※
愛知	35.8	10.6	30%	-	-	37.3	15.1	40%	-	-※
三重	31.3	16.5	53%	-	-	31.9	17.8	56%	-	-※
滋賀	63.8	38.3	60%	-	-	65.6	46.8	71%	36.0	55%
京都	13.8	6.1	44%	0.3	2%	14.4	8.0	55%	0.3	2%
大阪	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-※
兵庫	42.9	-	-	-	-	41.0	-	-	-	-※
奈良	10.0	-	-	-	-	9.2	-	-	-	-※
和歌山	1.8	1.5	86%	-	-	2.1	1.7	83%	-	-※
鳥取	22.1	5.7	26%	-	-	22.1	6.0	27%	-	-※
島根	37.9	18.7	49%	-	-	39.4	31.9	81%	0.8	2%
岡山	20.4	-	-	-	-	15.0	-	-	-	-※
広島	33.8	20.4	60%	-	-	33.7	27.0	80%	2.0	6%
山口	34.6	22.9	66%	-	-	32.0	24.3	76%	0.6	2%
徳島	5.3	-	-	-	-	6.1	-	-	-	-※
香川	25.2	12.2	48%	-	-	26.6	12.9	49%	-	-※
愛媛	13.8	-	-	-	-	12.6	-	-	-	-※
高知	6.0	1.2	20%	-	-	6.5	1.1	18%	-	-※
福岡	55.0	27.3	50%	-	-	55.4	30.3	55%	-	-※
佐賀	45.6	23.9	53%	-	-	43.8	25.2	58%	-	-※
長崎	12.3	-	-	-	-	11.7	-	-	-	-※
熊本	39.5	21.3	54%	-	-	38.2	16.0	42%	-	-※
大分	15.5	1.1	7%	-	-	14.5	1.5	10%	-	-※
宮崎	15.2	13.2	86%	-	-	16.3	8.4	51%	-	-※
鹿児島	14.5	-	-	-	-	14.9	-	-	-	-※
沖縄	1.6	-	-	-	-	1.6	-	-	-	-※
全国	3,096	1,165	38%	162	5%	3,072	1,256	41%	542	18%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 報告対象米穀は、水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）である。

3 平成27年産は生産年の翌年10月末時点、28年産は平成29年8月末時点の数量である。

4 集荷数量は、報告対象業者が自ら販売するために集荷した数量である。

5 事前契約分とは、3の集荷数量のうち、は種前・収穫前契約及び複数年の契約による数量（確認書等により数量のみが決定した契約を含む。）である。

6 全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、産地の合計と一致しない。

7 「-」は、集荷数量や事前契約等に該当がないもの。

8 欄外の「※」は、平成28年産に複数年契約の取組がない産地である。

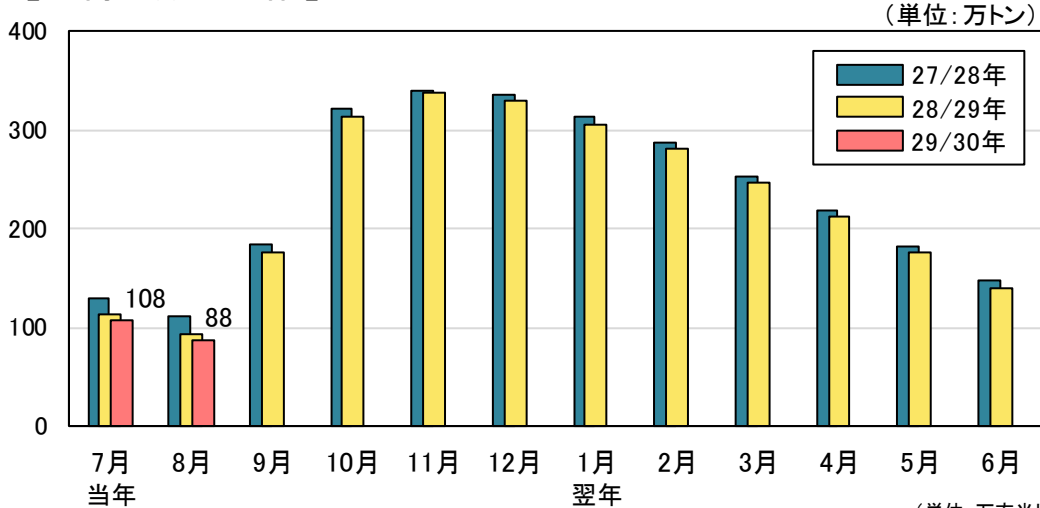
## Ⅱ 米の在庫情報

### (1) 全国段階の民間在庫の推移（うるち米）（速報）

- 平成29年8月末の出荷及び販売段階における在庫は、対前年同月▲5万トンの88万トンとなっている。

※ 都道府県別在庫量は、14頁以降参照。

#### 【出荷＋販売段階】



(単位: 万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
23/24年	83	55	134	298	327	320	291	259	224	185	147	113
対前年差	▲36	▲47	▲78	▲53	▲46	▲43	▲48	▲46	▲14	▲14	▲9	▲5
23年産米	0	8	106	273	304	300	275	246	214	177	141	108
1年古米(22年産)	69	37	19	13	11	8	6	5	2	2	1	1
24/25年	78	62	167	337	357	351	324	293	264	229	190	157
対前年差	▲5	+8	+33	+39	+30	+30	+33	+34	+40	+43	+43	+44
24年産米	0	16	135	306	331	331	307	279	252	219	182	150
1年古米(23年産)	73	41	26	20	15	9	7	5	4	3	2	2
25/26年	120	104	210	368	393	389	358	330	291	258	223	190
対前年差	+42	+42	+43	+32	+36	+39	+34	+36	+27	+29	+33	+33
25年産米	1	19	145	310	337	345	320	297	264	236	205	175
1年古米(24年産)	114	82	59	47	43	32	25	22	17	13	10	8
26/27年	119	103	198	344	368	365	343	314	280	243	208	168
対前年差	▲1	▲2	▲12	▲24	▲25	▲24	▲15	▲16	▲11	▲15	▲15	▲21
26年産米	0	14	131	285	316	323	306	283	255	220	188	155
1年古米(25年産)	106	78	55	45	37	28	23	19	15	13	11	9
27/28年	130	112	184	321	341	337	314	287	254	218	183	147
対前年差	+11	+9	▲13	▲23	▲27	▲28	▲29	▲26	▲26	▲26	▲24	▲21
27年産米	0	13	112	261	289	297	282	262	233	201	168	135
1年古米(26年産)	119	90	66	52	43	32	25	19	15	12	11	8
28/29年	114	93	177	313	338	329	306	282	248	213	177	140
対前年差	▲16	▲19	▲8	▲7	▲3	▲8	▲8	▲6	▲6	▲5	▲6	▲7
28年産米	1	14	122	267	299	299	284	263	233	201	168	135
1年古米(27年産)	104	72	48	38	30	22	16	12	9	7	5	4
29/30年	108	88										
対前年差	▲6	▲5										
29年産米	1	15										
1年古米(28年産)	103	71										

資料： 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注： 1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。  
 2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上若しくは年間の玄米仕入量が500トン以上）である。  
 3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。  
 4 期間については、29/30年であれば、29年7月～30年6月である。  
 5 年産の特定できない未検査米等を含んでいるため、当該年産米と1年古米の計と一致しない。  
 6 26年産米以降は、政府備蓄米を含まない。それ以前の年産は、政府による買入までの間の政府備蓄米を含む。  
 7 米穀機構の25年産買入数量（35万トン）は、26/27年7月以降の在庫に含まれていない。

## 【出荷段階】

(単位: 万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
23/24年	62	39	112	260	286	275	252	222	185	150	117	86
対前年差	▲38	▲46	▲75	▲50	▲43	▲45	▲49	▲46	▲16	▲15	▲11	▲6
23年産米	0	5	94	249	276	266	245	217	182	148	116	85
1年古米(22年産)	55	29	14	7	6	4	3	2	1	1	0	0
24/25年	56	41	136	287	305	295	275	247	213	183	151	121
対前年差	▲6	+2	+24	+26	+19	+20	+23	+25	+28	+33	+34	+35
24年産米	0	12	118	274	296	290	271	243	210	181	150	120
1年古米(23年産)	55	29	17	10	7	3	2	2	1	1	1	1
25/26年	90	77	173	309	332	331	306	282	244	217	188	159
対前年差	+34	+35	+37	+23	+27	+36	+31	+35	+31	+34	+37	+38
25年産米	1	16	132	285	310	316	294	271	236	210	183	155
1年古米(24年産)	89	61	40	21	19	13	10	8	6	5	4	3
26/27年	93	78	165	293	316	313	295	270	234	199	170	139
対前年差	+2	+2	▲8	▲16	▲17	▲18	▲11	▲12	▲10	▲18	▲18	▲20
26年産米	0	12	119	261	289	293	280	257	225	192	165	134
1年古米(25年産)	89	64	44	29	22	16	13	10	7	5	4	4
27/28年	105	89	157	278	296	292	273	249	210	178	149	117
対前年差	+12	+11	▲8	▲15	▲20	▲21	▲22	▲22	▲24	▲21	▲22	▲21
27年産米	0	11	100	237	262	267	254	234	202	171	143	112
1年古米(26年産)	101	76	55	39	32	23	18	14	8	6	5	4
28/29年	89	70	145	261	284	276	260	236	201	170	142	112
対前年差	▲16	▲20	▲13	▲17	▲12	▲16	▲13	▲12	▲9	▲7	▲7	▲5
28年産米	1	11	107	239	268	265	252	230	197	167	140	111
1年古米(27年産)	84	56	35	19	14	9	6	5	3	2	2	1
29/30年	85	66										
対前年差	▲4	▲3										
29年産米	0	11										
1年古米(28年産)	83	55										

※本表の注意点は前頁の(1)出荷+販売段階の脚注を参照

## 【販売段階】

(単位: 万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
23/24年	21	16	22	37	40	45	40	37	39	35	30	27
対前年差	+2	▲1	▲3	▲3	▲3	+2	+2	+1	+2	±0	+2	+1
23年産米	0	3	13	24	28	34	30	29	32	30	25	23
1年古米(22年産)	14	9	5	6	5	4	3	2	2	1	1	1
24/25年	22	21	30	50	52	56	49	46	51	46	39	36
対前年差	+1	+5	+8	+13	+11	+11	+9	+9	+12	+10	+8	+9
24年産米	0	4	17	32	35	41	37	36	42	38	32	31
1年古米(23年産)	18	13	8	10	8	6	5	3	3	2	2	1
25/26年	30	28	37	59	60	58	51	47	47	41	35	31
対前年差	+8	+7	+6	+9	+9	+3	+2	+1	▲4	▲4	▲4	▲5
25年産米	0	3	13	25	27	29	27	25	28	26	21	20
1年古米(24年産)	25	21	19	26	24	19	16	13	10	8	6	5
26/27年	27	24	32	51	52	52	47	44	46	44	37	30
対前年差	▲3	▲3	▲4	▲8	▲8	▲6	▲4	▲4	▲1	+3	+3	▲1
26年産米	0	3	13	24	26	30	27	26	29	29	24	21
1年古米(25年産)	17	14	11	16	15	12	10	8	8	8	7	5
27/28年	25	23	27	43	45	45	41	39	44	40	35	30
対前年差	▲2	▲2	▲5	▲8	▲7	▲7	▲7	▲5	▲2	▲4	▲3	±0
27年産米	0	2	11	24	27	29	27	28	32	30	25	23
1年古米(26年産)	17	14	10	13	12	9	7	5	7	6	6	4
28/29年	25	24	32	53	53	53	46	45	47	42	35	28
対前年差	+1	+1	+5	+10	+8	+8	+5	+7	+3	+2	±0	▲2
28年産米	0	3	14	28	31	35	31	33	37	34	28	25
1年古米(27年産)	19	16	13	20	17	13	9	7	6	4	3	3
29/30年	23	22										
対前年差	▲2	▲2										
29年産米	0	4										
1年古米(28年産)	20	16										

※本表の注意点は前頁の(1)出荷+販売段階の脚注を参照



## (2) 産地別民間在庫の状況（前年同月比）

平成28年産(29年8月末)

【出荷＋販売段階】

(単位:千トン)

産地	28年産 (H29.8末)	27年産 (H28.8末)	前年 同月比	産地	28年産 (H29.8末)	27年産 (H28.8末)	前年 同月比
北海道	64.9	77.4	84%	滋賀	9.3	9.5	97%
青森	43.5	44.5	98%	京都	3.6	2.9	125%
岩手	36.0	40.4	89%	大阪	0.6	0.5	117%
宮城	57.7	50.7	114%	兵庫	10.6	11.1	96%
秋田	47.9	46.6	103%	奈良	1.4	1.6	87%
山形	59.6	58.8	101%	和歌山	0.5	0.6	93%
福島	56.0	41.7	134%	鳥取	4.5	4.3	106%
茨城	15.9	24.8	64%	島根	5.2	4.3	122%
栃木	45.0	58.1	78%	岡山	10.1	12.5	81%
群馬	5.7	7.2	79%	広島	6.4	6.5	100%
埼玉	9.5	7.9	120%	山口	8.0	9.8	82%
千葉	7.7	10.6	73%	徳島	1.2	1.2	103%
東京	0.0	0.0	-	香川	5.2	4.9	107%
神奈川	0.4	0.2	209%	愛媛	2.8	3.6	78%
新潟	58.6	43.0	136%	高知	2.4	1.7	140%
富山	19.5	16.9	115%	福岡	15.7	14.0	113%
石川	10.8	13.0	83%	佐賀	6.9	10.5	66%
福井	10.9	10.1	108%	長崎	2.2	3.3	65%
山梨	1.0	1.1	94%	熊本	9.8	11.8	83%
長野	17.8	12.6	141%	大分	4.4	5.0	88%
岐阜	8.1	8.6	94%	宮崎	2.4	2.5	94%
静岡	1.6	1.2	132%	鹿児島	5.4	6.5	82%
愛知	9.4	8.8	106%	沖縄	0.0	0.0	-
三重	4.0	4.6	86%	全国計	711	718	99%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米(醸造用玄米含む。)の月末在庫量(玄米換算)の値である。

注2：出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体(年間の玄米仕入数量が5,000トン以上)、出荷業者(年間の直接販売数量が5,000トン以上若しくは年間の玄米仕入量が500トン以上)である。

注3：販売段階は、米穀の販売の事業を行う者(年間の玄米仕入量が4,000トン以上)である。

### (3) 平成28・29年産の産地別民間在庫の推移（うるち米）（速報）

(北海道から秋田) (単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
北海道	出荷+販売段階	96.9	66.1										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	95.3	64.9										
	出荷段階	70.6	45.9										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	70.3	45.7										
青森	販売段階	26.3	20.2										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	25.0	19.2										
	出荷+販売段階	58.3	44.5										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	57.0	43.5										
岩手	出荷段階	45.1	32.6										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	45.0	32.6										
	販売段階	13.2	11.9										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	12.0	10.9										
宮城	出荷+販売段階	51.3	36.8										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	50.2	36.0										
	出荷段階	44.5	30.6										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	44.3	30.5										
秋田	販売段階	6.7	6.2										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	6.0	5.5										
	出荷+販売段階	80.2	58.9										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	78.8	57.7										
秋田	出荷段階	69.4	49.3										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	69.1	49.0										
	販売段階	10.7	9.6										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	9.7	8.7										
秋田	出荷+販売段階	78.6	51.1										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	74.4	47.9										
	出荷段階	62.4	39.0										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	60.1	37.4										
秋田	販売段階	16.3	12.1										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	14.3	10.6										

資料： 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注： 1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。  
 2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上若しくは年間の玄米仕入量が500トン以上）である。  
 3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。  
 4 年産の特定できない未検査米等を含んでいるため、28年産米と1年古米（27年産）の合計と一致しない場合がある。

(山形から埼玉)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
山形	出荷+販売段階	82.4	62.2										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	79.1	59.6										
	出荷段階	71.4	51.2										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	70.4	50.4										
福島	出荷+販売段階	82.4	57.3										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	80.7	56.0										
	出荷段階	65.2	43.1										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	64.7	42.7										
茨城	出荷+販売段階	29.0	36.8										
	29年産米		20.6										
	1年古米(28年産)	28.7	15.9										
	出荷段階	16.2	20.4										
	29年産米		13.2										
	1年古米(28年産)	16.1	7.1										
栃木	出荷+販売段階	66.1	48.0										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	61.8	45.0										
	出荷段階	49.7	34.9										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	48.2	34.0										
群馬	出荷+販売段階	8.7	5.9										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	8.3	5.7										
	出荷段階	6.5	3.9										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	6.5	3.9										
埼玉	出荷+販売段階	12.9	10.6										
	29年産米		1.1										
	1年古米(28年産)	12.8	9.5										
	出荷段階	8.5	6.5										
	29年産米		0.7										
	1年古米(28年産)	8.4	5.8										
埼玉	販売段階	4.5	4.1										
	29年産米		0.4										
	1年古米(28年産)	4.4	3.6										

(千葉から静岡)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
千葉	出荷+販売段階	16.5	60.3										
	29年産米		52.5										
	1年古米(28年産)	16.4	7.7										
	出荷段階	10.6	48.9										
	29年産米		46.5										
	1年古米(28年産)	10.6	2.4										
	販売段階	5.9	11.4										
	29年産米		6.0										
	1年古米(28年産)	5.8	5.3										
東京	出荷+販売段階												
	29年産米												
	1年古米(28年産)												
	出荷段階												
	29年産米												
	1年古米(28年産)												
	販売段階												
	29年産米												
	1年古米(28年産)												
神奈川	出荷+販売段階	0.5	0.4										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	0.5	0.4										
	出荷段階	0.5	0.4										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	0.5	0.4										
	販売段階												
	29年産米												
	1年古米(28年産)												
山梨	出荷+販売段階	1.7	1.0										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	1.7	1.0										
	出荷段階	1.4	0.8										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	1.3	0.8										
	販売段階	0.4	0.3										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	0.3	0.2										
長野	出荷+販売段階	24.8	17.8										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	24.7	17.8										
	出荷段階	21.6	15.0										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	21.6	15.0										
	販売段階	3.3	2.9										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	3.1	2.8										
静岡	出荷+販売段階	2.9	6.0										
	29年産米		4.3										
	1年古米(28年産)	2.8	1.6										
	出荷段階	2.1	3.9										
	29年産米		2.5										
	1年古米(28年産)	2.1	1.3										
	販売段階	0.8	2.1										
	29年産米		1.7										
	1年古米(28年産)	0.7	0.3										

(新潟から愛知)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
新潟	出荷+販売段階	93.9	60.8										
	29年産米		0.1										
	1年古米(28年産)	89.4	58.6										
	出荷段階	80.0	50.8										
	29年産米		0.1										
	1年古米(28年産)	77.6	49.5										
	販売段階	13.9	10.0										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	11.8	9.0										
富山	出荷+販売段階	31.5	20.2										
	29年産米		0.6										
	1年古米(28年産)	31.3	19.5										
	出荷段階	25.2	15.1										
	29年産米		0.3										
	1年古米(28年産)	25.2	14.8										
	販売段階	6.3	5.0										
	29年産米		0.3										
	1年古米(28年産)	6.1	4.6										
石川	出荷+販売段階	17.7	12.1										
	29年産米		1.2										
	1年古米(28年産)	17.5	10.8										
	出荷段階	14.2	8.9										
	29年産米		0.4										
	1年古米(28年産)	14.1	8.5										
	販売段階	3.5	3.1										
	29年産米		0.8										
	1年古米(28年産)	3.4	2.3										
福井	出荷+販売段階	15.8	15.8										
	29年産米		4.9										
	1年古米(28年産)	15.8	10.9										
	出荷段階	12.7	11.1										
	29年産米		2.4										
	1年古米(28年産)	12.7	8.7										
	販売段階	3.1	4.7										
	29年産米		2.5										
	1年古米(28年産)	3.1	2.2										
岐阜	出荷+販売段階	12.0	10.5										
	29年産米		1.6										
	1年古米(28年産)	10.9	8.1										
	出荷段階	9.0	7.8										
	29年産米		1.3										
	1年古米(28年産)	8.9	6.5										
	販売段階	3.0	2.7										
	29年産米		0.3										
	1年古米(28年産)	2.0	1.6										
愛知	出荷+販売段階	12.8	11.9										
	29年産米		2.3										
	1年古米(28年産)	12.4	9.4										
	出荷段階	10.8	9.6										
	29年産米		1.6										
	1年古米(28年産)	10.8	8.0										
	販売段階	2.0	2.2										
	29年産米		0.7										
	1年古米(28年産)	1.6	1.4										

(三重から奈良)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
三 重	出荷+販売段階	7.5	16.9										
	29年産米		12.7										
	1年古米(28年産)	7.0	4.0										
	出荷段階	5.5	13.4										
	29年産米		10.4										
	1年古米(28年産)	5.2	2.7										
	販売段階	2.0	3.6										
	29年産米		2.2										
	1年古米(28年産)	1.8	1.2										
滋 賀	出荷+販売段階	15.1	13.3										
	29年産米		3.7										
	1年古米(28年産)	14.7	9.3										
	出荷段階	12.3	10.0										
	29年産米		3.3										
	1年古米(28年産)	11.9	6.5										
	販売段階	2.9	3.2										
	29年産米		0.4										
	1年古米(28年産)	2.8	2.8										
京 都	出荷+販売段階	5.3	3.6										
	29年産米		0.1										
	1年古米(28年産)	5.2	3.6										
	出荷段階	4.0	2.8										
	29年産米		0.1										
	1年古米(28年産)	4.0	2.7										
	販売段階	1.3	0.9										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	1.3	0.9										
大 阪	出荷+販売段階	0.9	0.6										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	0.9	0.6										
	出荷段階	0.7	0.5										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	0.7	0.5										
	販売段階	0.2	0.1										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	0.2	0.1										
兵 庫	出荷+販売段階	15.7	11.0										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	15.4	10.6										
	出荷段階	13.2	8.9										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	13.2	8.9										
	販売段階	2.5	2.0										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	2.1	1.7										
奈 良	出荷+販売段階	2.2	1.5										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	2.1	1.4										
	出荷段階	0.5	0.3										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	0.5	0.3										
	販売段階	1.7	1.2										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	1.6	1.1										

(和歌山から山口)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
和歌山	出荷+販売段階	0.8	0.5										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	0.8	0.5										
	出荷段階	0.6	0.4										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	0.6	0.4										
鳥取	出荷+販売段階	7.2	4.6										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	7.2	4.5										
	出荷段階	5.2	3.0										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	5.2	3.0										
島根	出荷+販売段階	8.3	6.3										
	29年産米		1.1										
	1年古米(28年産)	8.2	5.2										
	出荷段階	6.7	4.8										
	29年産米		0.9										
	1年古米(28年産)	6.7	3.8										
岡山	出荷+販売段階	14.9	10.2										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	14.8	10.1										
	出荷段階	11.4	7.5										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	11.4	7.4										
広島	出荷+販売段階	10.4	6.9										
	29年産米		0.3										
	1年古米(28年産)	10.3	6.4										
	出荷段階	7.5	4.8										
	29年産米		0.2										
	1年古米(28年産)	7.5	4.6										
山口	出荷+販売段階	11.5	8.8										
	29年産米		0.5										
	1年古米(28年産)	11.1	8.0										
	出荷段階	10.0	7.4										
	29年産米		0.4										
	1年古米(28年産)	10.0	7.0										
山口	販売段階	1.5	1.4										
	29年産米		0.1										
	1年古米(28年産)	1.1	1.0										

(徳島から佐賀)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
徳島	出荷+販売段階	2.3	10.8										
	29年産米		9.4										
	1年古米(28年産)	2.1	1.2										
	出荷段階	0.7	7.9										
	29年産米		7.6										
	1年古米(28年産)	0.7	0.3										
	販売段階	1.6	2.9										
	29年産米		1.8										
	1年古米(28年産)	1.4	0.9										
香川	出荷+販売段階	7.5	6.0										
	29年産米		0.7										
	1年古米(28年産)	7.3	5.2										
	出荷段階	6.4	5.1										
	29年産米		0.6										
	1年古米(28年産)	6.4	4.5										
	販売段階	1.1	0.9										
	29年産米		0.1										
	1年古米(28年産)	0.9	0.7										
愛媛	出荷+販売段階	4.2	5.3										
	29年産米		2.4										
	1年古米(28年産)	3.9	2.8										
	出荷段階	3.8	5.0										
	29年産米		2.3										
	1年古米(28年産)	3.5	2.5										
	販売段階	0.4	0.4										
	29年産米		0.1										
	1年古米(28年産)	0.4	0.3										
高知	出荷+販売段階	3.7	11.7										
	29年産米	0.4	9.2										
	1年古米(28年産)	3.1	2.4										
	出荷段階	1.1	6.6										
	29年産米	0.1	5.8										
	1年古米(28年産)	0.9	0.7										
	販売段階	2.6	5.1										
	29年産米	0.3	3.3										
	1年古米(28年産)	2.2	1.6										
福岡	出荷+販売段階	22.5	16.7										
	29年産米		0.7										
	1年古米(28年産)	22.1	15.7										
	出荷段階	18.9	12.9										
	29年産米		0.4										
	1年古米(28年産)	18.8	12.4										
	販売段階	3.6	3.8										
	29年産米		0.3										
	1年古米(28年産)	3.3	3.3										
佐賀	出荷+販売段階	10.4	8.2										
	29年産米		1.2										
	1年古米(28年産)	10.2	6.9										
	出荷段階	9.1	7.0										
	29年産米		1.1										
	1年古米(28年産)	9.1	6.0										
	販売段階	1.3	1.2										
	29年産米		0.1										
	1年古米(28年産)	1.1	0.9										



(長崎から沖縄)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
長崎	出荷+販売段階	3.2	3.0										
	29年産米		0.8										
	1年古米(28年産)	3.2	2.2										
	出荷段階	2.8	2.7										
	29年産米		0.8										
	1年古米(28年産)	2.8	1.9										
熊本	出荷+販売段階	15.3	12.7										
	29年産米		2.6										
	1年古米(28年産)	15.1	9.8										
	出荷段階	11.5	8.6										
	29年産米		1.7										
	1年古米(28年産)	11.5	6.9										
大分	出荷+販売段階	6.5	5.0										
	29年産米		0.5										
	1年古米(28年産)	6.3	4.4										
	出荷段階	4.8	3.6										
	29年産米		0.3										
	1年古米(28年産)	4.8	3.3										
宮崎	出荷+販売段階	8.7	8.0										
	29年産米	5.2	5.6										
	1年古米(28年産)	3.4	2.4										
	出荷段階	6.8	4.3										
	29年産米	4.5	2.9										
	1年古米(28年産)	2.3	1.5										
鹿児島	出荷+販売段階	7.7	9.9										
	29年産米	0.5	4.3										
	1年古米(28年産)	6.8	5.4										
	出荷段階	5.4	5.3										
	29年産米	0.1	1.0										
	1年古米(28年産)	5.0	4.1										
沖縄	出荷+販売段階	0.6	0.3										
	29年産米	0.6	0.3										
	1年古米(28年産)												
	出荷段階	0.3	0.2										
	29年産米	0.3	0.2										
	1年古米(28年産)												
沖縄	販売段階	0.3	0.1										
	29年産米	0.3	0.1										
	1年古米(28年産)												

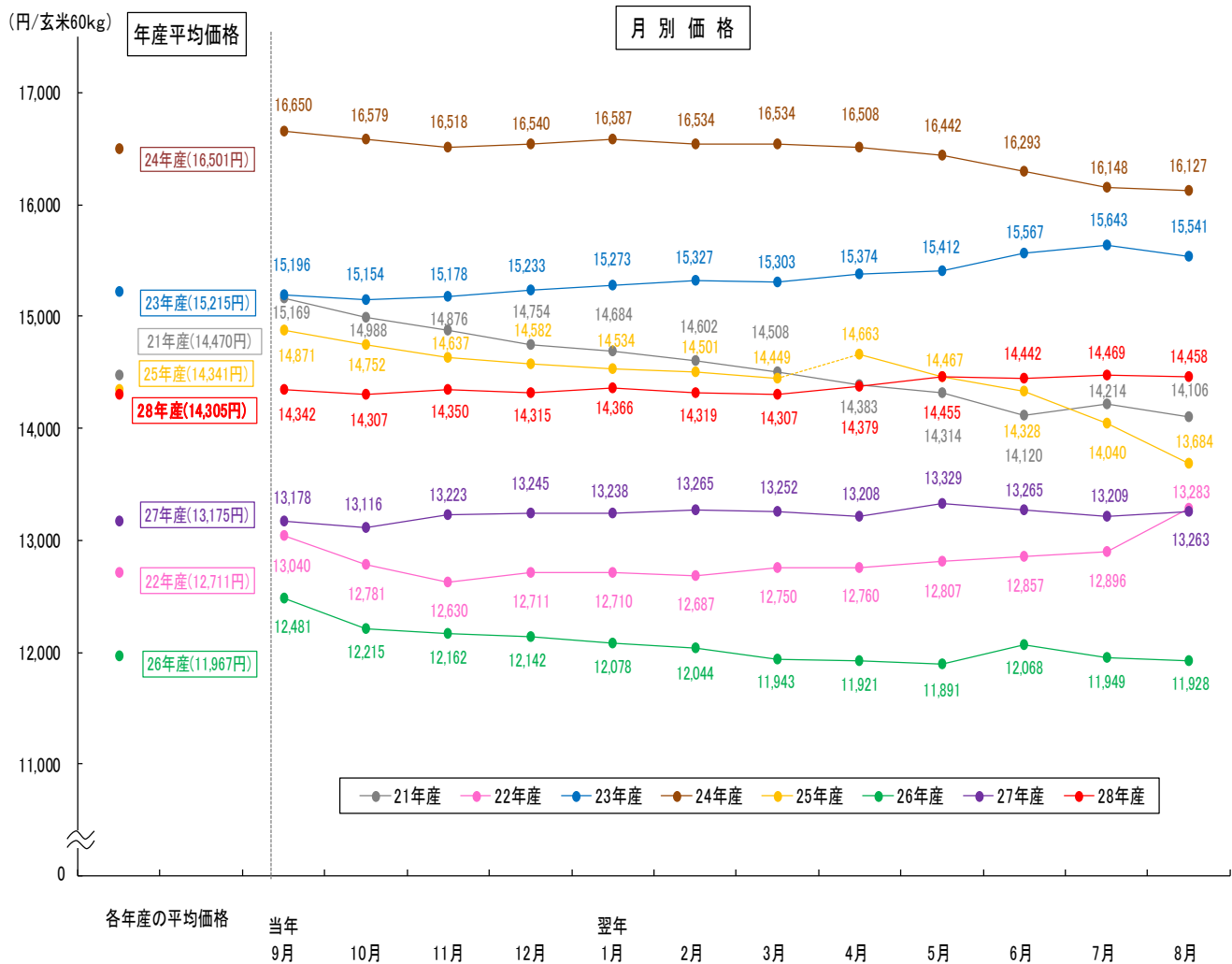
### Ⅲ 米の価格情報

#### 1 相対取引価格・数量

##### (1) 相対取引価格（年産別）

- 平成28年産米の平成29年8月の全銘柄平均価格は、前年産の同時期と比べ+1,195円/60kg。
- ※ 産地銘柄ごとの価格は、24頁以降を参照。

相対取引価格の推移（税込）  
（全銘柄平均価格）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 価格には、運賃、包装代、消費税（5%。ただし、25年産の26年4月分以降は8%）が含まれている。

3 グラフの左側は各年産の平均価格（注4）、それ以降は月ごとの価格の推移。

4 平均価格とは、当該年産の出回りから翌年10月（28年産は平成29年8月）までの通年平均価格。（28年産は速報値ベース）

## (2) 価格帯別分析結果（平成29年8月）

- 平成27年産米と平成28年産米の価格帯別平均価格を比較したところ、平成27年産の価格が13,000円以上の銘柄は+631円、11,000円未満の銘柄では+2,263円。
- 産地銘柄ごとでは、「福島県産天のつぶ」が最も上昇しており、次いで、「福島県産ひとめぼれ」、「福島県産コシヒカリ（浜通り）」という状況。

### 価格帯別相対取引価格

単位：円/玄米60kg（税込）

	平成27年産の相対取引価格			
	13,000円以上の銘柄の平均	13,000円～12,000円の銘柄の平均	12,000円～11,000円の銘柄の平均	11,000円未満の銘柄の平均
平成27年産(出回り～28年10月) ①	14,625	12,640	11,606	10,839
平成28年産(出回り～29年8月) (27年産価格帯ベース) ②	15,256	13,836	13,300	13,102
価格差 ②-①	+ 631	+ 1,196	+ 1,694	+ 2,263

### 平成27年産と平成28年産の価格差（相対取引価格上昇幅上位10銘柄）

単位：円/玄米60kg（税込）

			平成27年産 (出回り～平成28年10月) ①	平成28年産 (出回り～平成29年8月) ②	価格差 ②-①
福島	天のつぶ		10,530	13,354	+ 2,824
福島	ひとめぼれ		11,146	13,398	+ 2,252
福島	コシヒカリ	浜通り	11,138	13,376	+ 2,238
茨城	ゆめひたち		10,795	13,024	+ 2,229
栃木	あさひの夢		11,382	13,586	+ 2,204
群馬	ゆめまつり		11,525	13,610	+ 2,085
千葉	ふさおとめ		10,988	12,993	+ 2,005
群馬	あさひの夢		11,844	13,803	+ 1,959
岡山	あきたこまち		11,885	13,842	+ 1,957
栃木	なすひかり		12,021	13,900	+ 1,879

### (3) 相対取引価格・数量（平成28年産米、産地品種銘柄別、平成29年8月分）

#### 相対取引価格・数量①（北海道から栃木まで）

（単位：円／玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格 28年産米 (29年8月) ①	数量 28年産米 (29年8月) ②	参 考								年産平均価格		
				価格				数量				28年産米 〔出回り～ 29年8月〕	27年産米 〔出回り～ 28年10月〕	対前年比
				28年産米 (29年7月)	対前月比	27年産米 (28年8月)	対前年比	28年産米 (29年7月)	対前月比	27年産米 (28年8月)	対前年比			
				/	/	/	/	/	/	/	/			
北海道	ななつぼし	14,747	2,867	14,795	100%	13,437	110%	3,138	91%	4,244	68%	14,236	13,117	109%
北海道	ゆめぴりか	16,643	609	17,054	98%	16,518	101%	999	61%	1,402	43%	16,480	16,209	102%
北海道	きらら397	14,483	153	14,586	99%	13,323	109%	377	41%	299	51%	14,142	12,508	113%
青森	まっしぐら	13,445	1,242	13,176	102%	11,823	114%	1,171	106%	3,073	40%	13,211	11,582	114%
青森	つがるロマン	14,193	434	14,192	100%	12,268	116%	556	78%	1,345	32%	13,422	11,787	114%
岩手	ひとめぼれ	13,857	471	14,303	97%	12,859	108%	1,595	30%	485	97%	13,836	12,930	107%
岩手	あきたこまち	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,476	12,422	108%
岩手	いわてっこ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,242	11,898	111%
宮城	ひとめぼれ	14,278	1,441	13,965	102%	12,784	112%	1,323	109%	1,648	87%	13,945	12,827	109%
宮城	ササニシキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,114	12,815	110%
宮城	つや姫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,376	13,393	107%
秋田	あきたこまち	14,136	8,665	14,148	100%	12,713	111%	8,332	104%	7,300	119%	14,174	12,845	110%
秋田	めんこいな	13,498	1,002	13,309	101%	11,581	117%	347	289%	250	401%	13,428	11,928	113%
秋田	ひとめぼれ	13,664	1,220	13,637	100%	11,902	115%	1,034	118%	603	202%	13,687	12,066	113%
山形	はえぬき	13,741	2,822	13,755	100%	12,330	111%	2,693	105%	5,959	47%	13,834	12,445	111%
山形	つや姫	17,937	440	18,140	99%	18,116	99%	827	53%	1,252	35%	17,867	17,953	100%
山形	ひとめぼれ	13,940	466	14,117	99%	12,364	113%	606	77%	934	50%	14,532	13,227	110%
福島	コシヒカリ(中通り)	13,860	5,805	13,828	100%	12,099	115%	2,554	227%	2,419	240%	13,877	12,048	115%
福島	コシヒカリ(会津)	14,620	696	14,361	102%	13,369	109%	1,952	36%	477	146%	14,208	13,424	106%
福島	コシヒカリ(浜通り)	13,529	119	13,249	102%	-	-	1,045	11%	-	-	13,376	11,138	120%
福島	ひとめぼれ	13,625	636	13,611	100%	11,107	123%	1,066	60%	1,535	41%	13,398	11,146	120%
福島	天のつぶ	13,489	992	13,153	103%	10,504	128%	535	185%	341	291%	13,354	10,530	127%
茨城	コシヒカリ	14,578	1,679	14,259	102%	12,921	113%	1,281	131%	1,046	161%	13,778	12,648	109%
茨城	あきたこまち	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,247	11,769	113%
茨城	ゆめひたち	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,024	10,795	121%
栃木	コシヒカリ	14,048	3,384	14,004	100%	13,024	108%	2,810	120%	7,101	48%	13,830	12,904	107%
栃木	あさひの夢	13,821	297	13,264	104%	11,334	122%	277	107%	718	41%	13,586	11,382	119%
栃木	なすひかり	13,596	363	13,903	98%	12,144	112%	237	153%	410	89%	13,900	12,021	116%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。
- 2 産地品種銘柄ごとの価格（①）は、出荷業者と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の価格（運賃、包装代、消費税を含む1等米の価格）を加重平均したものであり、数量（②）は、同契約の数量の合計である。  
ただし、全農が締結する「福島、茨城、鳥取、岡山、高知」の契約では、27年産から契約方法を見直し、これまでの運賃（東京、大阪着基準）を含めた契約方法から、産地在姿での契約方法に変更したため、当該産地の相対取引価格には全農契約分の運賃が含まれていない。
- 3 価格に含む消費税は、平成26年4月分から8%で算定している。
- 4 加重平均に際しては、新潟、長野、静岡以東（東日本）の産地品種銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西（西日本）の産地品種銘柄については受渡地を西日本としているものを対象としている。
- 5 相対取引価格は、個々の契約内容に応じて設定される大口割引等の割引などが適用された価格であり、実際の引取状況に応じて価格調整（等級及び付加価値等（栽培方法等））が行われることがある。
- 6 全銘柄平均価格（次々頁）は、報告対象産地品種銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均により算定。
- 7 ④及び⑥は前年産の価格、数量である。
- 8 「-」は、当該月の相対取引契約がなかったもの又は当該月の相対取引数量が100トン未満であり、価格の公表を行わないもの。
- 9 斜線は、当該年産米において産地品種銘柄の報告対象でなかったもの。

相対取引価格・数量②（群馬から兵庫まで）

（単位：円／玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格 28年産米 (29年8月) ①	数量 28年産米 (29年8月) ②	参 考								年産平均価格		
				価格				数量				28年産米	27年産米	対前年比
				28年産米 (29年7月)	対前月比	27年産米 (28年8月)	対前年比	28年産米 (29年7月)	対前月比	27年産米 (28年8月)	対前年比	(出回り～ 29年8月)	(出回り～ 28年10月)	
	/		/		/		/							
群馬	あさひの夢	13,500	674	13,500	100%	11,356	119%	437	154%	926	73%	13,803	11,844	117%
群馬	ゆめまつり	13,500	467	13,500	100%	11,335	119%	238	196%	505	92%	13,610	11,525	118%
埼玉	彩のかがやき	13,604	374	-	-	12,391	110%	-	-	447	84%	13,372	11,878	113%
埼玉	コシヒカリ	14,060	279	-	-	13,007	108%	-	-	284	98%	13,841	12,878	107%
埼玉	彩のきずな	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,301	-	-
千葉	コシヒカリ	13,777	247	13,871	99%	12,222	113%	346	71%	431	57%	13,718	12,530	109%
千葉	ふさこがね	-	-	12,926	-	-	-	218	-	-	-	12,835	11,120	115%
千葉	ふさおとめ	-	-	13,167	-	10,476	-	137	-	250	-	12,993	10,988	118%
山梨	コシヒカリ	16,893	497	16,861	100%	16,518	102%	439	113%	565	88%	16,977	15,993	106%
山梨	あさひの夢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,687	13,328	103%
長野	コシヒカリ	14,526	533	-	-	-	-	-	-	-	-	14,538	13,782	105%
長野	あきたこまち	13,558	126	-	-	-	-	-	-	-	-	13,596	12,485	109%
静岡	コシヒカリ	14,958	226	14,914	100%	14,304	105%	238	95%	229	99%	14,845	14,238	104%
静岡	きぬむすめ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,296	12,618	105%
静岡	あいちのかおり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,386	12,638	106%
新潟	コシヒカリ(一般)	15,716	1,724	15,856	99%	16,185	97%	1,064	162%	1,058	163%	16,176	16,186	100%
新潟	コシヒカリ(魚沼)	20,960	740	21,292	98%	21,031	100%	653	113%	556	133%	20,416	20,442	100%
新潟	コシヒカリ(岩船)	-	-	-	-	16,618	-	-	-	208	-	16,834	16,628	101%
新潟	コシヒカリ(佐渡)	17,062	160	-	-	16,443	104%	-	-	129	124%	16,967	16,600	102%
新潟	こしいぶき	13,827	425	13,666	101%	12,834	108%	533	80%	312	136%	13,670	12,412	110%
富山	コシヒカリ	14,860	1,444	14,890	100%	14,006	106%	1,726	84%	2,398	60%	15,100	14,228	106%
富山	てんたく	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,861	12,563	110%
石川	コシヒカリ	14,770	784	-	-	13,741	107%	-	-	211	372%	14,815	13,901	107%
石川	ゆめみづほ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,233	11,899	111%
福井	コシヒカリ	14,871	179	14,937	100%	14,580	102%	278	64%	136	132%	14,929	14,206	105%
福井	ハナエチゼン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,527	12,519	108%
岐阜	ハツシモ	-	-	14,500	-	-	-	126	-	-	-	13,956	12,798	109%
岐阜	コシヒカリ	-	-	14,415	-	15,236	-	220	-	119	-	15,154	14,307	106%
岐阜	あきたこまち	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,220	12,535	105%
愛知	あいちのかおり	13,644	871	13,579	100%	12,411	110%	765	114%	672	130%	13,488	12,382	109%
愛知	コシヒカリ	14,173	115	-	-	-	-	-	-	-	-	13,823	13,210	105%
愛知	大地の風	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,466	12,051	112%
三重	コシヒカリ(一般)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,369	13,625	105%
三重	コシヒカリ(伊賀)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,781	14,131	105%
三重	キヌヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,356	12,558	106%
滋賀	コシヒカリ	-	-	14,224	-	14,116	-	142	-	115	-	14,346	13,601	105%
滋賀	キヌヒカリ	13,126	123	13,285	99%	-	-	211	58%	-	-	13,270	12,258	108%
滋賀	日本晴	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12,902	11,859	109%
京都	コシヒカリ	-	-	15,069	-	-	-	106	-	-	-	15,194	14,109	108%
京都	キヌヒカリ	-	-	14,078	-	-	-	329	-	-	-	13,706	12,729	108%
兵庫	コシヒカリ	-	-	-	-	13,486	-	-	-	170	-	15,193	14,439	105%
兵庫	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,207	12,000	110%
兵庫	キヌヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,174	11,961	110%

注：本表の注意点は、前頁の脚注を参照。

相対取引価格・数量③（奈良から鹿児島まで）

（単位：円／玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格 28年産米 (29年8月) ①	数量 28年産米 (29年8月) ②	参 考								年産平均価格		
				価格				数量				28年産米	27年産米	対前年比 /
				28年産米 (29年7月)	対前月比 /	27年産米 (28年8月)	対前年比 /	28年産米 (29年7月)	対前月比 /	27年産米 (28年8月)	対前年比 /	〔出回り～ 29年8月〕	〔出回り～ 28年10月〕	
奈良	ヒノヒカリ	13,090	203	12,588	104%	12,097	108%	146	139%	776	26%	12,919	12,123	107%
奈良	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,155	12,525	105%
鳥取	コシヒカリ	-	-	14,044	-	-	-	161	-	-	-	14,006	13,306	105%
鳥取	きぬむすめ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,173	12,316	107%
鳥取	ひとめぼれ	-	-	13,180	-	-	-	319	-	-	-	13,064	12,112	108%
島根	コシヒカリ	15,185	1,016	15,603	97%	14,216	107%	717	142%	663	153%	14,790	13,606	109%
島根	きぬむすめ	13,622	738	13,511	101%	12,907	106%	423	174%	135	547%	13,426	12,511	107%
島根	つや姫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,530	-	-
岡山	アケボノ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,361	11,536	116%
岡山	あきたこまち	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,842	11,885	116%
岡山	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,804	12,051	115%
広島	コシヒカリ	-	-	-	-	12,724	-	-	-	761	-	14,157	12,933	109%
広島	あきろまん	-	-	-	-	12,077	-	-	-	220	-	13,155	11,983	110%
広島	ヒノヒカリ	-	-	12,960	-	11,666	-	107	-	342	-	12,835	11,764	109%
山口	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,446	13,708	105%
山口	ひとめぼれ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,291	12,648	105%
山口	ヒノヒカリ	13,481	123	-	-	-	-	-	-	-	-	13,355	12,696	105%
徳島	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,032	12,970	108%
徳島	キヌヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,275	11,561	115%
香川	ヒノヒカリ	13,144	902	13,167	100%	12,331	107%	884	102%	941	96%	13,185	12,322	107%
香川	コシヒカリ	13,915	718	13,942	100%	13,238	105%	881	81%	667	108%	13,868	13,343	104%
愛媛	コシヒカリ	13,216	256	13,124	101%	-	-	298	86%	-	-	13,326	12,536	106%
愛媛	ヒノヒカリ	12,378	132	12,347	100%	-	-	164	80%	-	-	12,473	11,740	106%
愛媛	あきたこまち	12,356	119	-	-	-	-	-	-	-	-	12,530	11,732	107%
高知	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,481	13,511	107%
高知	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,602	12,630	108%
福岡	夢つくし	15,423	439	15,893	97%	14,936	103%	340	129%	568	77%	15,780	15,215	104%
福岡	ヒノヒカリ	14,452	285	14,341	101%	13,574	106%	123	232%	900	32%	14,196	13,493	105%
福岡	元気つくし	15,788	1,321	15,803	100%	15,253	104%	677	195%	754	175%	15,614	14,998	104%
佐賀	さがびより	14,242	581	14,194	100%	14,115	101%	600	97%	833	70%	14,133	14,089	100%
佐賀	夢しずく	13,442	499	13,384	100%	12,850	105%	556	90%	696	72%	13,333	12,940	103%
佐賀	ヒノヒカリ	12,966	254	12,999	100%	12,517	104%	252	101%	691	37%	13,075	12,630	104%
長崎	にこまる	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,713	14,180	104%
長崎	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,395	13,857	104%
長崎	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,191	14,785	103%
熊本	ヒノヒカリ	14,259	269	14,181	101%	13,772	104%	949	28%	877	31%	14,242	13,608	105%
熊本	森のくまさん	-	-	14,760	-	14,523	-	160	-	258	-	14,526	14,330	101%
熊本	コシヒカリ	-	-	15,615	-	-	-	388	-	-	-	15,786	14,534	109%
大分	ヒノヒカリ	14,312	255	-	-	13,247	108%	-	-	137	186%	14,174	13,197	107%
大分	ひとめぼれ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,462	13,402	108%
宮崎	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,721	14,266	103%
宮崎	ヒノヒカリ	-	-	-	-	13,656	-	-	-	210	-	14,363	13,622	105%
鹿児島	ヒノヒカリ	15,410	210	15,510	99%	14,295	108%	298	70%	129	163%	15,217	14,229	107%
鹿児島	あきほなみ	-	-	16,427	-	14,817	-	130	-	127	-	15,405	14,822	104%
鹿児島	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,222	14,414	106%
全銘柄平均価格、合計数量		14,458	55,951	14,469	100%	13,263	109%	52,929	106%	64,347	87%	14,305	13,175	109%

注：本表の注意点は、前々頁の脚注を参照。

## (4) スポット価格の状況

〔○ スポット取引は、相当期間にわたり安定的に行う相対取引等と性格を異にするので利用に当たっては注意が必要。〕

### スポット価格 [日本コメ市場株式会社]

税抜価格

【平成29年産】

(関東到着基準、1等、包装代込、税抜、円/60kg)

産地、銘柄	日本コメ市場 (取引会)	平成29年 8月
北海道なつぼし	日本コメ市場 (取引会)	
北海道きらら397	日本コメ市場 (随時)	
青森まっしぐら	日本コメ市場 (取引会)	
青森つがるロマン	日本コメ市場 (随時)	
岩手ひとめぼれ	日本コメ市場 (取引会)	
宮城ひとめぼれ	日本コメ市場 (随時)	
	日本コメ市場 (取引会)	
秋田あきたこまち	日本コメ市場 (随時)	
	日本コメ市場 (取引会)	
福島中通コシヒカリ	日本コメ市場 (随時)	
福島中通ひとめぼれ	日本コメ市場 (取引会)	
茨城コシヒカリ	日本コメ市場 (随時)	
	日本コメ市場 (取引会)	
茨城あきたこまち	日本コメ市場 (取引会)	
栃木コシヒカリ	日本コメ市場 (随時)	
	日本コメ市場 (随時)	
	日本コメ市場 (取引会)	
栃木あさひの夢	日本コメ市場 (取引会)	
千葉コシヒカリ	日本コメ市場 (取引会)	14,550
千葉あきたこまち	日本コメ市場 (取引会)	14,387
千葉ふさこがね	日本コメ市場 (取引会)	
千葉ふさおとめ	日本コメ市場 (取引会)	14,003
新潟コシヒカリ (一般)	日本コメ市場 (随時)	
	日本コメ市場 (取引会)	
富山コシヒカリ	日本コメ市場 (取引会)	

### 【平成28年産】

(関東到着基準、1等、包装代込、税抜、円/60kg)

産地、銘柄	日本コメ市場 (取引会)	平成28年 8月	9月	10月	11月	12月	平成29年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
北海道なつぼし	日本コメ市場 (取引会)									15,193				
北海道きらら397	日本コメ市場 (随時)								14,106					
青森まっしぐら	日本コメ市場 (取引会)		12,925											
青森つがるロマン	日本コメ市場 (随時)				13,093	13,175		13,451						
岩手ひとめぼれ	日本コメ市場 (取引会)					13,500	13,557		13,500					
宮城ひとめぼれ	日本コメ市場 (随時)							13,550						14,367
	日本コメ市場 (取引会)													14,700
秋田あきたこまち	日本コメ市場 (随時)		13,507	13,691	13,635	13,646	13,893	14,544	14,466	14,419	14,958	15,300	15,600	
	日本コメ市場 (取引会)		13,471			13,731	13,883		14,391	14,614			15,500	
福島中通コシヒカリ	日本コメ市場 (随時)			13,200			13,160			13,533	13,550	14,390		
福島中通ひとめぼれ	日本コメ市場 (取引会)									13,360				
茨城コシヒカリ	日本コメ市場 (随時)								13,481	13,631	14,011	14,250		
	日本コメ市場 (取引会)	13,151	13,450				13,441		13,495	13,700				13,997
茨城あきたこまち	日本コメ市場 (取引会)	12,834												14,043
栃木コシヒカリ	日本コメ市場 (随時)													
	日本コメ市場 (随時)				13,200	13,147	13,500	13,586	13,601	13,725	13,765	14,168		
	日本コメ市場 (取引会)					13,145							14,350	
栃木あさひの夢	日本コメ市場 (取引会)					12,900	12,919							
千葉ふさこがね	日本コメ市場 (取引会)		12,913						13,310					
千葉ふさおとめ	日本コメ市場 (取引会)	12,661												
新潟コシヒカリ (一般)	日本コメ市場 (随時)										14,717	14,864	14,933	
	日本コメ市場 (取引会)		15,231			14,400	14,325		14,117	13,950			15,300	
富山コシヒカリ	日本コメ市場 (取引会)												14,412	14,550

出典：日本コメ市場株式会社HP

注：1 日本コメ市場 (随時) の価格は、随時取引 (取引日を限定せずに、ファックス、電話、IT等によって行う取引) の下期 (16日～月末分。ただし、下期が公表されていない場合は上期) の価格で、関東到着基準、1等、包装代込の価格。

2 日本コメ市場 (取引会) の価格は、原則毎月、東京、大阪及び福岡において日本コメ市場、クリスタルライスの共同で開催される取引会での成約価格 (取引数量により加重平均) であり、関東到着基準、1等、包装代込みの価格。

## 2 米の先物取引価格の推移

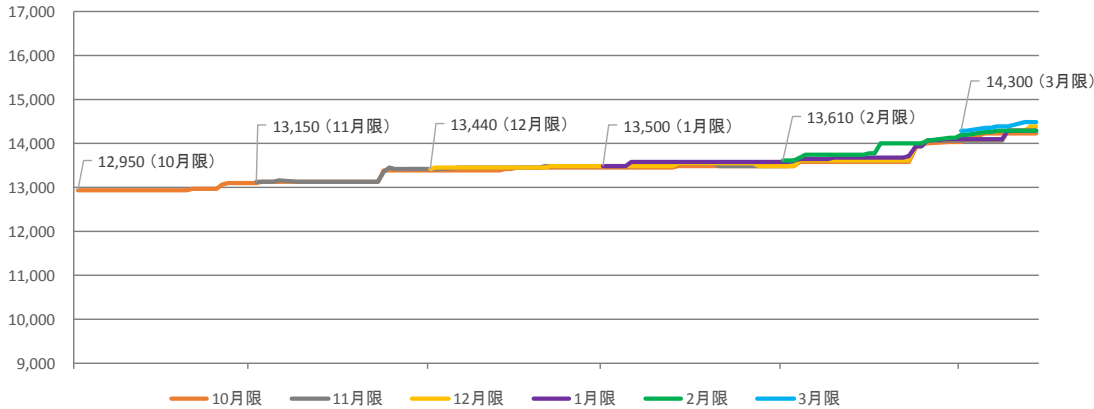
- 米の先物取引価格（10月4日）は、先月（9月4日）に比べ終値で、東京コメが+550円/60kg（2月限）～+770円/60kg（12月限）、大阪コメが+520円/60kg（2月限）～+1,350円/60kg（10月限）、新潟コシが+250円/60kg（10月限）～+600円/60kg（2月限）。

### ①東京コメ

（単位：円/60kg、包装代込、税抜）

※10月限より新穀（平成29年産）

税抜価格



14,500 (3月限)  
14,400 (12月限)  
14,310 (2月限)  
14,300 (11月限)  
14,300 (1月限)  
14,250 (10月限)

出典：大阪堂島商品取引所

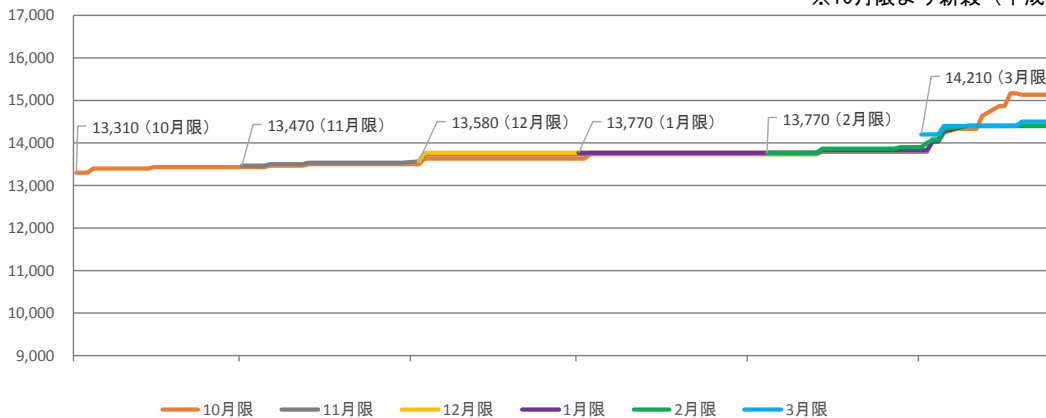
注：平成29年4月21日から平成29年10月4日までの価格の推移である。

### ②大阪コメ

（単位：円/60kg、包装代込、税抜）

※10月限より新穀（平成29年産）

税抜価格



15,150 (10月限)  
14,510 (3月限)  
14,400 (12月限)  
14,400 (1月限)  
14,400 (2月限)  
14,390 (11月限)

出典：大阪堂島商品取引所

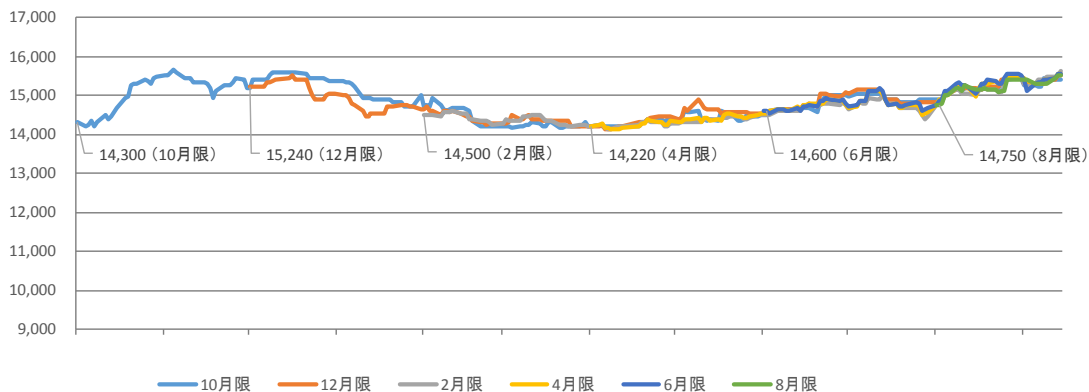
注：平成29年4月11日から平成29年10月4日までの価格の推移である。

### ③新潟コシ

（単位：円/60kg、包装代込、税抜）

※10月限より新穀（平成29年産）

税抜価格



15,610 (2月限)  
15,560 (4月限)  
15,560 (6月限)  
15,510 (8月限)  
15,510 (12月限)  
15,420 (10月限)

出典：大阪堂島商品取引所

注：平成28年10月21日から平成29年10月4日までの価格の推移である。



### 3 米取引関係者の判断(米穀機構による調査、平成29年9月分)

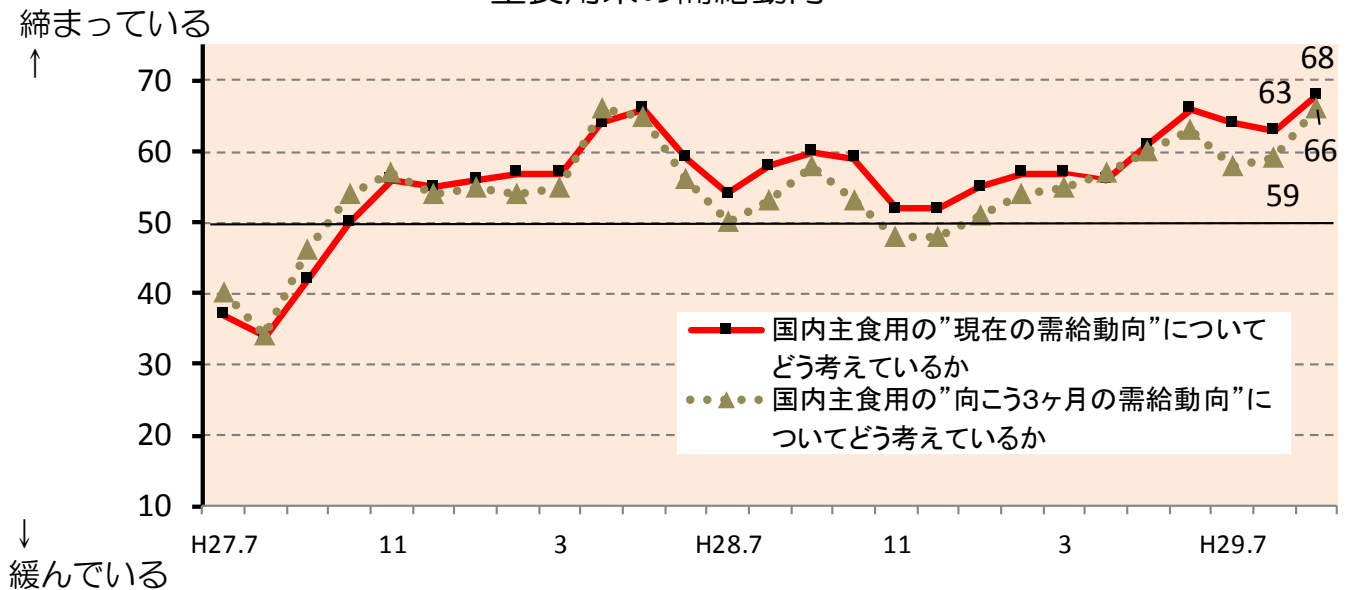
- 米穀機構が公表している米取引関係者の判断に関する調査(平成29年9月分)によると、主食用米の需給動向は、前月に比べ現状判断は+5ポイント、見通し(向こう3ヶ月)判断は+7ポイント。

#### 国内の主食用米の需給及び価格動向に関する判断(全体)

##### ① 主食用米の需給動向

(ア) 現状判断D I	前月からの増減 + 5 (今月の数値 68)
(イ) 見通し判断D I (向こう3ヶ月)	前月からの増減 + 7 (今月の数値 66)

#### 主食用米の需給動向



※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「締まっている」/「(将来) 締まる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「緩んでいる」/「(将来) 緩む」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

以上の他、「自社の取引状況に関する判断(業態ごと)」など  
 詳細な情報は、米穀機構ホームページ(米ネット)を参照ください。  
 【<http://www.komenet.jp/>】  
 また、マンスリーレポート(資料編)にも掲載しております。

##### 《アンケート方法等》

- 調査期間: 毎月1日から25日までの取引状況を踏まえて回答
- 調査方法: 電子メールを利用したアンケート調査
- 調査対象者: 全国の生産者、集出荷業者、卸・小売業者等の165客体
- 有効回答数: 127客体
  - 生産者…………… 11
  - 集出荷業者/団体…………… 22
  - 卸売業者(主に主食用米) …… 24
  - 小売業者/中食・外食業者 …… 51
  - その他…………… 19

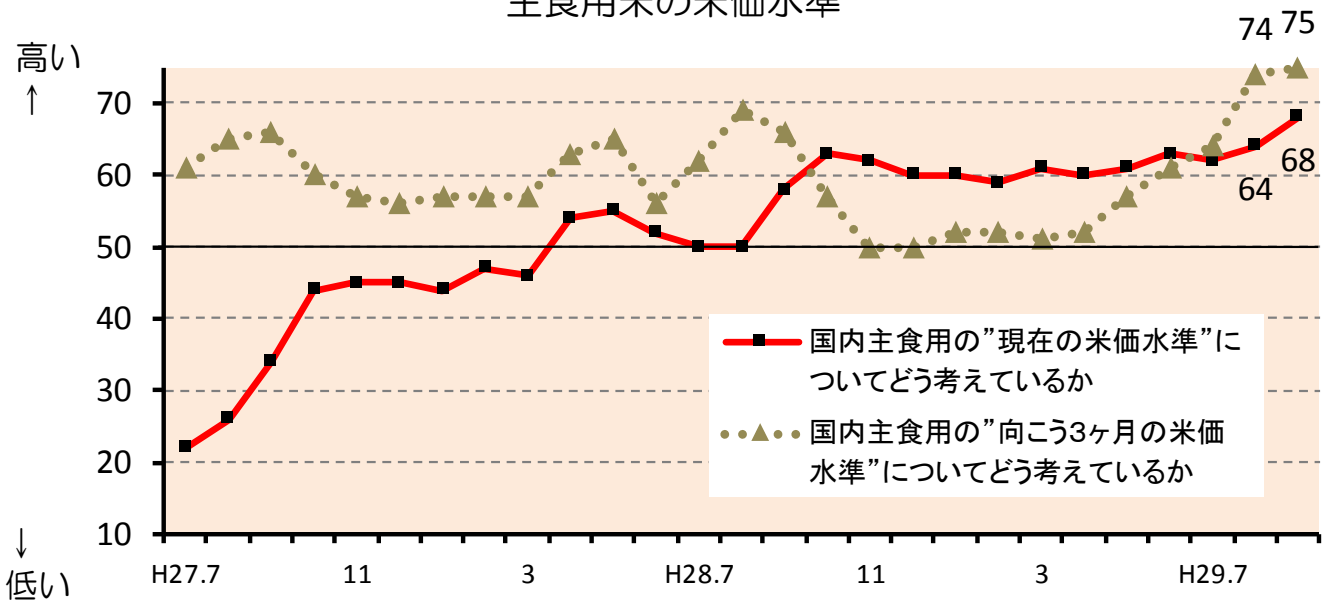
※「その他」は以下の業者です。  
 ・米穀の販売の事業を行う者のうち、主に加工原材料の卸売の事業を行う者  
 ・加工原材料米穀を使用し、加工食品(酒類を含む)を製造・販売する者

- 米価水準は、前月に比べ現状判断は+4ポイント、見通し（向こう3ヶ月）判断は+1ポイント。

② 主食用米の米価水準

(ア) 現状判断D I 前月からの増減 +4 (今月の数値 68)  
 (イ) 見通し判断D I (向こう3ヶ月) 前月からの増減 +1 (今月の数値 75)

主食用米の米価水準



※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「米価水準が高い」/「米価水準が高くなる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「米価水準が低い」/「米価水準が低くなる」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

《利用上の注意》

○ 表示単位未満の端数は四捨五入したため、合計と内訳が一致しないことがあります。

《DIの算出方法》

米の需給動向・価格水準などに関する現状、または先行きに対する5段階の判断(評価)にそれぞれ点数(評価点)を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じてDIを算出します。

ただし、DIの推移は、変化の方向性を示すものであり、その変化の大きさ(量感)を表すものではありません。例えば、大幅であろうが小幅であろうが、上昇するといった見方をする者の構成比が同じであれば、同じDIが観測されることに注意が必要です。

(DIの算出例)

問: 国内の主食用米の“向こう3ヶ月の米価水準”について、“現時点と比較”してどうなると考えていますか。

	高くなる	やや高くなる	同程度	やや低くなる	低くなる
評価点(A)	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0
構成比(B)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI(C=A×B)	17.8	15	10	5.6	0
DI(合計)	48.4				

## Ⅳ 主食用米以外（輸出を含む）

### 1 29年産米の作付状況

- 平成29年産米の作付面積は、主食用米が137.0万ha、主食用米以外が約23万ha。
- 主食用米以外の取組は、新規需要米14.3万ha、加工用米5.2万ha、備蓄米3.5万ha。

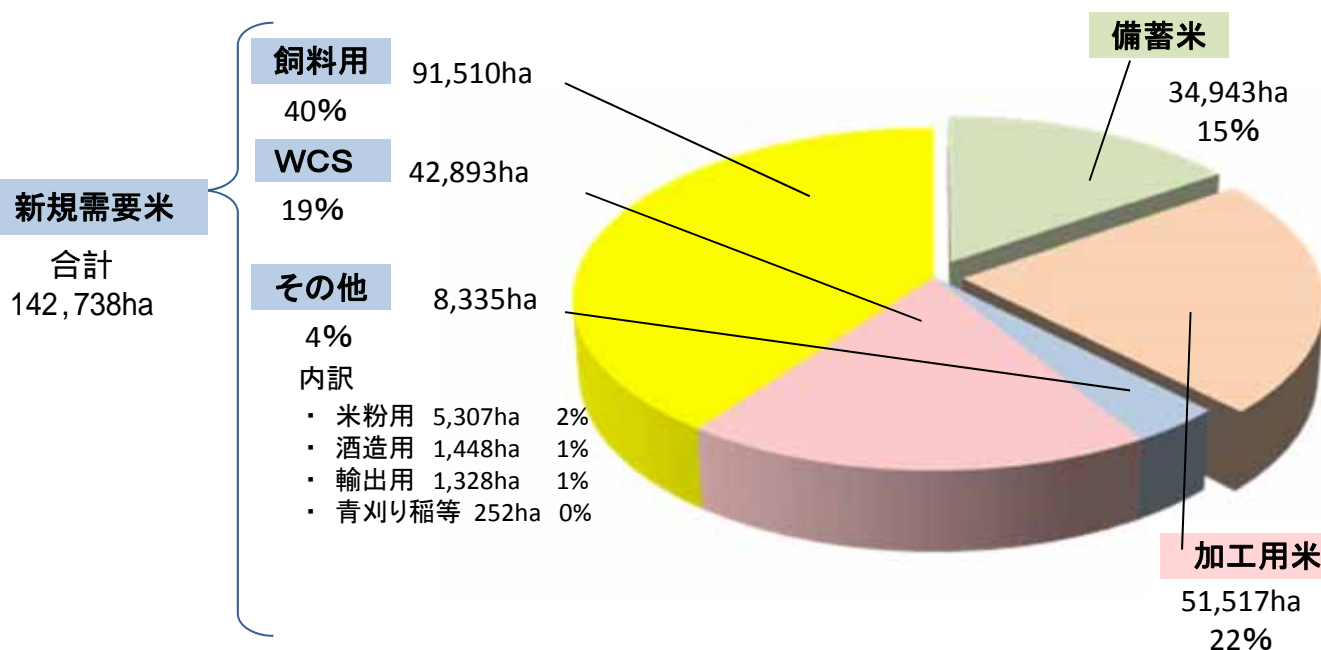
#### (1) 29年産米の用途別作付面積及び生産量

	計	主食用米	新規需要米	加工用米	備蓄米
作付面積（万ha）	160.0	137.0	14.3	5.2	3.5
生産量（万トン）		731	53	28	20

※主食用米の生産量は、計画生産量である

※WCS、青刈り等専用稲は生産量に計上していない

#### (2) 主食用米以外の取組状況（作付面積及び作付面積比率）



資料：新規需要米の作付面積は、農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況」の値。

加工用米の作付面積は、需給調整カウントとなる加工用米の取組として認定を受けた平成29年9月15日現在の値。

備蓄米作付面積は、都道府県農業再生協議会からの28年度報告値。

注1：需給調整カウントとなる新規需要米の取組として認定を受けた平成29年9月15日現在の値。

注2：「酒造用」は「需要に応じた米生産の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米を指す。

#### (3) 新規需要米の用途別認定状況

	新規需要米（29年産）	用途別						
		飼料用	米粉用	輸出用	酒造用	稲発酵粗飼料稲	青刈り稲等	その他
作付面積（ha）	142,738	91,510	5,307	1,328	1,448	42,893	241	11
計画生産量（ト）	526,461	483,325	28,331	7,349	7,424			31

資料：農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況」。

注1：需給調整カウントとなる新規需要米の取組として認定を受けた平成29年9月15日現在の値。

注2：「酒造用」は「需要に応じた米生産の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米を指す。

注3：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

## 2 加工用米及び新規需要米の取組状況概要

- 清酒、米菓、米穀粉などの原料として使用される米穀の平成27米穀年度における使用量は対前年と同程度の約95万トン程度（推計）。
- 種類別には、うるち米が約77万トン、もち米が約19万トン。制度別には、主食用米、加工用米及び特定米穀などの国産米が約8割。残りの約2割はMA米及び輸入米粉調製品の外国産米。
- 加工用米の生産量及び特定米穀の流通量が増加し、国産原料米を調達しやすい環境にあったことから、味噌を中心に、外国産原料からの転換が進んだところ。

### 27米穀年度（平成26年11月～27年10月）における加工原材料用米穀の使用状況（推計）

制度 用途	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	うるち米計
清酒用	12 (9)	10		3			25 (9)
米菓用	1	2		7	2	1	13
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	5	5					10
味噌用		1		7	1		9
焼酎用 (泡盛含む)		1		5	2		8
米穀粉用		1	2	2	2	1	8
その他用	1			2	1		4
合計	18	22	2	24	9	2	77

制度 用途	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	もち米計
包装もち用	3	2				2	7
米菓用	2	1		1	1	2	6
米穀粉用	1					1	3
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	1						1
その他用						1	2
合計	7	4		1	1	6	19

- 注1： 清酒用の（ ）書きは、酒造好適米で内数。  
 注2： 加工米飯用は、レトルト米飯用、冷凍米飯用などとして使用される原料米の使用量であり、無菌包装米飯用として使用される原料米約7万トンを含んでいない。  
 注3： 焼酎は単式蒸留しょうちゅう（穀類又はいも類、これらの麴等及び水を原料として発酵させたアルコール含有物を単式蒸留機により蒸留したアルコール度数が45度以下のもの（酒税法第3条第10号））であり、泡盛用として使用される原料米を含んでいる。  
 注4： その他用には、玄米茶用、みりん用、朝食シリアル用などがある。  
 注5： 特定米穀とは、水稲収穫量調査で使用するふるい目1.7mmと農家が出荷の際に使用する1.75～1.9mmの間の「ふるい下米」と、1.7mm未満の小さな粒の米（一般的に「くず米」と呼ばれているもの）の総称。  
 注6： ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

#### 【推計根拠】

- 用途別の原料米使用量合計は、加工団体等からの聞き取りのほか、以下のデータにより推計。  
 清酒用・・・「清酒の製造状況等について」（国税庁）  
 焼酎用・・・「課税移出数量」（国税庁）、米菓用、米穀粉用、加工米飯用、味噌用、包装もち用  
 その他用・・・「食品産業動態調査」（農林水産省）による生産量等
- 制度別の使用状況は、加工団体等からの聞き取りのほか、以下のデータにより推計。  
 主食用米・・・全国出荷団体等からの聞き取り。なお、酒造好適米は「農産物検査結果」（農林水産省）、  
 加工用米・・・「需要に応じた米生産の推進に関する要領」（農林水産省）に基づく報告  
 新規需要米（米粉用米）・・・「食品産業動態調査」（農林水産省）による生産量  
 MA米（SBS含む）・・・「販売実績」（農林水産省）  
 輸入米粉調製品・・・「貿易統計」（財務省）  
 特定米穀・・・1で推計した用途別原料米使用量から主食用米、加工用米、新規需要米（米粉用米）、MA米及び輸入米粉調製品を差し引いた数量

### 3 飼料用米の需要量

- 畜産側の平成29年産に係る飼料用米の需要量は、約120万トン。
  - ① 全農グループ飼料会社：年間約56万トン（米使用可能数量約82万トンのうちMA米・備蓄米含まない数量）
  - ② (協)日本飼料工業会組合員工場：年間約44万トン～61万トン（MA米・備蓄米を含まない数量）
  - ③ 全国酪農農業協同組合連合会の年間使用可能数量は、約1万トン（MA米、備蓄米を含む数量）
  - ④ 日本養鶏連の年間使用量は、約4万トン（MA米、備蓄米を含む数量）
  - ⑤ 畜産農家の新規需要量：76件、約2万トン（平成29年6月30日現在の報告分。追加情報は随時更新）
- 上記の地域別内訳、問い合わせ先は以下のとおり。

① 全農グループ飼料会社の飼料用米の使用可能数量（平成29年3月現在）

地区	年間使用可能数量 (千トン)	備考
北海道	88	ホクレンくみあい飼料
東北	217	J A全農北日本くみあい飼料
関東	146	J A東日本くみあい飼料・科学飼料研究所
北陸	30	J A東日本くみあい飼料
東海	46	〃
近畿・中国	46	J A西日本くみあい飼料
四国	32	〃
北九州	49	ジェイエイ北九州くみあい飼料
南九州	162	南日本くみあい飼料・科学飼料研究所
合計	817	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。  
 ※実際の使用にあたっては、搬入方法等により制限される可能性がある。

※問い合わせ先：JA全農 耕種総合対策部飼料用米対策課 TEL:03-6271-8279

② 日本飼料工業会組合員の工場の飼料用米需要量見込み（平成28年11月調査）

地区	需要量 (千トン：単年度)	備考
北海道	19～36	
東北	114～155	
関東	109～115	
中部	44～49	
関西	56～82	
九州	88～177	
合計	436～608	

注1) 輸入トウモロコシ価格以下であることが前提、価格水準により需要量は変動する。  
 注2) 上記の需要量には、MA米、備蓄米は含まない。  
 注3) 四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。  
 ※(協)日本飼料工業会は「飼料用米ダイヤル」を設置し、飼料用米を生産して売りたい産地の生産者や集荷業者、JA、飼料用米を使用したい傘下の全国の飼料メーカー(工場)との仲介を実施。

※問い合わせ先：「飼料用米ダイヤル」TEL:03-3583-8031 E-mail:Esamai@jafma.or.jp

③ 全国酪農農業協同組合連合会の飼料用米の使用可能数量（平成29年2月現在）

地区	年間使用可能数量 もしくは需要量 (千トン)	備考
北海道	9.8	政府所有米穀(MA米)使用
東北	2.0	政府所有米穀(備蓄米)と新規需要米併用
関東	1.2	政府所有米穀(備蓄米)と新規需要米併用
中部	0.4	新規需要米使用
関西	1.0	政府所有米穀(MA米)と新規需要米併用
九州	0.0	原料タンクの調整が必要
合計	14.4	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。  
 ※実際の使用にあたっては、搬入方法等によっては制限される可能性がある。  
 ※輸入トウモロコシ価格以下であることが前提の需要量  
 ※四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

※問い合わせ先：全国酪農農業協同組合連合会 購買部飼料製造課 TEL:03-5931-8007

④ 日本養鶏連の飼料用米の使用可能数量（平成29年2月現在）

地区	年間使用可能数量 もしくは需要量 (千トン：単年度)	備考
北海道	0.0	
東北	0.5	*粳米、不可
関東	1.5	
北陸	0.0	
東海	1.2	
近畿・中国	6.0	*粳米、不可
四国	0.0	
九州	26.0	*一部、粳米不可
合計	35.2	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。  
 ※実際の使用にあたっては、搬入方法等によっては制限される可能性がある。  
 ※輸入トウモロコシ価格以下であることが前提の需要量  
 ※四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

※問い合わせ先：日本養鶏連 事業部 TEL:03-5296-7041

⑤ 畜産農家の平成29年産飼料用米の新規需要量（平成29年6月30日現在）

都道府県	新規需要量		うち確保済み	
	件数	数量（トン）	件数	数量（トン）
北海道	1	未定		
宮城県	1	2,400		
岩手県	4	3,000	2	2,850
茨城県	2	40		
群馬県	4	113	1	1
埼玉県	1	40		
千葉県	6	2,103	0	227
山梨県	12	430		
長野県	8	1,307	7	757
静岡県	1	5		
愛知県	4	370	4	370
大阪府	3	14		
奈良県	5	1,610	2	380
広島県	1	1		
香川県	4	110		
福岡県	4	219		
長崎県	9	1		
大分県	2	2,100	0	60
宮崎県	2	2,425		
鹿児島県	2	2,000		
<b>合計</b>	<b>76</b>	<b>18,288</b>	<b>16</b>	<b>4,645</b>

※供給先が確保されていない新たな需要及びマッチング状況について、都道府県から報告のあった件数・数量を記載

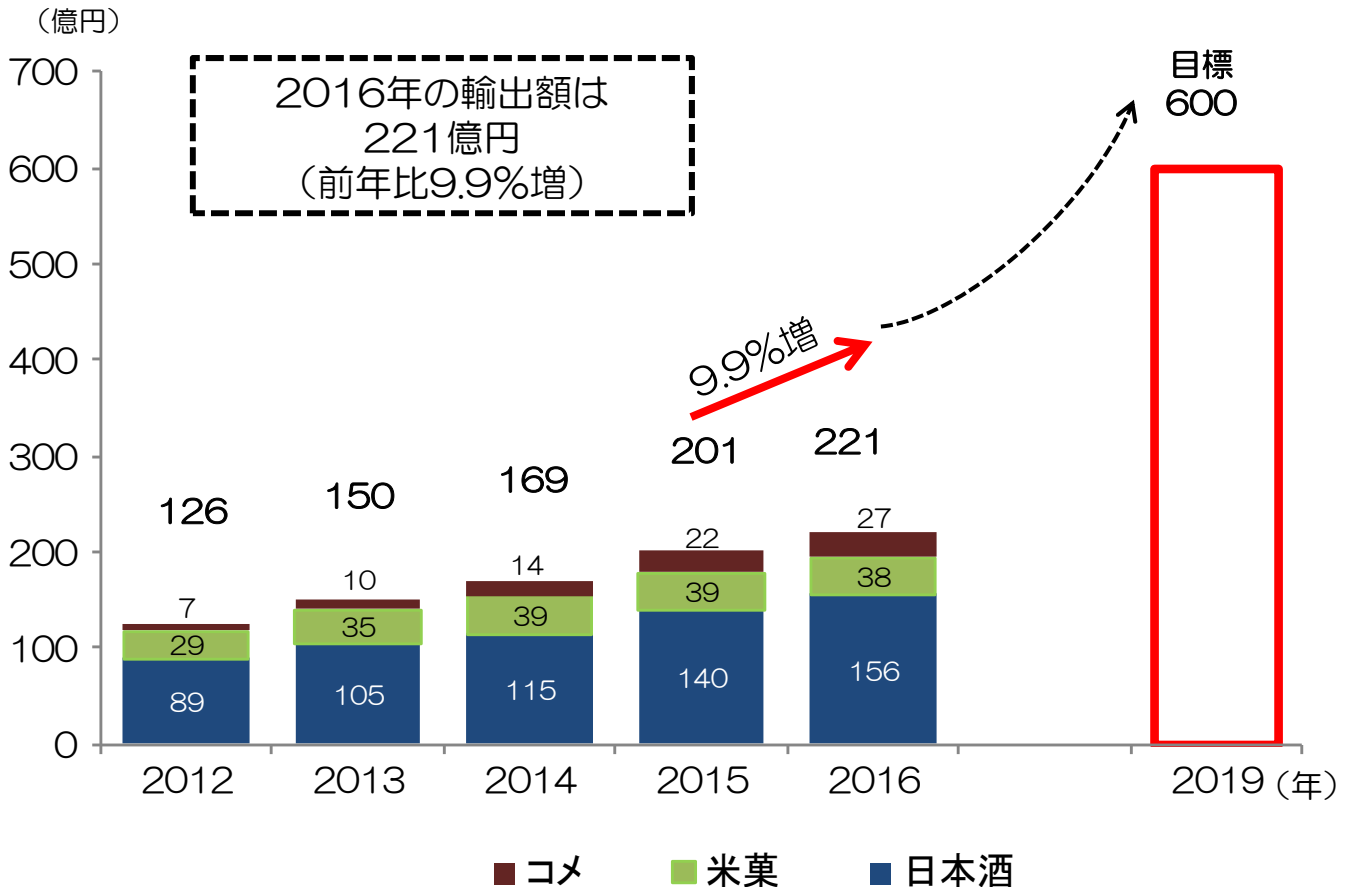
※一部確保済みの場合、件数0と記載

※問い合わせ先：生産局畜産部飼料課 TEL:03-3502-5993

## 4 コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額について

- 「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」（平成25年8月決定）の中で、コメ・コメ加工品の輸出額を2020年（平成32年）までに600億円とすることが決定。
- 2020年（平成32年）の輸出額1兆円目標について、「未来への投資を実現する経済対策」（平成28年8月決定）において、平成31年に1年前倒しすることとされ、オールジャパンでの輸出拡大を推進。
- 2016年の輸出額は、221億円（前年比9.9%増）。

### コメ・コメ加工品の輸出状況



### コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額

	日本酒		米菓		コメ	
	数量 キロリットル	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円
2012年	14,131	8,946	3,123	2,902	2,202	726
2013年	16,202	10,524	3,606	3,487	3,121	1,030
2014年	16,314	11,507	4,012	3,944	4,516	1,428
2015年	18,180	14,011	3,679	3,869	7,640	2,234
2016年	19,737	15,581	3,567	3,808	9,986	2,709

資料：財務省「貿易統計」（政府による食料援助を除く。）  
注：数量1トン未満、金額20万円未満は計上されていない。

## 5 コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について

### 2020年に向けた輸出額目標

「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」（平成25年8月決定）の中で、コメ・コメ加工品の輸出額を、平成32年までに600億円とすることとしている。

### 輸出拡大に向けた対応方向

コメ・コメ関連食品の輸出拡大のため、精米だけでなく、包装米飯・日本酒・米菓も含めたコメ加工品の輸出に力を入れることとしている。

#### 【コメ（包装米飯含む）】

現地での精米の取組や炊飯ロボットと合わせた外食への販売など、日本米のプレゼンスを高める取組を推進。

重点国

新興市場：台湾、豪州、EU、ロシア、中国、米国等

安定市場：香港、シンガポール



#### 【米菓】

相手国のニーズに合った商品の開発、手軽なスナックとしてのプロモーション強化。

重点国

新興市場：中東、中国、EU

安定市場：台湾、香港、シンガポール、米国



#### 【日本酒】

発信力の高い都市や重点市場でのイベント・事業を実施するほか、セミナー等を通じて、日本酒の良さについて普及。日本酒の生産増に対応した酒造好適米の増産が可能となるよう措置。

重点国

新興市場：EU、台湾、中国、ブラジル、ロシア、韓国

安定市場：米国、香港



### 輸出拡大に向けた取組

コメ・コメ関連食品の輸出拡大のため、他の品目に先がけて、オールジャパンでコメ・コメ関連食品の輸出を促進する全国団体（全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会）を平成26年11月27日に立ち上げ、統一ロゴマークの開発・発表、海外でのPRイベント等を開催。

日本産米輸出の統一ロゴマーク



THIS IS  
JAPAN QUALITY  
日本のおいしい米。



（注）QRコードから、日本産米のPR映像が流れるHPへリンク



## V 支援事業等

### (1) 水田活用の直接支払交付金

- 水田で麦、大豆、飼料用米、米粉用米等の作物を生産する農業者に対して交付金を直接交付することにより、水田のフル活用を推進し、食料自給率・自給力を向上。

### 水田活用の直接支払交付金(1)

【平成30年度予算概算要求額:3,304(3,150)億円】

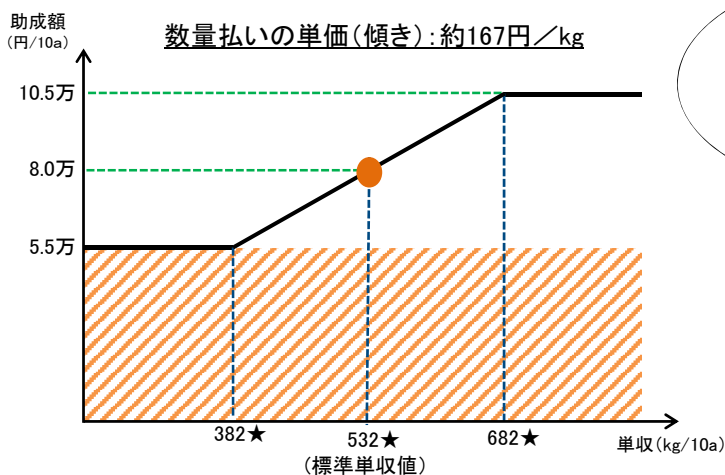
#### (1) 支援内容

##### ① 戦略作物助成

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物	3.5万円/10a
WCS用稲	8.0万円/10a
加工用米	2.0万円/10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じ、 5.5万円～10.5万円/10a

※ 子実用とうもろこし(飼料用)を含む

#### <飼料用米、米粉用米の交付単価のイメージ>



- 数量払いによる助成については、農産物検査機関による数量確認を受けていることを条件とします。
- ★は全国平均の平年単収(標準単収値)に基づく数値であり、各地域への適用に当たっては、市町村等が当該地域に応じて定めている単収(配分単収)を適用します。なお、各地域における標準単収値を当年産の作柄(作柄表示地帯別)に応じて調整します。

#### <標準単収値の作柄調整の考え方>

$$\text{標準単収値} = \text{配分単収} \times \frac{\text{当年産のふるい目1.70mm以上の10アール当たり収量}}{\text{ふるい目1.70mm以上の10アール当たり平年収量}}$$

(小数点以下切り上げ)

## 水田活用の直接支払交付金(2)

### ② 産地交付金

- 地域の作物振興の設計図となる「水田フル活用ビジョン」に基づき、高付加価値化や低コスト化を図りながら、地域の特色のある魅力的な産品の産地を創造するため、地域の裁量で活用可能な産地交付金により、二毛作や耕畜連携を含め、産地づくりに向けた取組を支援
- また、取組に応じた配分(下表参照)を都道府県に対して行う

対象作物	取組内容	配分単価
飼料用米、米粉用米	多収品種への取組	1.2万円/10a
加工用米	複数年契約(3年間)の取組 ※継続分のみ。	1.2万円/10a
そば、なたね	作付の取組 ※基幹作のみ。	2.0万円/10a

上記のほか、以下の取組に応じた配分を都道府県に対して行う

- ① 転換作物拡大 (1.0万円/10a)  
前年度実績よりも転換作物が拡大し、主食用米の作付面積が減少した場合に、その面積に応じて配分
- ② コメの新市場開拓 (2.0万円/10a)  
内外の新市場の開拓を図る米穀の作付面積に応じて配分
- ③ 畑地化 (10.5万円/10a)  
水田の畑地化面積(交付対象水田からの除外面積)に応じて配分

# 水田活用の直接支払交付金の支払面積等(1)

- 支払対象者数は45万7千件で、平成27年度の支払実績と比べて2万1千件減少。
- 支払面積は、戦略作物全体では57万8千haと、平成27年度に比べて2万4千ha増加。
- 作物別には、
  - (ア) 麦は、北海道、九州地方を中心に作付けがやや増加し、2千ha増の17万2千ha
  - (イ) 大豆は、北海道、東北、北陸地方及び熊本県で作付けが増加し、3千ha増の11万6千ha
  - (ウ) 飼料作物は、東北、九州地方を中心に作付けがやや増加、2千ha増の10万5千ha。
  - (エ) 新規需要米（WCS用稲、米粉用米、飼料用米）は、主食用米からの転換が全国的に進み、米粉用米を除いて作付けが増加、1万4千ha増の13万5千ha。
  - (オ) 加工用米は、4千ha増の5万ha。

## (1) 水田活用の直接支払交付金の支払対象者数

	支払対象者数 (件)	支払対象者		
		個人	法人	集落営農
平成28年度	457,225	440,118	11,037	6,070
平成27年度	478,293	461,858	9,931	6,504
対前年度比較	▲ 21,068	▲ 21,740	+ 1,106	▲ 434

## (2) 水田活用の直接支払交付金における戦略作物の支払面積

### ① 基幹作物＋二毛作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規需要米	新規需要米			加工用米	合計	(参考)		
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね	備蓄米
平成28年度	172,305	115,734	104,943	135,371	41,106	3,501	90,764	49,981	578,334	35,551	792	39,333
平成27年度	170,590	113,016	103,234	121,533	37,860	4,206	79,467	46,157	554,529	34,125	585	43,771
対前年度比較	+ 1,715	+ 2,718	+ 1,709	+ 13,839	+ 3,246	▲ 705	+ 11,298	+ 3,824	+ 23,805	+ 1,426	+ 207	▲ 4,438

### ② 基幹作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規需要米	新規需要米			加工用米	合計	(参考)	
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね
平成28年度	99,365	87,941	72,441	135,370	41,105	3,501	90,764	47,817	442,935	26,038	649
平成27年度	98,950	85,805	72,176	121,528	37,860	4,206	79,462	44,098	422,556	25,019	471
対前年度比較	+ 416	+ 2,136	+ 265	+ 13,843	+ 3,246	▲ 705	+ 11,302	+ 3,719	+ 20,379	+ 1,019	+ 178

### ③ 二毛作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規需要米	新規需要米			加工用米	合計	(参考)	
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね
平成28年度	72,939	27,793	32,502	1	1	-	0	2,165	135,399	9,513	142
平成27年度	71,640	27,211	31,057	5	-	-	5	2,059	131,973	9,106	114
対前年度比較	+ 1,299	+ 582	+ 1,445	▲ 4	+ 1	-	▲ 5	+ 105	+ 3,427	+ 407	+ 29

## 水田活用の直接支払交付金の支払面積等(2)

- 平成26年度から導入した米粉用米及び飼料用米の数量払い分の対象面積、数量、平均単収については、
  - (ア) 米粉用米では、3千5百ha（7百ha減）、1万9千トン（4千トン減）542kg/10a。
  - (イ) 飼料用米では、8万9千ha（1万1千ha増）、49万6千トン（6万4千トン増）、558kg/10a。

### (3) 米粉用米、飼料用米(数量払い分)の支払面積、支払数量、平均単収

	米粉用米			飼料用米		
	面積(ha)	数量(t)	単収(kg/10a)	面積(ha)	数量(t)	単収(kg/10a)
平成28年度	3,487	18,896	542	88,900	496,017	558
平成27年度	4,180	22,519	539	77,731	431,696	555
対前年度比較	▲ 693	▲ 3,623	+ 3	+ 11,168	+ 64,321	+ 3

注) 飼料用米等の数量払いは平成26年度から実施している。面積は、数量払いで交付した面積であるため、前記戦略作物の支払面積と異なっている。数量は、農産物検査機関による数量確認を受けた数量、単収は上記「数量」/「面積」により算定。数量払いの実績には、農産物検査を受けていない取組及び飼料用米を生もみで出荷又は利用する取組の面積及び数量は含まない。

### (4) 耕畜連携助成の支払面積

(単位:ha)

	飼料用米のわら利用	水田放牧	資源循環の取組	合計
平成28年度	23,055	1,298	28,208	52,560
平成27年度	19,866	1,299	25,636	46,800
対前年度比較	+ 3,189	▲ 1	+ 2,572	+ 5,760

## 米の直接支払交付金の支払面積等

- 支払対象者数は77万8千件で、平成27年度に比べて4万2千件減少。
- 支払面積は94万4千ha（10a控除前：102万6千ha）で、平成27年度に比べて9千ha減少。

### (5) 米の直接支払交付金の支払対象者数、支払面積

	支払対象者数(件)				支払面積(ha)	(参考)
		個人	法人	集落営農		支払面積10a控除前(ha)
平成28年度	778,026	765,175	8,651	4,200	943,757	1,026,079
平成27年度	820,373	808,023	7,806	4,544	953,064	1,039,251
対前年度比較	▲ 42,347	▲ 42,848	+ 845	▲ 344	▲ 9,307	▲ 13,172

## (2) 畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

- 諸外国との生産条件の格差により不利がある国産農産物（麦、大豆等）について、引き続き生産コストと販売額の差に相当する額を直接交付。

### 畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

【平成30年度予算概算要求額： 1,984(1,950)億円】

#### (1) 支援内容（数量払）

##### ① 麦類

品質区分 (等級/ランク)	1等				2等			
	A	B	C	D	A	B	C	D
小麦 (ハフ・中華麺用品種:60kg当たり)	8,990円	8,490円	8,340円	8,280円	7,830円	7,330円	7,180円	7,120円
小麦 (上記品種以外:60kg当たり)	6,690円	6,190円	6,040円	5,980円	5,530円	5,030円	4,880円	4,820円
二条大麦 (50kg当たり)	5,520円	5,100円	4,980円	4,930円	4,660円	4,240円	4,110円	4,060円
六条大麦 (50kg当たり)	6,000円	5,580円	5,450円	5,400円	4,970円	4,550円	4,430円	4,380円
はだか麦 (60kg当たり)	8,610円	8,110円	7,960円	7,870円	7,040円	6,540円	6,390円	6,310円

等級:被害粒の割合や粒揃いの違いで区分。A~Dランク:たんばく質の含有率等の違いで区分

##### ② 大豆

品質区分(等級)	1等	2等	3等
普通大豆(60kg当たり)	9,940円	9,250円	8,570円
特定加工用大豆(60kg当たり)	7,890円		

特定加工用:豆腐・油揚げ、しょうゆ、きなこ等製品の段階において、大豆の原形をとどめない用途に使用する大豆

##### ③ そば

品質区分(等級)	1等	2等
45kg当たり	17,470円	15,360円

等級:容積重の違いや被害粒の割合で区分

##### ④ なたね

品質区分(品種)	キザキノナタネ キラリボシ ナナシキブ	その他の 品種
60kg当たり	9,940円	9,200円

##### ⑤ てん菜

品質区分(糖度)	← (+0.1度)	16.3度	→ (▲0.1度)
1t当たり	+ 62円	7,180円	▲ 62円

糖度:てん菜の重量に対するショ糖の含有量

##### ⑥ でん粉原料用ばれいしょ

品質区分 (でん粉含有率)	← (+0.1%)	19.5%	→ (▲0.1%)
1t当たり	+ 64円	11,610円	▲ 64円

でん粉含有率:ばれいしょの重量に対するでん粉の含有量

## (2) 支援内容（面積払（営農継続支払））

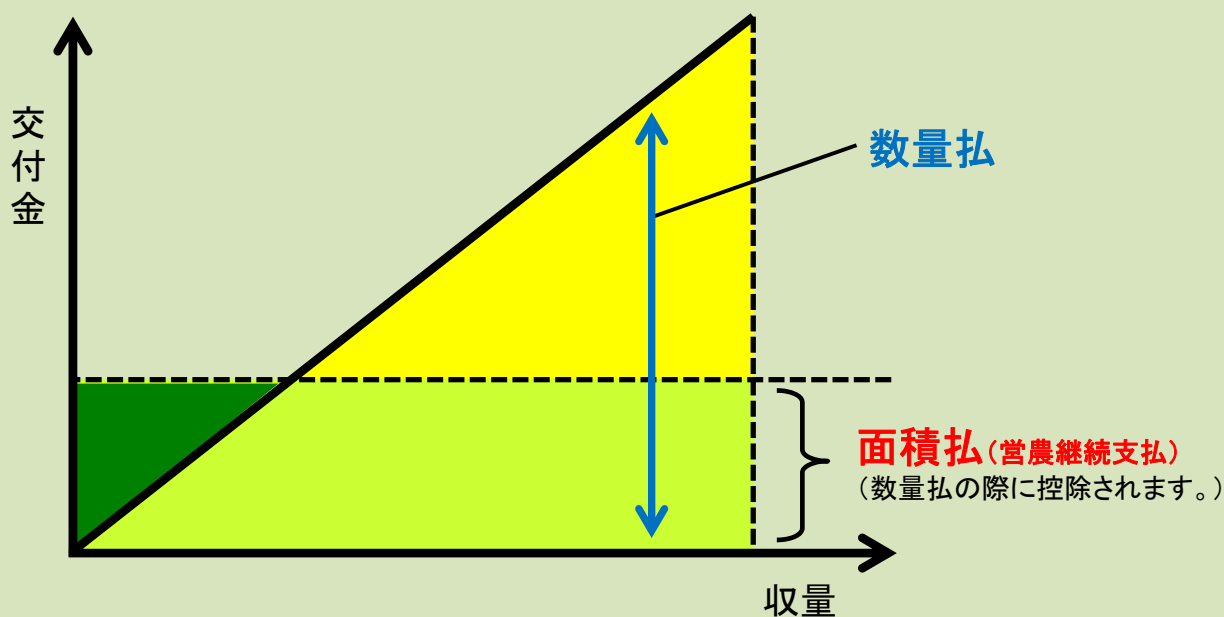
### ① 交付対象面積

当年産の作付面積に応じて交付

### ② 交付単価

10aあたり2万円  
※「そば」は、10aあたり1万3千円

### ③ 数量払と面積払（営農継続支払）の関係



#### 交付対象者

※ 交付対象者に変更ありません。

**認定農業者、集落営農、認定新規就農者**  
(いずれも規模要件は課しません。)

#### 対象作物

麦、大豆、そば、なたね  
てん菜、でん粉原料用ばれいしょ(北海道産のみ)  
(ビール用麦、黒大豆、種子用として生産されるものなどは対象外)

### (3) 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）

#### 米・畑作物の収入減少影響緩和対策(ナラシ対策)

【平成30年度予算概算要求額:816(746)億円(所要額)】

米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）は、農家抛出を伴う経営に着目したセーフティネットであり、米及び畑作物の農業収入全体の減少による影響を緩和するための保険的制度です。

#### (1) 交付対象者

支援の対象となる農業者は、認定農業者、集落営農、認定新規就農者です（いずれも規模要件はありません）。

※ 集落営農の要件は、2要件（組織の規約の作成、対象作物の共同販売経理の実施）に緩和し、「農業経営の法人化」及び「地域における農地利用の集積」については、市町村が確実に行われると判断するものとします。

#### (2) 対象農産物

米、麦、大豆、てん菜、でん粉原料用ばれいしょです。

※1 ビール麦、黒大豆、種子用として生産されるものなどは対象となりません。  
 ※2 てん菜、でん粉原料用ばれいしょは、北海道で生産されるものが対象です。

#### 【10a当たり標準的収入額とは】

通常年に想定される収入額として、前年産以前5カ年の収入額のうち、最高年と最低年を除いた3カ年の平均収入額で、品目ごと、地域ごとに計算しています。各年産の収入額は、米であれば、地域の産地品種銘柄のうち、数量の多い上位3銘柄平均販売価格に、地域の実単収を乗じて算出します。

#### 【10a当たり当年産収入額とは】

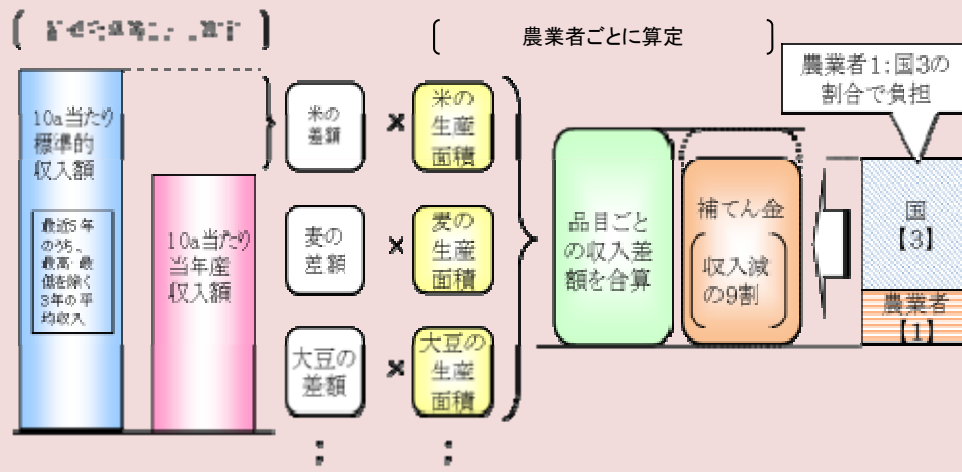
当年産の収入額として、品目ごと、地域ごとに計算しています。当年産の収入額は、米であれば、当年産の地域の産地品種銘柄のうち、数量の多い上位3銘柄平均販売価格に、当年産の地域の実単収を乗じて算出します。

#### (3) ナラシ対策の仕組み

- 農業者の米、麦、大豆等の当年産の販売収入の合計（当年産収入額）が、標準的収入額を下回った場合に、その差額の9割を補てんします。

$$\text{補てん額} = (\text{標準的収入額} - \text{当年産収入額}) \times 0.9$$

- 補てんの財源は、農業者と国が1対3の割合で負担します。
- このため、補てんを受けるには、農業者からの積立金の抛出が必要となります。
- 補てん後の積立金の残額は、翌年産へ繰り越されるため、掛け捨てとはなりません。



(参考) 平成28年産ナラシ対策の支払い実績 (平成29年8月31日現在)

全 国 都 道 府 県	加入件数 (件)	支払件数 (件)	補てん総額 (億円)	(参考1) ※ 米の10a当たり 補てん単価 (円/10a)	(参考2) ※ 米加入面積10haの 場合の補てん額の推計 (万円)	
全 国	106,991	57,064	178.65			
北 海 道	19,529	14,857	100.47	0	0	
東 北	青 森 県	5,082	24	0.02	0	0
	岩 手 県	3,329	3,125	4.73	3,010	30
	宮 城 県	4,291	4,102	5.89	386	3
	秋 田 県	8,602	188	0.32	0	0
	山 形 県	7,597	1	0.00	0	0
福 島 県	4,878	4,717	0.48	149	1	
関 東	茨 城 県	3,140	2,988	3.40	3,612	36
	栃 木 県	5,230	874	1.32	0	0
	群 馬 県	943	302	0.62	0	0
	埼 玉 県	1,252	1,193	0.70	886	8
	千 葉 県	1,088	1,064	0.46	713	7
	東 京 都	3	3	0.00	1,101	11
	神 奈 川 県	125	124	0.03	1,806	18
	山 梨 県	129	116	0.09	3,849	38
	長 野 県	1,429	1,351	3.10	2,989	29
静 岡 県	326	321	0.78	3,099	30	
北 陸	新 潟 県	12,546	4,140	4.58	0	0
	富 山 県	1,506	377	2.53	0	0
	石 川 県	1,783	1,672	0.93	567	5
	福 井 県	1,163	194	0.12	0	0
東 海	岐 阜 県	663	642	3.46	2,485	24
	愛 知 県	614	463	3.44	145	1
	三 重 県	919	446	2.07	0	0
近 畿	滋 賀 県	2,324	2,291	7.42	2,472	24
	京 都 府	325	298	0.14	1,297	12
	大 阪 府	31	30	0.00	270	2
	兵 庫 県	1,109	860	0.75	2,405	24
	奈 良 県	91	80	0.09	8,366	83
	和 歌 山 県	73	0	0.00	0	0
中 国 ・ 四 国	鳥 取 県	399	380	0.99	3,693	36
	島 根 県	719	98	0.20	0	0
	岡 山 県	858	50	0.15	0	0
	広 島 県	516	32	0.06	0	0
	山 口 県	827	769	0.80	538	5
	徳 島 県	160	10	0.01	0	0
	香 川 県	626	591	0.87	670	6
	愛 媛 県	628	601	0.98	4,151	41
	高 知 県	264	222	0.03	1,469	14
九 州	福 岡 県	2,084	1,282	7.76	0	0
	佐 賀 県	1,573	1,538	14.14	4,380	43
	長 崎 県	753	698	0.20	62	0
	熊 本 県	3,422	1,586	2.31	0	0
	大 分 県	1,353	515	1.36	0	0
	宮 崎 県	1,702	1,512	0.77	2,073	20
鹿 児 島 県	887	337	0.10	0	0	
沖 縄 県	100	0	0.00	0	0	

(注1) 加入件数は、平成28年7月31日時点(熊本県は9月末時点)の積立金納付者の件数である。

(注2) 支払件数及び補てん総額は、平成29年8月31日時点の数値である。

(注3) ラウンドの関係で合計数値は一致しない場合がある。

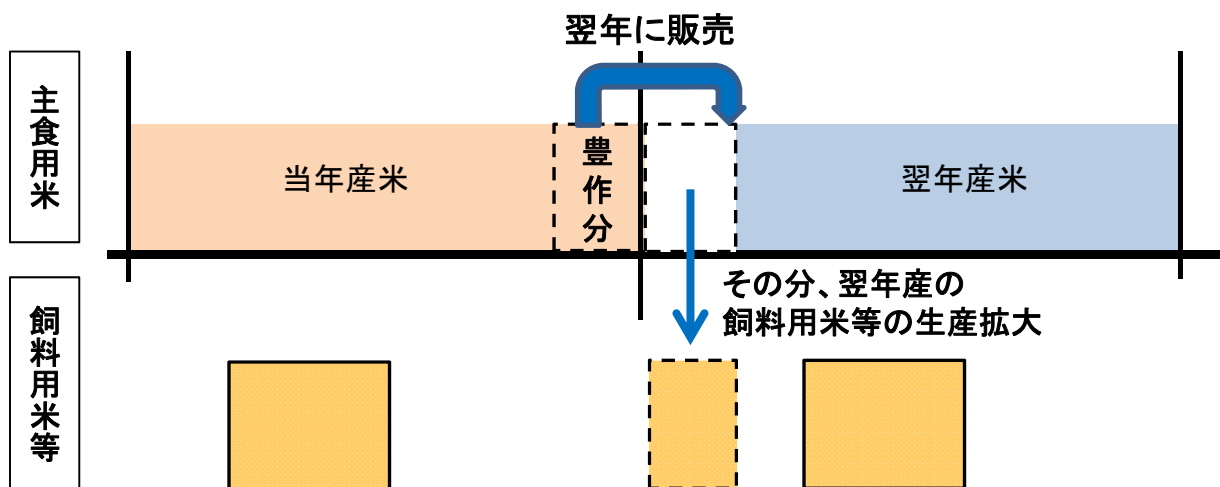
※ 米の10a当たり補てん単価及び米加入面積10haの場合の補てん額の推計は、20%コースの場合。米のみで試算したものであり、実際の支払では、麦・大豆等との合算相殺がある。また、(参考2)の米加入面積10haの場合の補てん額の推計は、表記上、1万円未満は切り捨てている。



## (4) 主食用米の需給安定の考え方、米穀周年供給・需要拡大支援事業

### ① 主食用米の需給安定の考え方

- 「需要に応じた生産を行ってもなお、気象の影響等により、必要な場合」に主食用米を長期計画的に販売する取組や、輸出用など他用途への販売を行う取組等を自主的に実施するための支援措置として、「米穀周年供給・需要拡大支援事業」を実施。（米穀周年供給・需要拡大支援事業：30年度予算概算要求額50億円（対前年同額））
- 平成30年産に向けては、必要がある場合に、この支援措置を活用して、豊作分を翌年に回し、その分、水田活用の直接支払交付金を活用して、翌年産の飼料用米等の生産を拡大して、主食用米の供給を絞るといった取組を定着させ、主食用米の需給の安定を図っていくことが重要。  
（水田活用の直接支払交付金：30年度予算概算要求額 3,304億円（対前年+154億円））



### ② 米穀周年供給・需要拡大支援事業のスキーム

- 業務用等の取引に関するマッチングセミナー・イベントの開催に対して支援。
- 産地の自主的な取組により、需要に応じた生産・販売が行われる環境整備を図る観点から、気象の影響等により必要が生じた場合には、産地の判断により、主食用米を長期計画的に販売する取組や輸出用など他用途への販売を行う取組等を自主的に実施する体制を構築していくことが必要。
- あらかじめ生産者等が積立てを行い、産地の取組を実施する場合に国も一定の支援。

#### 全国事業

業務用等の取引に関するマッチングセミナー・イベントの開催支援(定額)

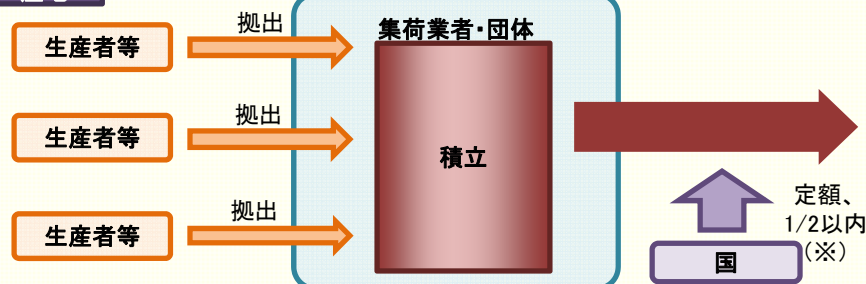
〔業務用米取引セミナー〕

〔展示商談会〕

民間団体が行う業務用米の生産・流通の拡大に向けたセミナー、展示商談会を支援。  
→ 生産者と実需者の連携(マッチング)促進による安定供給の拡大



#### 産地



#### 産地自らの自主的な取組

- 主食用米の
- 周年安定供給のための長期計画的な販売
  - 輸出用向けの販売促進等
  - 業務用向け等の販売促進等
  - 非主食用への販売
- (※) 値引きや価格差補てんのための費用は支援の対象外。

また、取引参加者の利便性を向上させるため、現物市場が共同でシステムの開発・導入を行う場合等に支援。

### ③ 米穀周年供給・需要拡大支援事業活用状況

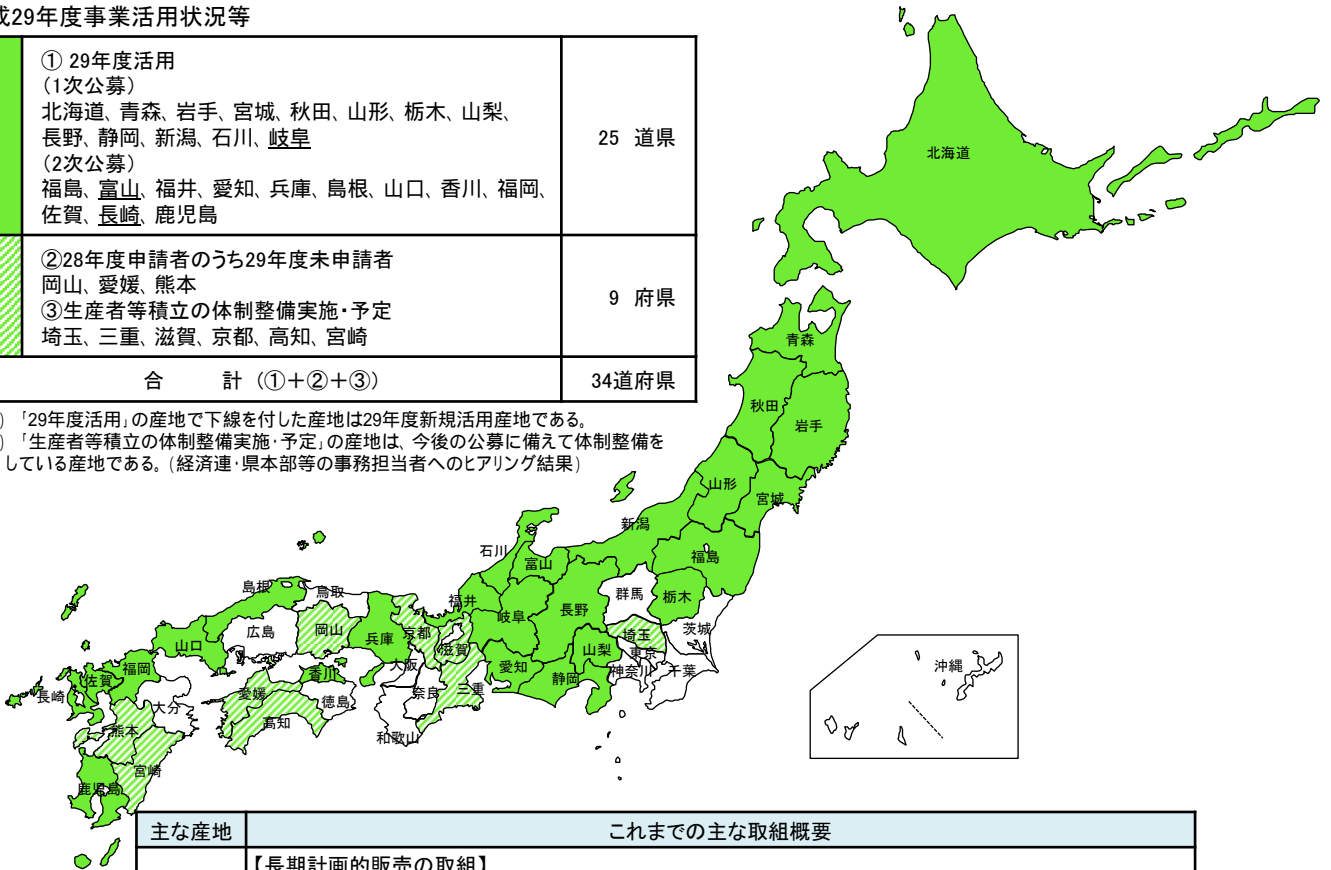
米穀周年供給・需要拡大支援事業の各産地の活用状況は、

- ・ 平成27年度では17道県（18事業者）、平成28年度では25道県（27事業者）が活用。
- ・ 平成29年度は25道県（27事業者）が活用している状況にあり、出来秋の需給対策として、今後とも本事業を継続・推進。

平成29年度事業活用状況等

① 29年度活用 (1次公募) 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、栃木、山梨、 長野、静岡、新潟、石川、岐阜 (2次公募) 福島、富山、福井、愛知、兵庫、島根、山口、香川、福岡、 佐賀、長崎、鹿児島	25 道県
②28年度申請者のうち29年度未申請者 岡山、愛媛、熊本 ③生産者等積立の体制整備実施・予定 埼玉、三重、滋賀、京都、高知、宮崎	9 府県
合 計 (①+②+③)	34道府県

注1) 「29年度活用」の産地で下線を付した産地は29年度新規活用産地である。  
注2) 「生産者等積立の体制整備実施・予定」の産地は、今後の公募に備えて体制整備を  
している産地である。(経済連・県本部等の事務担当者へのヒアリング結果)



主な産地	これまでの主な取組概要
北海道	<b>【長期計画的販売の取組】</b> ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 <b>【輸出向けへの販売促進等の取組】</b> ・ 海外向け北海道米PRパンフレットの作成配布 <b>【業務用向け等への販売促進等の取組】</b> ・ キャラクター(マツコ・デラックス)を用いた各種メディア及びイベントを活用した「ゆめぴりか」のPR ・ 認知度向上に向けた情報収集、データ分析による販路拡大手法の検討
秋田	<b>【長期計画的な販売の取組】</b> ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 <b>【業務用向け等への販売促進等の取組】</b> ・ キャラクター(小芝 風花)を用いた各種メディア及びイベントを活用した「あきたこまち」のPR ・ 食味分析データを用いた販売促進パンフレットの作成配布 ・ 外食事業者等が参加する各種商談会での試食等の実施
山形	<b>【輸出向けへの販売促進等の取組】</b> ・ 海外百貨店等での「つや姫」、「はえぬき」PRキャンペーンの開催 <b>【業務用向け等への販売促進等の取組】</b> ・ キャラクター(V6 長野 博)を用いた各種メディア及びイベントを活用した「はえぬき」のPR ・ 販路拡大に向けたコンサルティング活動
栃木	<b>【長期計画的な販売の取組】</b> ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 <b>【業務用向け等への販売促進等の取組】</b> ・ 地元出身書道家(涼 風花)を用いた各種メディア及びイベントを活用した「とちほのか」のPR ・ 公共交通機関のラッピングバス等を活用したPR
石川	<b>【長期計画的販売の取組】</b> ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 <b>【輸出向けへの販売促進等の取組】</b> ・ 現地市場等調査による実需者ニーズの把握や石川県産米パンフレットの作成配布 <b>【業務用向け等への販売促進等の取組】</b> ・ 各種メディアを活用した石川県産米のPR ・ 毎月2日を「おにぎりの日」に制定し、これを起点にした試食イベント等の開催

## VI 消費動向

### (1) 米の消費動向（米穀機構による調査）

○ 本調査は、調査実施機関（株）マクロミルのモニターの中から、本調査への協力の意向を示した消費世帯を対象としている（インターネット調査）。

- 米穀機構が公表している「米の消費動向」（平成29年8月）によると、1人1ヵ月当たりの精米消費量は、前年同月との比較で▲4.4%。
- このうち、家庭内での消費量は前年同月との比較で▲1.5%、中・外食は同▲10.8%。

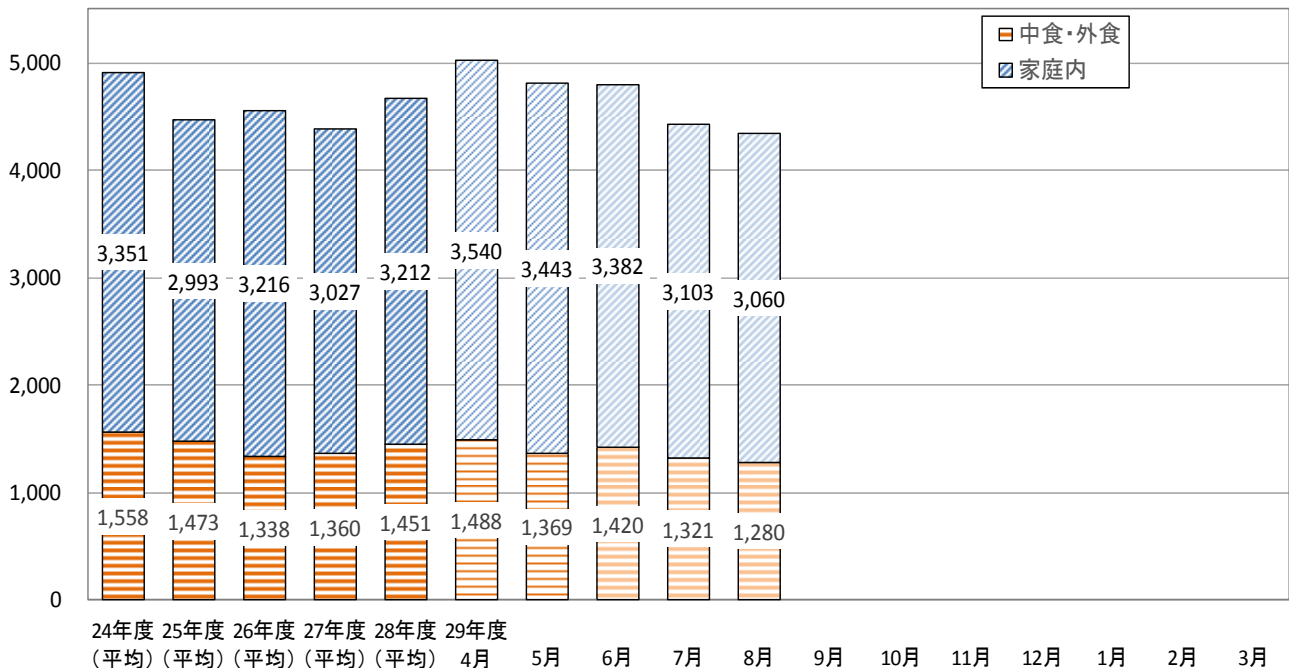
#### ① 1人1ヵ月当たり精米消費量の推移

（精米g/人、%）

		精米消費量					内訳(比率)					前年同月比(比率)				
		合計	家庭内		中・外食		合計	家庭内		中・外食		合計	家庭内		中・外食	
			中食	外食	中食	外食		中食	外食	中食	外食					
24年度	-	4,909	3,351	1,558	900	658	100.0	68.3	31.7	18.3	13.4	1.4	4.4	▲4.4	▲3.1	▲6.1
25年度	-	4,466	2,993	1,473	846	627	100.0	67.0	33.0	18.9	14.0	▲9.0	▲10.7	▲5.5	▲6.0	▲4.7
26年度	-	4,554	3,216	1,338	758	580	100.0	70.6	29.4	16.6	12.7	2.0	7.5	▲9.2	▲10.4	▲7.5
27年度	-	4,386	3,027	1,360	793	567	100.0	69.0	31.0	18.1	12.9	▲3.7	▲5.9	1.6	4.6	▲2.2
28年度	-	4,663	3,212	1,451	852	599	100.0	68.9	31.1	18.3	12.8	6.3	6.1	6.7	7.4	5.6
29年度	4月	5,028	3,540	1,488	908	580	100.0	70.4	29.6	18.1	11.5	0.5	3.4	▲5.9	▲4.2	▲8.4
	5月	4,812	3,443	1,369	833	536	100.0	71.6	28.4	17.3	11.1	▲1.2	3.0	▲10.1	▲9.0	▲11.8
	6月	4,802	3,382	1,420	871	549	100.0	70.4	29.6	18.1	11.4	▲0.1	3.6	▲7.7	▲5.3	▲11.2
	7月	4,424	3,103	1,321	751	570	100.0	70.1	29.9	17.0	12.9	▲1.9	2.6	▲11.2	▲13.9	▲7.3
	8月	4,340	3,060	1,280	731	549	100.0	70.5	29.5	16.8	12.6	▲4.4	▲1.5	▲10.8	▲12.6	▲8.5

#### 1人1ヵ月当たり精米消費量の推移(グラフ)

（精米g/人）



出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注：1 平成29年8月分の有効調査世帯数は1,695世帯。

2 調査対象世帯の入れ替えや補充による調査結果の補正は行っていないため、調査結果の経年比較等の際には、留意が必要である。

3 家庭内消費量については、調査当月の月初と月末の精米在庫量及び精米購入数量から把握、中食・外食の消費量については、調査当月の家庭炊飯以外で食べた米飯の数量から推計。

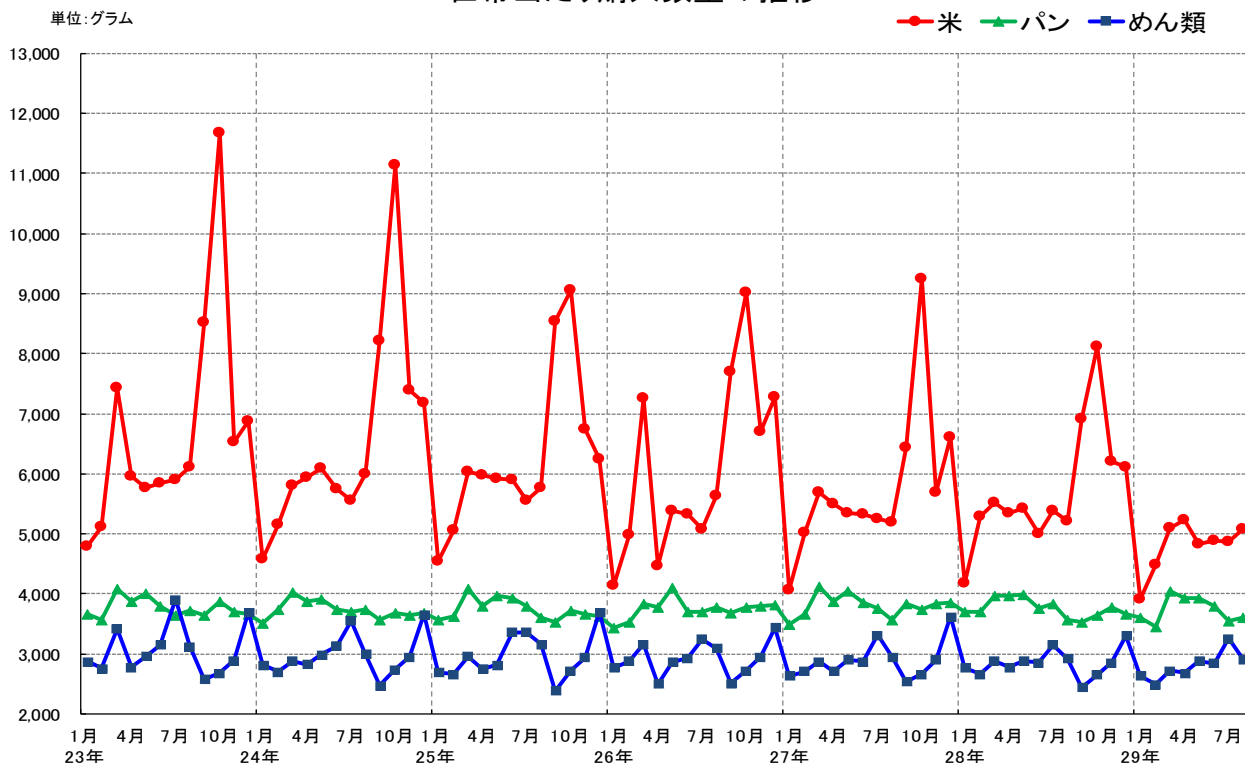
4 集計に際しては、地域毎に世帯人員構成比が平成22年国勢調査「世帯人員構成比」に沿うよう調整した上で推計。

5 四捨五入の関係で合計と内訳が合わない場合がある。

## (2) 購入数量の推移（家計調査）

- 総務省が公表している家計調査によると、平成29年8月の米の購入数量は、前年同月との比較で▲2.7%の5.1kg、パンについては+1.4%の3.6kg、めん類については▲0.2%の2.9kg。

### 1世帯当たり購入数量の推移



### (表) 1世帯当たり購入数量の推移

(単位：グラム)

	米		パン		めん類	
	購入数量	対前年 (同月)比	購入数量	対前年 (同月)比	購入数量	対前年 (同月)比
平成20年	88,550	103.8%	44,445	98.2%	35,899	101.2%
平成21年	85,110	96.1%	45,599	102.6%	36,615	102.0%
平成22年	83,010	97.5%	45,443	99.7%	37,000	101.1%
平成23年	80,580	97.1%	45,255	99.6%	36,931	99.8%
平成24年	78,780	97.8%	44,808	99.0%	35,819	97.0%
平成25年	75,170	95.4%	44,927	100.3%	35,560	99.3%
平成26年	73,050	97.2%	44,926	100.0%	35,176	98.9%
平成27年	69,510	95.2%	45,676	101.7%	34,753	98.8%
平成28年	68,740	98.9%	45,099	98.7%	34,192	98.4%
平成29年1月	3,920	93.8%	3,607	97.7%	2,637	95.2%
2月	4,480	84.8%	3,457	93.6%	2,496	93.8%
3月	5,090	92.2%	4,056	102.4%	2,725	94.4%
4月	5,230	97.9%	3,929	98.8%	2,685	96.7%
5月	4,840	89.1%	3,925	98.3%	2,882	99.9%
6月	4,880	97.6%	3,790	100.6%	2,846	99.5%
7月	4,860	90.2%	3,548	92.6%	3,254	103.2%
8月	5,070	97.3%	3,609	101.4%	2,918	99.8%

資料：総務省「家計調査」

注：1 二人以上の世帯の数値である。

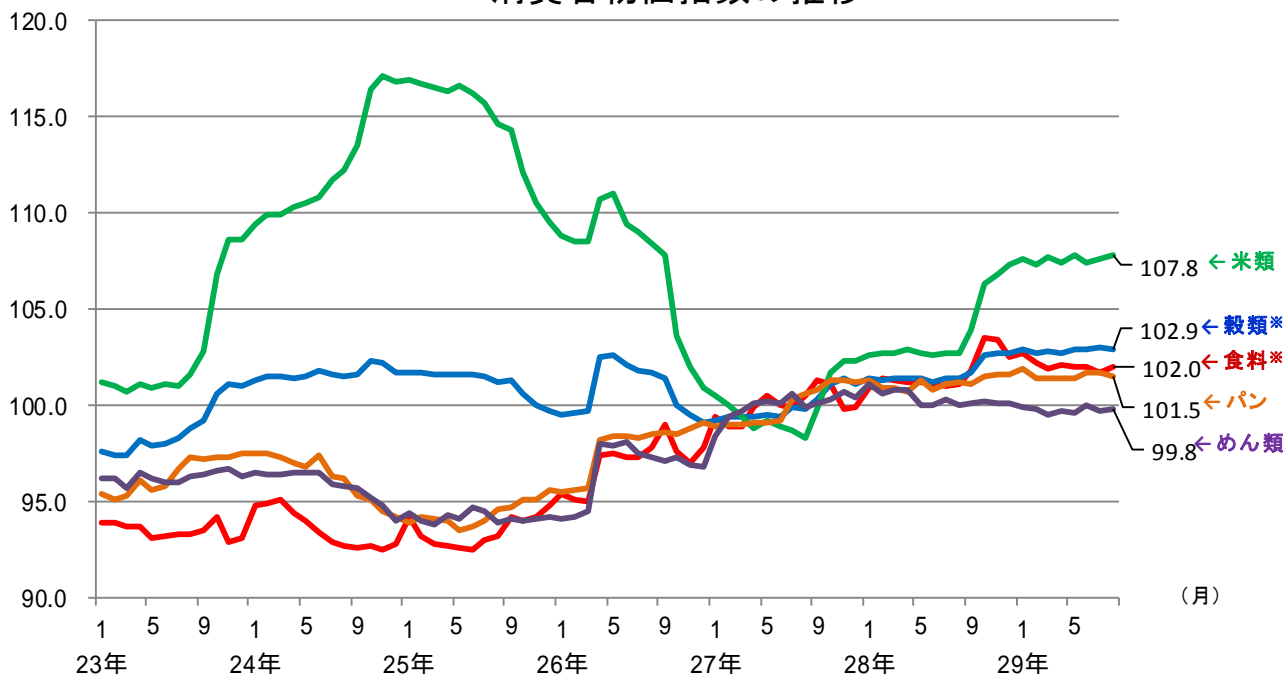
2 平成20年から平成28年については、年間の購入数量を示す。

3 米は精米ベースである。

### (3) 消費者物価指数（27年基準）の推移

- ・ 総務省が公表している消費者物価指数によると、平成29年8月の米類の指数は、先月との比較では+0.1の107.8ポイント。
- ・ なお、前年同月との比較では+4.9ポイント。

消費者物価指数の推移



- 注：1 図中の実線は、平成27年の平均価格を100とした数値となる。  
 2 図中の数値は、平成29年8月の消費者物価指数となる。  
 3 図中の食料とは穀類、魚介類、肉類等を、穀類とは米類、パン、めん類、他の穀類をいう。

(表) 消費者物価指数の推移（対前年同月比）

(平成27年=100、指数)

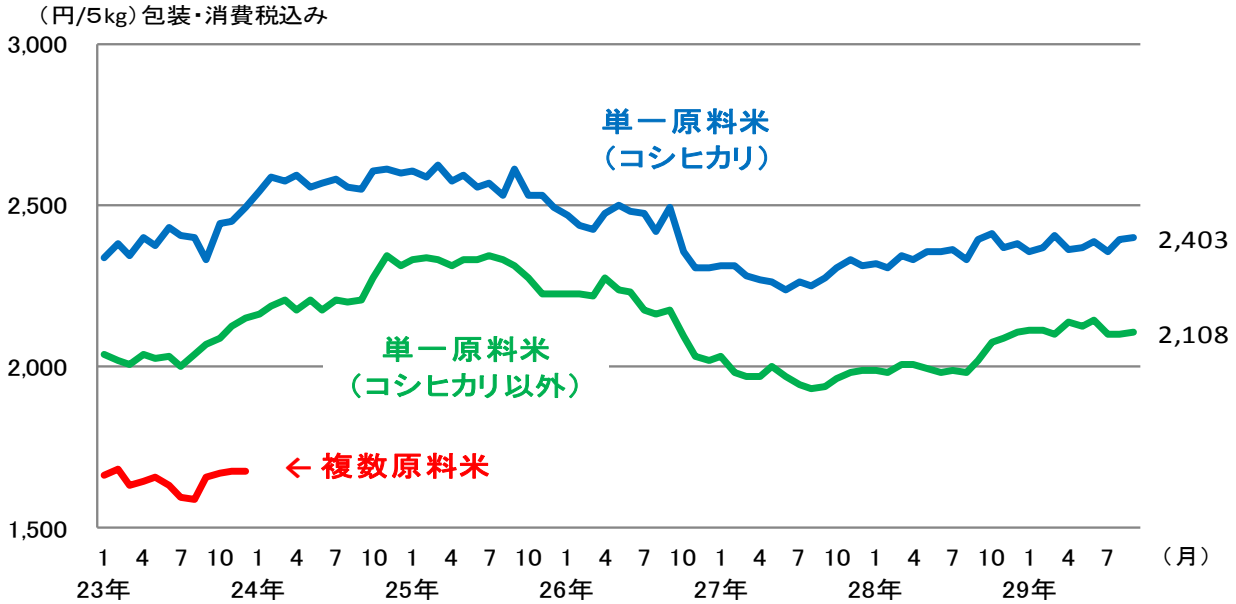
	食料		穀類		米類		うるち米		パン		めん類	
	対前年 (同月比)	対前年 (同月比)	対前年 (同月比)	対前年 (同月比)	対前年 (同月比)	対前年 (同月比)	対前年 (同月比)	対前年 (同月比)	対前年 (同月比)	対前年 (同月比)	対前年 (同月比)	
平成20年	93.9	2.6%	102.9	6.4%	110.7	▲1.3%	111.4	▲1.3%	99.8	12.6%	97.2	11.7%
平成21年	94.1	0.2%	103.7	0.8%	111.1	0.4%	111.6	0.2%	100.1	0.3%	98.8	1.7%
平成22年	93.9	▲0.3%	100.4	▲3.2%	107.2	▲3.5%	107.7	▲3.5%	96.2	▲3.9%	97.0	▲1.9%
平成23年	93.5	▲0.4%	98.8	▲1.6%	103.0	▲4.0%	103.4	▲4.0%	96.4	0.2%	96.2	▲0.8%
平成24年	93.6	0.1%	101.7	3.0%	112.4	9.2%	113.3	9.6%	96.3	▲0.1%	95.8	▲0.4%
平成25年	93.4	▲0.1%	101.2	▲0.5%	114.6	2.0%	115.7	2.1%	94.4	▲1.9%	94.2	▲1.7%
平成26年	97.0	3.8%	100.8	▲0.4%	107.4	▲6.3%	107.9	▲6.8%	97.8	3.6%	96.6	2.6%
平成27年	100.0	3.1%	100.0	▲0.8%	100.0	▲6.9%	100.0	▲7.3%	100.0	2.2%	100.0	3.5%
平成28年	101.7	1.7%	101.7	1.7%	103.8	3.8%	104.0	4.0%	101.2	1.2%	100.3	0.3%
平成29年1月	102.7	1.8%	102.9	1.5%	107.6	4.9%	108.0	5.2%	101.9	0.5%	99.9	▲1.1%
2月	102.2	0.8%	102.7	1.4%	107.3	4.5%	107.6	4.7%	101.4	0.5%	99.8	▲0.8%
3月	101.9	0.5%	102.8	1.3%	107.7	4.9%	108.1	5.1%	101.4	0.6%	99.5	▲1.3%
4月	102.1	0.9%	102.7	1.3%	107.4	4.4%	107.7	4.7%	101.4	0.7%	99.7	▲1.0%
5月	102.0	0.8%	102.9	1.4%	107.8	5.0%	108.1	5.3%	101.4	0.1%	99.6	▲0.4%
6月	102.0	0.8%	102.9	1.7%	107.4	4.6%	107.7	4.9%	101.7	0.9%	100.0	▲0.1%
7月	101.7	0.6%	103.0	1.5%	107.6	4.8%	107.9	5.0%	101.7	0.6%	99.7	▲0.5%
8月	102.0	0.9%	102.9	1.5%	107.8	4.9%	108.1	5.2%	101.5	0.3%	99.8	▲0.2%

- 資料： 総務省「消費者物価指数」（平成27年基準）  
 注：1 表中の数値は、平成27年の平均価格を100として指数化したものである。  
 2 食料は、穀類以外にも、魚介類、肉類等を含んでいる。  
 3 穀類は、米類（うるち米、もち米）、パン、めん類、他の穀類からなる。  
 4 平成20年から平成28年のデータは年平均、平成29年1月以降は月次データを用いている。

#### (4) 小売物価統計の推移

- 総務省が公表している小売物価統計によると、平成29年9月のうるち米の小売価格（5kg当たり）は、単一原料米（コシヒカリ）で、前年同月より+0.5%の2,403円。
- 単一原料米（コシヒカリ以外）は、前年同月より+4.4%の2,108円。

(図) 小売物価統計の推移



(表) 小売物価統計の推移

(単位：円/5kg)

	うるち米				
	単一原料米 (コシヒカリ)	対前年 (同月)比	単一原料米 (コシヒカリ以外)	対前年 (同月)比	複数原料米
平成20年	2,610	▲2.2%	2,270	▲0.8%	1,832
平成21年	2,531	▲3.0%	2,201	▲3.0%	1,812
平成22年	2,462	▲2.7%	2,136	▲3.0%	1,739
平成23年	2,399	▲2.5%	2,053	▲3.9%	1,649
平成24年	2,577	7.4%	2,223	8.3%	-
平成25年	2,567	▲0.4%	2,307	3.8%	-
平成26年	2,428	▲5.4%	2,173	▲5.8%	-
平成27年	2,285	▲5.9%	1,973	▲9.2%	-
平成28年	2,355	3.1%	2,019	2.3%	-
平成29年1月	2,355	1.6%	2,111	6.1%	-
2月	2,370	2.6%	2,112	6.7%	-
3月	2,406	2.7%	2,100	4.6%	-
4月	2,362	1.4%	2,137	6.6%	-
5月	2,371	0.6%	2,124	6.5%	-
6月	2,385	1.2%	2,143	8.0%	-
7月	2,359	0.0%	2,098	5.4%	-
8月	2,391	2.5%	2,101	6.1%	-
9月	2,403	0.5%	2,108	4.4%	-

資料：総務省「小売物価統計」

注1：東京都区部の数値である。

2：特売を除いた価格である。

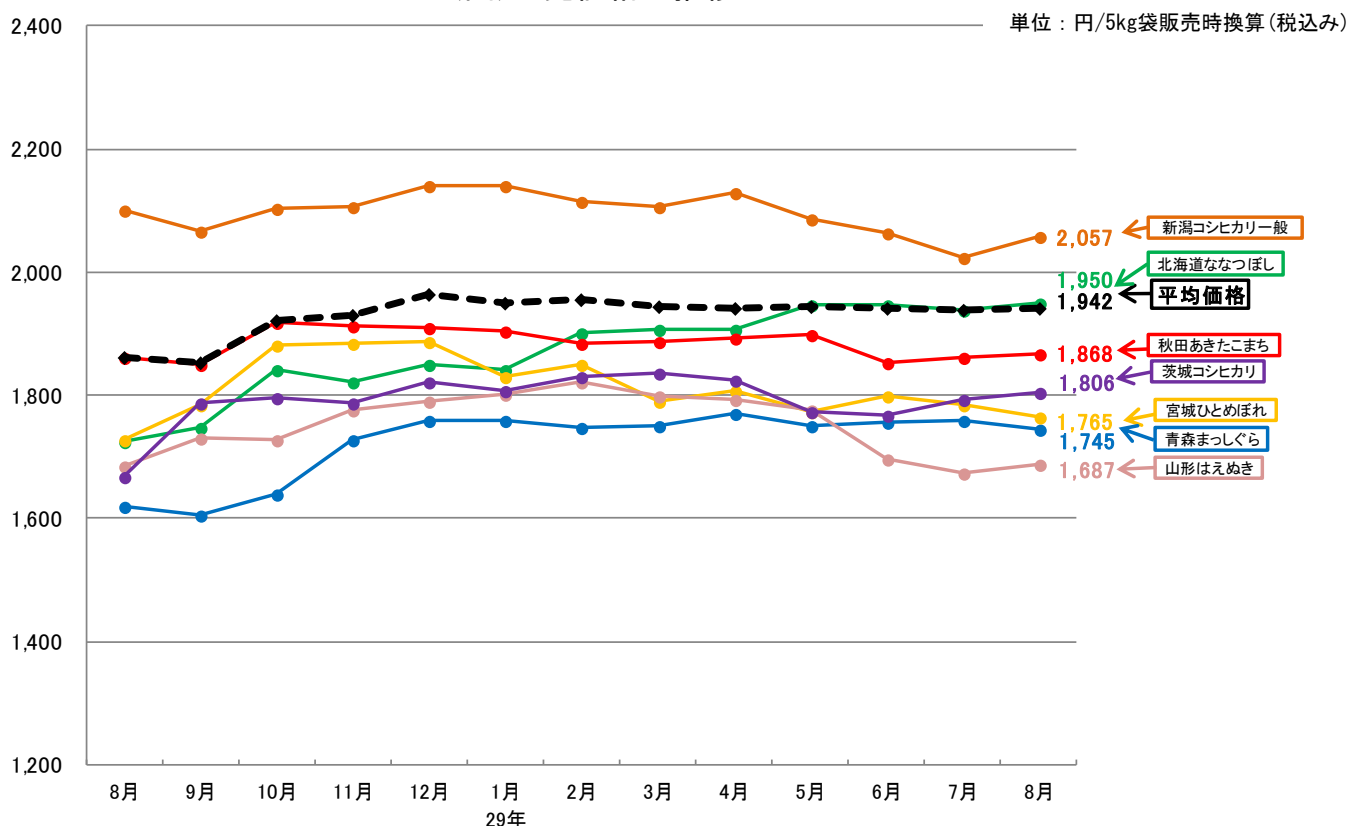
3：精米ベースである。

4：複数原料米については、平成23年12月をもって調査が終了した。

## (5) 小売価格の推移 (POSデータ)

平成29年8月の小売価格(POSデータ)の平均価格(5kg当たり)は、前月より+5円(+0.3%)、前年同月より+80円(+4.3%)の1,942円。

(図)小売価格の推移



(表)小売価格の推移

単位：円/5kg袋販売時換算(消費税込み)

	品種銘柄							全POS取引 平均価格
	北海道 ななつぼし	青森 まっしぐら	宮城 ひとめぼれ	秋田 あきたこまち	山形 はえぬき	茨城 コシヒカリ	新潟 コシヒカリ一般	
28年8月	1,725	1,620	1,729	1,860	1,685	1,667	2,101	1,862
9月	1,746	1,604	1,785	1,849	1,732	1,789	2,065	1,853
10月	1,842	1,639	1,882	1,919	1,729	1,796	2,103	1,921
11月	1,823	1,727	1,885	1,913	1,776	1,788	2,106	1,931
12月	1,850	1,760	1,887	1,910	1,792	1,821	2,140	1,963
29年1月	1,843	1,759	1,830	1,905	1,802	1,808	2,141	1,949
2月	1,902	1,749	1,852	1,885	1,821	1,831	2,114	1,957
3月	1,907	1,751	1,792	1,887	1,798	1,835	2,105	1,945
4月	1,908	1,771	1,807	1,894	1,793	1,824	2,128	1,941
5月	1,948	1,750	1,775	1,898	1,776	1,773	2,086	1,944
6月	1,948	1,755	1,799	1,853	1,698	1,767	2,062	1,941
7月	1,939	1,759	1,784	1,862	1,673	1,795	2,023	1,937
<b>8月</b>	<b>1,950</b>	<b>1,745</b>	<b>1,765</b>	<b>1,868</b>	<b>1,687</b>	<b>1,806</b>	<b>2,057</b>	<b>1,942</b>
対前月比	0.6%	▲0.8%	▲1.1%	0.3%	0.8%	0.6%	1.7%	0.3%
対前年同月比	13.0%	7.7%	2.1%	0.4%	0.1%	8.3%	▲2.1%	4.3%

資料：(株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成

注：1 (株)KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,020店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。

2 POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。

3 POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。

4 平均価格は、POSデータで把握できる全ての精米の販売について5kg袋販売時に換算した上で加重平均を行った価格である。

5 価格に含む消費税は8%である。

## Ⅶ MA米（一般・SBS）の動向

### （１） MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）

（単位：千玄米トン）

	米 国	タイ	中 国	オースト ラリア	その他	合 計		
							うち一般輸入	うちSBS輸入※
平成7年度	194	107	32	87	5	426	415	11
平成8年度	233	144	40	87	6	511	488	22
平成9年度	290	151	46	95	13	596	537	55
平成10年度	313	152	78	109	29	681	551	120
平成11年度	339	159	86	115	24	724	591	120
平成12年度	356	168	99	120	24	767	632	120
平成13年度	364	146	136	110	11	767	655	100
平成14年度	361	153	112	96	44	767	710	50
平成15年度	355	153	110	90	51	759	647	100
平成16年度	361	185	98	20	103	767	661	94
平成17年度	362	186	84	19	116	767	655	100
平成18年度	358	179	76	52	102	767	654	100
平成19年度	358	243	82	-	13	696	585	100
平成20年度	430	261	72	-	6	769	658	100
平成21年度	358	332	71	-	5	767	655	100
平成22年度	356	345	19	40	6	767	725	37
平成23年度	358	241	56	71	40	767	658	100
平成24年度	362	281	46	64	13	767	656	100
平成25年度	359	351	1	41	15	767	700	61
平成26年度	359	332	55	14	6	767	754	12
平成27年度	359	344	56	1	6	767	734	29
平成28年度	376	375	3	7	7	767	685	73
平成29年度 (9月末現在)	62	43	1	6	-	111	86	25

資料： 農林水産省「米をめぐる関係資料」  
※SBS輸入数量の単位は千実トン。

注： 1 各年度の輸入契約数量の推移。

2 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しないことがある。

3 千実トンと千玄米トンのため合計は一致しないことがある。

（参考）MA米以外で、枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1～0.2千トン程度



## (2) 加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果(平成29年度)

(単位：実トン)

販売期間	うるち	販売期間	もち
平成29年4～6月分	30,226	平成29年4～7月分	3,071
4月分	405	平成29年8～11月分	
5月分	678	平成29年12～平成30年3月分	
6月分	1,000		
7～9月分			
7月分			
8月分			
9月分			
10～12月分			
10月分			
11月分			
12月分			
平成30年1～3月分			
1月分			
2月分			
3月分			
小計	32,309	小計	3,071
合計	35,380		

資料：農林水産省「加工原材料用に係る政府所有ミニマム・アクセス米の見積合わせ結果の概要について」

## (3) SBS輸入米の見積合わせ結果(平成29年度)

(単位：実トン)

		アメリカ		タイ		中国		その他		合計
		うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	
第1回 (平成29年9月27日)	一般米	15,150	496	140	0	900	0	5,814	0	22,500
	砕精米	1,998	100	300	0	100	0	0	0	2,498
平成23年度計 (参考)	一般米	7,490	5,324	2,038	80	50,463	0	17,155	0	82,550
	砕精米	10,124	990	2,320	3,384	632	0	0	0	17,450
平成24年度計 (参考)	一般米	34,076	2,290	1,536	72	27,640	0	24,386	0	90,000
	砕精米	4,032	576	2,898	364	524	0	1,606	0	10,000
平成25年度計 (参考)	一般米	14,686	4,396	3,346	144	174	0	17,993	0	40,739
	砕精米	576	388	7,375	308	540	0	10,913	0	20,100
平成26年度計 (参考)	一般米	662	2,418	2,732	72	80	0	1,326	0	7,290
	砕精米	0	724	2,540	252	700	0	100	0	4,316
平成27年度計 (参考)	一般米	4,251	3,458	2,762	72	76	0	2,244	0	12,863
	砕精米	10,940	1,260	2,420	1,022	660	0	150	0	16,452
平成28年度計 (参考)	一般米	27,318	3,600	3,487	108	2,156	0	8,097	0	44,766
	砕精米	24,820	700	2,300	388	240	0	100	0	28,548

資料：農林水産省「輸入米に係るSBSの結果の概要」の平成23～29年度

## VIII その他

### (1) 水稲うるち玄米の農産物検査結果

- 平成29年産水稲うるち玄米の平成29年8月31日現在の検査数量は、24万トン。
- 1等米比率は、68.4%。

#### ① 検査数量の推移（累計）

単位：千トン

年産別	当年						翌年			
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	10月
24	13	223	1,732	3,750	4,156	4,313	4,411	4,532	4,657	5,041
25	23	265	1,869	3,806	4,248	4,433	4,537	4,661	4,793	5,206
26	12	229	1,789	3,785	4,276	4,470	4,595	4,720	4,880	5,275
27	11	220	1,537	3,506	3,964	4,149	4,252	4,385	4,518	4,868
28	18	231	1,656	3,564	4,036	4,212	4,319	4,451	4,585	
参考：前年比	161%	105%	108%	102%	102%	102%	102%	101%	101%	
29	13	244								
参考：前年比	72%	105%								

注：1 各月末時点の検査数量である。

2 生産年の7月から翌年3月までは速報値、翌年10月は確定値である。

#### ② 検査数量及び等級比率（年産別）

単位：トン、%

年産別	検査数量	等級別数量				等級比率			
		1等	2等	3等	規格外	1等	2等	3等	規格外
18	4,776,481	3,746,166	822,163	112,475	95,677	78.4	17.2	2.4	2.0
19	4,805,870	3,826,432	795,452	95,082	88,903	79.6	16.6	2.0	1.8
20	5,093,440	4,073,571	849,087	76,542	94,240	80.0	16.7	1.5	1.9
21	4,818,603	4,102,807	582,137	48,396	85,263	85.1	12.1	1.0	1.8
22	4,859,642	3,013,076	1,570,194	152,813	123,559	62.0	32.3	3.1	2.5
23	4,753,193	3,840,127	759,339	60,000	93,727	80.8	16.0	1.3	2.0
24	5,041,489	3,953,978	910,522	82,760	94,229	78.4	18.1	1.6	1.9
25	5,205,717	4,112,147	905,866	96,289	91,415	79.0	17.4	1.8	1.8
26	5,274,634	4,291,267	806,063	70,348	106,956	81.4	15.3	1.3	2.0
27	4,868,582	4,016,682	687,771	82,654	81,475	82.5	14.1	1.7	1.7
28(注2)	4,584,593	3,824,029	635,059	62,986	62,518	83.4	13.9	1.4	1.4
29(注3)	243,514	166,591	60,743	11,997	4,183	68.4	24.9	4.9	1.7

資料：農林水産省とりまとめ

注：1 等級比率は、1等であれば農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合である。

2 28年産米については、平成29年3月31日現在（速報値）。

3 29年産米については、平成29年8月31日現在（速報値）。

(2) 平成29年産水稻の作付面積、10a当たり予想収量及び作柄概況（9月15日現在）

全 国 都道府県	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a当たり 予想収量 ①	（参考）農家等が使用している ふるい目幅で選別		
	実 数	前年産との比較			10a当たり 予想収量 ②	10a当たり 平年収量 ③	作 況 指 数 ④=②/③
		対 差	対 比				
	ha	ha	%	kg	kg	kg	
全 国 (1)	1,600,000	△ 11,000	99	534	519	518	100
北 海 道 (2)	106,900	△ 1,400	99	560	543	530	102
青 森 (3)	50,500	△ 200	100	593	569	573	99
岩 手 (4)	56,100	△ 500	99	538	524	522	100
宮 城 (5)	74,700	100	100	539	521	519	100
秋 田 (6)	91,000	△ 600	99	573	552	556	99
山 形 (7)	69,300	△ 400	99	599	586	580	101
福 島 (8)	71,000	200	100	549	529	527	100
茨 城 (9)	77,200	△ 600	99	526	514	515	100
栃 木 (10)	69,400	△ 100	100	510	493	529	93
群 馬 (11)	17,600	△ 300	98	494	478	479	100
埼 玉 (12)	34,000	△ 700	98	483	469	475	99
千 葉 (13)	61,300	△ 300	100	544	529	528	100
東 京 (14)	141	△ 10	93	412	403	404	100
神 奈 川 (15)	3,110	△ 20	99	520	500	478	105
新 潟 (16)	120,900	△ 400	100	528	513	527	97
富 山 (17)	39,100	△ 200	99	548	530	527	101
石 川 (18)	26,100	△ 300	99	519	505	507	100
福 井 (19)	26,300	0	100	525	504	500	101
山 梨 (20)	4,980	△ 40	99	548	533	533	100
長 野 (21)	32,900	△ 400	99	628	616	607	101
岐 阜 (22)	25,200	△ 100	100	490	481	478	101
静 岡 (23)	17,300	△ 100	99	518	508	513	99
愛 知 (24)	29,400	△ 300	99	510	501	499	100
三 重 (25)	29,500	△ 100	100	480	466	489	95
滋 賀 (26)	32,900	△ 100	100	517	504	506	100
京 都 (27)	14,900	△ 200	99	511	503	502	100
大 阪 (28)	5,160	△ 160	97	506	490	480	102
兵 庫 (29)	37,700	△ 300	99	497	487	489	100
奈 良 (30)	8,730	△ 100	99	522	510	500	102
和 歌 山 (31)	6,560	△ 160	98	507	492	484	102
鳥 取 (32)	14,100	△ 100	99	521	511	504	101
島 根 (33)	19,200	△ 200	99	519	511	500	102
岡 山 (34)	32,200	△ 200	99	538	524	514	102
広 島 (35)	24,800	△ 300	99	528	519	513	101
山 口 (36)	21,500	△ 500	98	519	509	492	103
徳 島 (37)	12,500	△ 200	98	479	475	469	101
早期栽培 (38)	4,960	△ 40	99	481	477	459	104
普通栽培 (39)	7,530	△ 180	98	479	474	475	100
香 川 (40)	13,200	△ 500	96	491	485	490	99
愛 媛 (41)	14,500	△ 200	99	506	500	492	102
高 知 (42)	12,800	△ 100	99	470	466	454	103
早期栽培 (43)	7,370	△ 30	100	498	495	477	104
普通栽培 (44)	5,410	△ 120	98	433	429	426	101
福 岡 (45)	39,200	△ 100	100	510	492	477	103
佐 賀 (46)	26,400	0	100	541	525	503	104
長 崎 (47)	12,900	△ 300	98	500	482	463	104
熊 本 (48)	42,400	0	100	525	509	497	102
大 分 (49)	25,000	△ 200	99	508	487	480	101
宮 崎 (50)	23,500	△ 200	99	505	492	482	102
早期栽培 (51)	8,950	△ 90	99	494	486	470	103
普通栽培 (52)	14,600	0	100	513	496	490	101
鹿 児 島 (53)	24,900	△ 400	98	502	489	469	104
早期栽培 (54)	6,490	△ 130	98	472	464	434	107
普通栽培 (55)	18,500	△ 100	99	510	496	478	104
沖 縄 (56)	727	△ 58	93	...	...	305	...
第一期稲 (57)	537	△ 23	96	354	350	363	96
第二期稲 (58)	190	△ 35	84	...	...	...	...

注：1 ①10a当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

2 （参考）農家等が使用しているふるい目幅で選別の②10a当たり予想収量、③10a当たり平年収量及び④作況指数については、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

3 沖縄県平均の10a当たり予想収量並びに（参考）農家等が使用しているふるい目幅で選別の10a当たり予想収量及び作況指数は第二期稲が出穂前であるため「...」で示しており、沖縄県計の予想収穫量（主食用）の算出には10a当たり平年収量を用いた。

参 考		平 年 比 較				
主食用作付見込面積	予想収穫量（主食用）	穂数の多少	1 穂 当 た り の 多 少	全 も み 数 の 多 少	登熟の良否	
⑤	⑥=①×⑤					
ha	t					
1,370,000	7,313,000	...	...	...	...	(1)
98,600	552,200	やや少ない	やや多い	平年並み	やや良	(2)
38,000	225,300	平年並み	多 い	多 い	不 良	(3)
47,000	252,900	平年並み	平年並み	やや多い	やや不良	(4)
63,500	342,300	やや多い	平年並み	多 い	やや不良	(5)
69,500	398,200	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良	(6)
56,400	337,800	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み	(7)
59,900	328,900	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良	(8)
66,400	349,300	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(9)
53,600	273,400	多 い	やや少ない	平年並み	不 良	(10)
13,900	68,700	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良	(11)
30,700	148,300	やや多い	やや少ない	やや多い	やや不良	(12)
53,300	290,000	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良	(13)
141	581	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(14)
3,090	16,100	多 い	やや多い	多 い	やや不良	(15)
100,300	529,600	平年並み	少 ない	やや少ない	やや良	(16)
33,300	182,500	多 い	やや少ない	やや多い	やや不良	(17)
23,200	120,400	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(18)
23,300	122,300	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(19)
4,880	26,700	やや多い	平年並み	平年並み	平年並み	(20)
31,300	196,600	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(21)
21,500	105,400	やや多い	平年並み	平年並み	平年並み	(22)
15,600	80,800	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良	(23)
26,600	135,700	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(24)
26,800	128,600	やや多い	少 ない	やや少ない	やや不良	(25)
30,000	155,100	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(26)
14,100	72,100	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(27)
5,150	26,100	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み	(28)
35,100	174,400	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(29)
8,580	44,800	やや多い	やや少ない	やや多い	平年並み	(30)
6,560	33,300	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み	(31)
12,400	64,600	多 い	やや少ない	やや多い	やや不良	(32)
17,200	89,300	多 い	やや少ない	やや多い	平年並み	(33)
29,100	156,600	多 い	やや少ない	平年並み	平年並み	(34)
23,100	122,000	多 い	少 ない	平年並み	平年並み	(35)
19,300	100,200	多 い	やや少ない	やや多い	平年並み	(36)
11,300	54,100	...	...	...	...	(37)
...	...	多 い	やや少ない	多 い	やや不良	(38)
...	...	やや多い	少 ない	やや少ない	やや良	(39)
12,800	62,800	やや少ない	やや少ない	やや少ない	やや良	(40)
13,900	70,300	やや多い	平年並み	平年並み	平年並み	(41)
11,500	54,100	...	...	...	...	(42)
...	...	多 い	やや少ない	多 い	やや不良	(43)
...	...	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(44)
35,100	179,000	多 い	やや少ない	やや多い	平年並み	(45)
24,400	132,000	多 い	やや少ない	多 い	やや不良	(46)
11,600	58,000	多 い	やや少ない	やや多い	やや不良	(47)
32,200	169,100	多 い	やや少ない	やや多い	平年並み	(48)
20,900	106,200	平年並み	平年並み	やや多い	やや不良	(49)
15,000	75,800	...	...	...	...	(50)
...	...	やや多い	やや少ない	やや多い	やや良	(51)
...	...	平年並み	やや少ない	やや少ない	やや良	(52)
19,600	98,400	...	...	...	...	(53)
...	...	やや多い	やや多い	多 い	やや良	(54)
...	...	やや多い	やや少ない	やや多い	平年並み	(55)
727	2,250	...	...	...	...	(56)
...	...	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み	(57)
...	...	...	...	...	...	(58)

- 4 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む。)から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等(備蓄米、加工用米、新規需要米等)の作付面積(平成29年9月15日現在)を除いた面積(見込み)である。
- 5 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の早期・普通期別等の主食用作付見込面積は、作期別に備蓄米、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「...」で示している。
- 6 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の県平均の「穂数の多少」以降の指標は、調査を早期・普通期別等に行っており県平均を取りまとめていないため、「...」で示している。

これまで、本資料に掲載していた以下の情報については、別冊「資料編」に掲載いたしました。

## (別冊)「資料編」の目次

I	在庫情報	
	平成27・28年産の産地別民間在庫の推移 (うるち米、平成28年7月末から29年6月末) (速報)	1
II	米の価格情報	
	業者間取引の状況	14
	① 日本コメ市場(随時取引の結果)	
	② 日本コメ市場・クリスタルライス(取引会の結果)	
	③ (株)加工用米取引センターの取引結果	
	④ 米の現物市場の状況	
III	主食用米以外(輸出を含む)	
	(1) 加工用米及び新規需要米の取組状況等	17
	① 加工用米の生産量	
	② 新規需要米の用途別認定状況	
	③ 加工用米・新規需要米等の取組状況(平成28年産、都道府県別)	
	(2) 飼料用米のマッチングの取組状況、配合飼料メーカーへの飼料用の供給等	19
	(3) 政府備蓄米の運営	20
	備蓄米の買入入札の結果(落札実績)(平成23~29年産)	
	(4) 商業用の米の輸出量及び金額の推移	21
	(5) 2016年の主な増加要因(輸出業者等からのヒアリング結果による)	22
	(6) 米菓の輸出量及び金額の推移	23
	(7) 日本酒(清酒)の輸出量及び金額の推移	24
IV	消費動向	
	(1) 米の消費動向(米穀機構による調査)	25
	(2) 小売価格の推移(POSデータ、主な銘柄)	28
V	その他	
	(1) 米取引関係者の判断(米穀機構による調査、平成29年9月分)	29
	(2) 平成28年産水陸稲の収穫量	34
	(3) 水稻作付面積及び収穫量等の年次別推移(全国)	37
	(4) 水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、 10a 当たり収量及び収穫量(子実用)の年次別推移	37
	(5) 麦・大豆の需要情報	39
	① 29年産麦の産地別銘柄別入札結果	
	② 28年産大豆の産地別銘柄別入札結果	
	(6) 野菜等の需給情報	45
	(7) 米の安定取引研究会報告書の概要	47

米に関するマンスリーレポート(本編・資料編)は、農林水産省のホームページからご覧いただけます。

(URL) <http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

大規模生産法人、農協等の皆様向けパンフレット



出展無料  
大規模生産法人、  
農協等の  
皆様へ

業務用途への安定取引に向けた

# 米マッチングフェア 2017

**産地**  
大規模生産法人、  
農協等

**実需者**  
中食・外食  
事業者等

**〔開催時期〕 平成29年9月～平成30年2月**  
〔開催場所〕 全国10か所（11回開催）  
札幌、仙台、さいたま、東京（2回）、金沢、名古屋、京都、大阪、岡山、熊本

家庭内での米の消費が減る一方で、中食・外食等における米の需要は伸びており、このような業務用途の米は、今後も堅調な需要が見込まれます。  
平成30年度米から行取による生産調整目標の配分がなくなる中で、今後一層、米産地の法人や農協等がユーザーである中食・外食事業者等と結びつき、当該事業者のニーズに添った生産を行い、複数年契約や増産前契約を締結するなど安定した取引につなげていくことが重要です。  
このような取引の拡大に向けて、業務用途への安定取引に取り組みたい米産地と中食・外食事業者とのマッチングを行う「米マッチングフェア2017」を全国各地で開催します。  
皆様、ぜひこのマッチングイベントに参加し、安定した米の販路を開拓しませんか？

主催・特別共催 トレイン・エス・ビー  
共催 イベントは、農協（農協連）主催、（平成28年度）米販出先調整の取組推進協議会（支援事務局）の場で  
「トレイン・エス・ビー」が主催。  
お問い合わせ先  
株式会社 トレイン・エス・ビー  
〒113-0034 東京都文京区湯島2-12-5 湯島ビル3F  
Tel: 03-3816-0672 Fax: 03-3816-0706  
E-mail: kome-matching@train.co.jp  
米マッチングフェア2017事務局 末田、小林

## 米マッチングフェア2017 産地向け募集説明会 のご案内

### 産地向け募集説明会 開催スケジュール

- 【開催スケジュール】  
（※会場とも）受付 13:00 開催 13:30～16:00
- 札幌会場** 平成29年6月23日(金) (北海道農政事務所 大会議室)  
北海道札幌市中央区南22条6-3-22 エムスエムビル2010F
  - 仙台会場** 平成29年6月29日(木) (東北福祉大学 合同庁舎講堂)  
宮城県仙台市青葉区本町3-3-1 合同庁舎4棟5F
  - さいたま会場** 平成29年6月20日(火) (国庫建設局 共用小中教室5C)  
埼玉県さいたま市中央区新緑ビル1 さいたま市教育センター2号館5F
  - 東京会場** 平成29年6月27日(火) (TKP 神田ビジネスセンター ANNEX ホール8E)  
東京都千代田区神田東上町1 住友信託銀行ビル8F
  - 金沢会場** 平成29年7月20日(木) (TKP 金沢ビジネスセンター カンファレンスルーム9A)  
石川県金沢市上町1-33 アパルメントビル9F
  - 名古屋会場** 平成29年7月14日(金) (明治建設局 第1会議室)  
愛知県名古屋市中区三の丸1-2-2 明治建設局1F
  - 京都会場** 平成29年7月12日(火) (TKP 京都市東区九条カンファレンスセンター カンファレンスルーム12)  
京都府京都市下京区九条寺町東通入町西町2番 コーポレートビル1F
  - 大阪会場** 平成29年7月11日(火) (TKP 新大阪カンファレンスセンター カンファレンスルーム6A)  
大阪府大阪市淀川区宮原4丁目-4 KOX新大阪ビル1F
  - 岡山会場** 平成29年7月24日(月) (中国四国建設局 会議室A・B)  
岡山県岡山市北区下石井1-4-1 中国四国建設局
  - 熊本会場** 平成29年7月5日(水) (TKP ガーデンシティ熊本 本館101)  
熊本県熊本市中央区下里1-7-10 ガーデンシティ熊本本館5F

**産地向けの募集説明会に参加希望される方へ**  
産地向けの募集説明会は、平成29年の月より開始会とセミナーの順番に、産地（大規模生産法人、農協等）の皆様を対象に開催いたします。  
当日は、工場より9月からの納品先セミナーの参加に際しての募集説明をはじめ、昨今の業務向け米の動向や参加される方に有益なPR等様々なお話をさせていただきます。  
参加希望の方は、募集説明会の日程をご確認の上、参加希望日程日の1週間前までに募集の申し込み書をファックスまたはメールにてお申込みください。  
なお、募集説明会に参加される方は優先的に、展示商談会出席券として登録しますので、ご参加のほどよろしくお願いたします。  
※この募集説明会は、各産地の農協・プロダクトの会場でご参加いただけます。  
但し、事情等によりお近くの会場でも参加が可能な場合がありますので、ご確認ください。

**展示商談会に参加希望される方へ**  
東京・大阪開催、地方開催の「展示商談会セミナー」を各ページのスケジュールで順次、行います。  
出席希望の生産者の方は、各回の参加申込書と日程をご確認ください。  
本産地と実需者による年契約、複数年契約の締結、長期的な取引に際する顔合わせです。  
本出展スペース：展示テーブル（180×60cm）を予定  
※小規模な場合は、資料です。ただし、そのほかの展示費、会場までの交通・宿泊費等は各自でご負担ください。  
※本産地別会場日、出席登録料がでる。出席登録料の納入、登録料を要いたします。  
※本産地別会場は、先着順となります。ご了承ください。  
※ご参加の際は、現地までお越しください。なお、ホームページにて詳細、最新情報をアップしますので、ぜひご覧ください。

米マッチングフェア2017

# 展示商談会・セミナー のご案内

**出展無料**  
大規模生産法人、  
農協等の  
皆様へ

## 展示商談会・セミナー（東京・大阪開催） 各2日間

### 【開催スケジュール】

**東京会場** (TRC東京流通センター)  
平成29年10月24日(火)・25日(水)  
10:00~16:00 出展費35,000円(予定)

**大阪会場** (マイドームおおさか)  
平成29年12月12日(火)・13日(水)  
10:00~16:00 出展費35,000円(予定)

**東京会場** (TRC東京流通センター)  
平成30年2月6日(火)・7日(水)  
10:00~16:00 出展費35,000円(予定)

- 展示商談会の内容
- 出展者コーナー
- 相談コーナー

- セミナー1部 11:00~12:00 2部 14:00~15:00
- 定数取付の成功事例、販路拡大に求められる米と米穀、豊富な経験を持つ方々の講演を予定

## 展示商談会・セミナー+現地交流会（地方開催） 各2日間

**18日** 各展示商談会 10:00~16:00 セミナー 1部 11:00~12:00 2部 14:00~15:00

- 展示商談会の内容
- 出展者コーナー
- 相談コーナー

- セミナー
- 定数取付の成功事例、販路拡大に求められる米と米穀、豊富な経験を持つ方々の講演を予定

### 28日 現地交流会

- 現地交流会
- 園地、ライスセンター等を視察し、産地の生産者との意見交換を行う

### 【開催スケジュール】

**札幌会場** (札幌コンベンションセンター)  
平成29年11月29日(水)・30日(木)

**名古屋会場** (吹上ホール)  
平成29年9月29日(金)・30日(土)

**仙台会場** (サンフエスタ)  
平成29年11月22日(水)・23日(木)

**京都会場** (みやこメッセ)  
平成29年9月20日(水)・21日(木)

**さいたま会場** (大宮ソニックシティ)  
平成29年9月6日(水)・7日(木)

**岡山会場** (コンベックス岡山)  
平成29年10月31日(火)・11月1日(水)

**金沢会場** (金沢流通会館)  
平成29年12月7日(木)・8日(金)

**熊本会場** (グランメッセ熊本)  
平成29年10月3日(火)・10月4日(水)



# 米マッチングフェア2017 産地向け募集説明会 の参加申込書

- 申し込み方法：①下記開催日の場所にご記入ください。
- ②本用紙に参加情報を記入のうえ、FAXまたはメールでお申し込みください。
- 申し込み締切：参加希望会期前の1週間前までにお申し込みください。

### 【注意事項】

※事務局からお申し込みいただいたままの通付手段 (FAXまたはメール) にて、後日受付完了のご連絡を差し上げます。  
メールでお申し込みいただく場合、参加者名、ご家族氏名など下記の情報をお送りください。  
※席は多く用意しておりますが、定数いっぱいになり次第受付終了とさせていただきます。あらかじめご了承ください。  
※参加費は無料です。但し会場までの交通費は自己負担となりますので、あらかじめご了承ください。  
※ご来場は、公共交通機関をご利用ください。 ※開催当日は、各種ご来場をご持参ください。

### ○ 開催場所チェック欄

- |   |  |   |   |
|---|--|---|---|
| <input type="checkbox"/> 札幌会場<br>6月23日(金) | <input type="checkbox"/> 仙台会場<br>6月29日(木)  | <input type="checkbox"/> さいたま会場<br>6月20日(火) | <input type="checkbox"/> 東京会場<br>6月27日(火) |
| <input type="checkbox"/> 金沢会場<br>7月20日(木) | <input type="checkbox"/> 名古屋会場<br>7月14日(金) | <input type="checkbox"/> 京都会場<br>7月12日(水)   | <input type="checkbox"/> 大阪会場<br>7月11日(火) |
| <input type="checkbox"/> 岡山会場<br>7月24日(月) | <input type="checkbox"/> 熊本会場<br>7月5日(水)   |   |   |

※一部の席に家族が来る場合はご記入ください。  
あらかじめご了承ください。

### ○ 参加者申し込み記入欄

フリガナ 会社・団体名	担当署名	役職
住 産 (〒 - )		
電話番号 ( ) ( )	FAX番号 ( ) ( )	
参加者 名	携帯電話 ( ) ( )	
	メールアドレス	

※ご記入いただいた個人情報は、米マッチングフェア事務局へ送付され、関係機関等に提供いたします。

【お問い合わせ】  
株式会社 グレイン・エス・ピー  
米マッチングフェア2017事務局：東田、小井  
〒113-0034 東京都文京区湯島2-12-5 湯島ビル3F  
Tel: 03-3816-0672 Fax: 03-3816-0708  
●メールで申し込み場合には kome-matching@grainsp.co.jp

米マッチングフェア2017 募集 https://kome-matching.com

FAXにてお申し込みください  
送信先FAX  
03-3816-0708

中食・外食事業者等の皆様向けパンフレット

業務用途への安定取引に向けた

# 米マッチングフェア2017

**産地**  
大規模生産法人、農協等

**実需者**  
中食・外食事業者等

**参加無料**  
※必ず事前登録を！  
中食・外食事業者等の皆様へ

【開催時期】

## 平成29年9月～平成30年2月

【開催場所】 全国10か所(11回開催)

### 札幌、仙台、さいたま、東京(2回)、金沢、名古屋、京都、大阪、岡山、熊本

家庭内での米の消費が減る一方で、中食・外食等における米の需要は伸びており、このような業務用途の米は、今後も堅調な需要が見込まれます。

平成30年度産米から行政による生産数量目標の配分がなくなる中で、今後一層、米産地の法人や農協等がユーザーである中食・外食事業者等と結びつき、当該事業者のニーズに応じた生産を行い、複数年契約や種類前契約を締結するなど安定した取引につなげていくことが重要です。

このような取引の拡大に向けて、業務用途への安定取引に取り組みたい米産地と中食・外食事業者等とのマッチングを行う「米マッチングフェア2017」を全国各地で開催します。

皆様、ぜひこのマッチングイベントに参加し、安定した米の供給先を開拓しませんか？

主催：株式会社グレイン・エス・ピー  
協賛：株式会社グレイン・エス・ピー  
お問い合わせ先：米マッチングフェア2017事務局  
〒115-0054 東京都文京区湯島2-19-8 湯島ビル3F  
Tel: 03-3481-0873 Fax: 03-3481-0108  
E-mail: kano\_matching@grayin.jp

来場される  
中食・外食  
事業者等の  
皆様へ

米マッチングフェア2017

## 展示商談会・セミナー のご案内

展示商談会・セミナー(東京・大阪) 各2日間

【開催スケジュール】

東京会場 TRC東京流通センター(東京都大田区平和島6-1-1)

平成29年10月24日(火)・25日(水)

東京会場 TRC東京流通センター(東京都大田区平和島6-1-1)

平成30年2月6日(火)・7日(水)

大阪会場 マイドームおおさか(大阪府大阪市中央区本町橋2-5)

平成29年12月12日(火)・13日(水)

各地 展示商談会 10:00～16:00(売り手約35ブース/日)

■展示商談会の内容

- 販路開拓の成功事例、実需者に求められる米とは等、豊富な業務を持つ各々の相談を予定
- 出展紹介コーナー(出展者に目標の米産地、農協等)

セミナー 1部 11:00～12:00 2部 14:00～15:00(各100名)

■セミナー

■ 販路開拓の成功事例、実需者に求められる米とは等、豊富な業務を持つ各々の相談を予定



販路開拓セミナー



セミナー

展示商談会に来場される方へ

本会場と東京会場による事前契約、複数年契約の締結等、長期的な取引を目的に開催する展示商談会です。本主催をご理解いただける方々のご来場を希望しております。※ご不明な方は、事務局までお問い合わせください。なお、ホームページにて日時、開催場所をアップしますので、ぜひご覧ください。



来場される  
中食・外食  
事業者等の  
皆様へ

※マッチングフェア2017

# 展示商談会・セミナー のご案内

## 展示商談会・セミナー+現地交流会(地方8ヶ所) 各2日間

- 【開催スケジュール】
- 札幌会場 札幌コンベンションセンター(北海道札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1)  
平成29年11月29日(水)・30日(木)
  - 仙台会場 サンフェスタ(宮城県仙台市若林区郡町2丁目15-2)  
平成29年11月22日(水)・23日(木)
  - さいたま会場 大宮ソニックシティ(埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5)  
平成29年9月6日(水)・7日(木)
  - 金沢会場 金沢流通会館(石川県金沢市問屋町2丁目61番)  
平成29年12月7日(木)・8日(金)
  - 名古屋会場 吹上ホール(愛知県名古屋市中区吹上2-6-3)  
平成29年9月29日(金)・30日(土)
  - 京都会場 みよこメッセ(京都市京都市右京区岡崎成徳寺町9-1)  
平成29年9月20日(水)・21日(木)
  - 岡山会場 コンベックス岡山(岡山県岡山市北区大井町675)  
平成29年10月31日(火)・11月1日(水)
  - 熊本会場 グランメッセ熊本(熊本県上益城郡益城町福岡1010)  
平成29年10月3日(火)・10月4日(水)
- 1日目 各展示商談会 10:00~16:00 (売り手約25ブース/日)  
セミナー 1部 11:00~12:00 2部 14:00~15:00

■展示商談会の内容

- 展示コーナー(個別商談のコーナーを併用)
- 出展紹介コーナー(出展者ご自身のお米紹介、試食等) 豊富な産産を持っつ々の産産を予定

■セミナー

- 特別契約の成功事例 産産者に求められる米とは等
- 出展紹介コーナー(出展者ご自身のお米紹介、試食等) 豊富な産産を持っつ々の産産を予定

2日目 現地交流会 10:00~16:00 50名(1日目の開催地からバスで現地へ移動します)  
(現地の産産状況により開催は変更する場合があります)

■現地交流会  
現地の産産、ライスセンター等を視察し、現地の生産者や農産関係者等との  
意見交換を行い取引の発展を深めています。

中食・外食事業者等の皆様へ ※マッチングフェア2017

# 展示商談会・セミナーの来場申込書

【申し込み方法】

①下記開催日の会場別に☑を、また参加予定人数をご記入ください。(複数可)

②本用紙に必要事項をご記入の上、FAXまたはメールで「 Matchingフェア2017」にお申し込みください。

【申し込み時期】  
来場希望日時の1週間前までに必ず申し込みください。  
※申し込み締め切りの場合は9月30日まで

○東京・大阪 来場予定チェック欄

会社・団体名	〒	東京会場 (10/24~25)	大阪会場 (12/12~13)	東京会場 (2/6~7)
担当者名	( )	<input type="checkbox"/> 名	<input type="checkbox"/> 名	<input type="checkbox"/> 名
住所	( )	<input type="checkbox"/> 名	<input type="checkbox"/> 名	<input type="checkbox"/> 名
電話番号	( )	<input type="checkbox"/> 名	<input type="checkbox"/> 名	<input type="checkbox"/> 名
FAX番号	( )	<input type="checkbox"/> 名	<input type="checkbox"/> 名	<input type="checkbox"/> 名
メールアドレス	( )	<input type="checkbox"/> 名	<input type="checkbox"/> 名	<input type="checkbox"/> 名
携帯番号	( )	<input type="checkbox"/> 名	<input type="checkbox"/> 名	<input type="checkbox"/> 名

※記入した住所は、来場予定の会場へお申し込みの住所として利用させていただきます。

## ○地方 来場予定チェック欄 (18日：展示商談会・セミナー、28日：現地交流会)

札幌会場 (11/29~30)	仙台会場 (11/22~23)	さいたま会場 (9/6~7)	金沢会場 (12/7~8)	名古屋会場 (9/29~30)	京都会場 (9/20~21)	岡山会場 (10/31~11/1)	熊本会場 (10/3~4)
<input type="checkbox"/> 名	<input type="checkbox"/> 名	<input type="checkbox"/> 名	<input type="checkbox"/> 名	<input type="checkbox"/> 名	<input type="checkbox"/> 名	<input type="checkbox"/> 名	<input type="checkbox"/> 名

注意 各会場からお申し込みいただきました参加手続(FAXまたはメール)にて、開催日の1週間前までに、確認のご連絡を差し上げます。  
メールでお申し込みいただく場合、参加者名、ご連絡先など下部の欄を必ず記載してください。  
主催の協議会の会費には、自由にお入りいただけますが、セミナー会場、現地交流会会場費に限りがございますので、申し込み  
費で締め切らせていただく場合がございます。あらかじめご了承ください。  
※参加費は別紙です。申し込みまでの交通費は自己負担をお願いいたします。また、地方開催での3日目の現地交流会に参加され  
る方は、宿泊費、自己負担となりますので、あらかじめご了承ください。  
※ご来場は、公共交通機関をご利用ください。開催当日は、各種バスをご利用ください。

【お問い合わせ】  
株式会社 グレイブ・エス・ピー  
来場申込センター 2017  
〒113-0034 東京都文京区湯島2-12-5 湯島ビル4F  
Tel: 03-3816-0672 Fax: 03-3816-0708  
●メールで申し込みの際は  
kome-matching@grainsp.co.jp

【詳しくはホームページをご覧ください】  
来場申込センター 2017 <https://kome-matching.com>  
FAXにてお申し込みください  
送信先 FAX  
03-3816-0708

飼料用米を活用した畜産物のブランド力強化を進めるため、飼料用米を生産する農家と連携しながら、従来の畜産物より付加価値を向上させて飼料用米活用畜産物を販売している畜産事業者を表彰する「飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト」が開催されます。

## 飼料用米活用畜産物ブランド 日本一コンテストを開催!!

田んぼ発

募集中! 平成29年8月~11月末



お米で育った畜産物

※ロゴマークを全国に普及する取組を行っています!!

飼料用米を活用した畜産物のブランド化による販売力向上等の取組を実践している畜産事業者を表彰し、広く紹介するため「飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト」を開催します。

### ●応募について (詳しくは応募用紙を参照下さい)

- ・飼料用米を活用した畜産物をブランド化し販売している畜産事業者
- ・飼料用米の給餌割合が一定以上であること 等

※ 応募様式等詳細は以下HPでもご覧いただけます。

### ●開催スケジュール

- ・ 応募期間 平成29年8月~11月末日
- ・ 審査委員会 平成30年1月~2月
- ・ 表彰式 平成30年3月上旬 (東京都内)

### ●褒賞

- ・ 農林水産大臣賞 ・ 政策統括官賞
- ・ 全国農業協同組合中央会 会長賞
- ・ 公益社団法人中央畜産会 会長賞



### ●応募先及びお問い合わせ先

主催者：一般社団法人日本養豚協会 (担当、山梨・倉本)  
住 所：〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-27-15 高栄ビル2階

連絡先：TEL 03 (3370) 5473 FAX 03 (3370) 7937  
メール：yamanashi@pig-pins.com (問い合わせ先等)  
H P：飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト アドレス  
→ <http://okome-sodachi.jp/index.html>